

木津川市
男女共同参画に関するアンケート調査
結果報告書

令和 2 年 5 月

木津川市

目 次

I 調査の概要	3
1. 調査の目的.....	3
2. 調査対象者.....	3
3. 調査の方法.....	3
4. 回収の状況.....	3
5. 調査の項目.....	4
6. その他留意点	4
II 調査結果の概要	5
1. 市民アンケート結果の概要.....	5
2. 事業所アンケート結果の概要	11
III 市民アンケートの結果	13
1. 回答者の属性	13
2. 家庭生活について	19
3. 子育て・教育について	40
4. 地域活動・防災について	46
5. 仕事について	54
6. ドメスティック・バイオレンス、ハラスメントなどについて.....	60
7. 男女共同参画社会について.....	73
8. 自由記述.....	94
IV 事業所アンケートの結果	95
1. 事業所の概要	95
2. 女性の登用について.....	97
3. 男女がともに働きやすい環境について	100
4. 育児・介護との両立支援について	103
5. 男女共同参画に関する今後の取組について.....	105
V 資料（調査票等）	106
1. インターネットによる回答方法	106
2. 市民調査票.....	107
3. 事業所調査票	113

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、木津川市における男女共同参画社会の構築を目指して、市民の生活等の実態や男女共同参画社会に関する意識を調査し、木津川市にふさわしい男女共同参画計画の策定と今後の施策展開の基礎資料とすることを目的として実施した。

2. 調査対象者

■市民アンケート

市民 3,000 人（18 歳以上）

【選定方法】 住民基本台帳及び外国人登録原票から、無作為抽出した。

【抽出条件】 抽出基準日：令和 2 年 1 月 1 日

■事業所アンケート

市内事業所 200 社

【選定方法】 平成 28 年「経済センサス_活動調査」（総務省）データから無作為抽出した。

【抽出条件】 従業員数 6 人以上でかつ女性従業員及び男性従業員がそれぞれ 2 人以上

3. 調査の方法

調査は無記名とし、令和 2 年 2 月 3 日（月）～2 月 24 日（月）を調査期間として、郵送で調査票を配布し、郵送及びウェブにより回収した。

4. 回収の状況

■市民アンケート

	配布数	回収数		有効回収数		有効回収率
				郵送	ウェブ	
女性	1,500 件	556 件	556 件	489 件	67 件	37.1%
男性	1,500 件	454 件	454 件	368 件	86 件	30.3%
性別を回答しない ・不明	-	8 件	7 件	6 件	1 件	-
全体	3,000 件	1,018 件	1,017 件	863 件	154 件	33.9%

■事業所アンケート

	配布数	回収数		有効回収数		有効回収率
				郵送	ウェブ	
事業所	200 件	87 件	87 件	83 件	4 件	43.5%

5. 調査の項目

■市民アンケート

1. 回答者の属性
2. 家庭生活について
3. 子育て・教育について
4. 地域活動・防災について
5. 仕事について
6. ドメスティック・バイオレンス、ハラスメントなどについて
7. 男女共同参画社会について
8. 自由記述

■事業所アンケート

1. 事業所の概要
2. 女性の登用について
3. 男女がともに働きやすい環境について
4. 育児・介護との両立支援について
5. 男女共同参画に関する今後の取組について

6. その他留意点

- ・図表中の「n (number of case)」は、回答者総数または分類別の回答者数を示すものである。
- ・回答結果の割合「%」は、回答者総数（n）に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものである。そのため、単数回答であっても合計値が100.0%にならない場合がある。
- ・複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示し、そのため、合計が100.0%を超える場合がある。
- ・図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものである。

Ⅱ 調査結果の概要

1. 市民アンケート結果の概要

【家庭生活について】

(1) 性別役割分担意識（問7）

男女の固定的な性別役割分担に対して、『否定的』（「同感しない」と「どちらかといえば同感しない」の合計）な人は62.8%で、『肯定的』（「同感する」と「どちらかといえば同感する」の合計）な人の割合（35.8%）を大きく上回っている。

性別でみると、女性は『否定的』な人の割合が男性より8.7ポイント高くなっている。

前回調査とは選択肢の表現が異なるため参考比較となるが、「同感する」の回答は男女とも10ポイント程度低くなっている。性別役割分担を明確に肯定する人の割合は大きく減少している。

(2) 家庭内の役割分担の理想と実際（問8・問9）

家庭内のことがらを男女のどちらがするかについて、理想では、いずれのことがらも4割以上の人が「男性と女性が同じ程度」と回答しているが、実際に同じ程度行っているのは、「町内会や地域の活動」の20.3%が最も高く、他のことがらは2割に満たない状況である。

家事や買い物については、理想でも3～4割は「主に女性で男性は補助程度」と回答しており、生活費を得るのは「主に男性で女性を補助程度」の回答が5割近い。ただし、実際には家事や買い物は「いつも女性」の割合が高く、「生活費を得る」は「いつも男性」の割合が高くなっており、男女の役割に偏りがみられている。「町内会や地域の活動」のみ「男性と女性が同じ程度」が他のことがらに比べて高いほかに、女性が主に行う割合と男性が主に行う割合がほぼ同程度である。

(3) 「仕事」「家庭生活」「プライベート（趣味や学習・社会参加活動・地域活動）」の関わり方の希望と現実（問10）

男女ともに希望では「仕事」「家庭生活」「プライベート（趣味や学習・社会参加活動・地域活動）」のうち複数のことを優先したいと考える人が多数を占めるが、現実には複数のことを優先できている割合は低くなっている。希望に比べて現実には、女性は「仕事」または「家庭生活」を、男性は「仕事」を優先している割合が高い。

前回調査と比較すると、男女とも希望では、「仕事」「家庭生活」「プライベート（趣味や学習・社会参加活動・地域活動）」のうち複数のことを優先したいと考える人の割合が高くなっている。なかでも「家庭生活とプライベート」の増加幅が男女とも大きく、「仕事、家庭生活、プライベート全て」も増加している。

現実では、「家庭生活」「プライベート（趣味や学習・社会参加活動・地域活動）」のうちどれかひとつを優先している人全体の割合は、男女とも前回調査と大きく変わっていないが、複数のことを優先できている人の割合は増加している。

(4) 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと（問11）

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」（57.4%）、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」（52.0%）、「男性による家事・育児などに

ついて、職場における上司や周囲の理解を進めること」(48.9%)の順で回答割合が高く、男女の傾向も同様である。

ほとんどの項目で女性の回答割合が男性より高く、特に「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」と「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」は10ポイント以上の差となっている。

【子育て・教育について】

(1) 子どもにどのように育ってほしいか(問12)

女の子と男の子に対する期待で差が大きいのは、「経済的な自立ができるように」が男の子に対しては82.1%の人が挙げているが、女の子に対しては63.1%であり、19.0ポイントの差がみられている。他にも「責任感をもてるように」(女の子:61.0%、男の子:72.7%)、「自分の考えを人前ではっきり言えるように」(女の子:54.3%、男の子:65.2%)など、いわゆる“男らしさ”とされる項目は、男の子に対してより強く期待されている。

一方、「やさしさと思いやりをもてるように」(女の子:78.7%、男の子:67.3%)は、女の子の方が11.4ポイント高いなど、女の子と男の子では期待することがやや異なっていることがわかる。

性別でみると、女の子と男の子それぞれに対して期待することにやや違いがあるのは、男女とも共通しているが、女の子と男の子を通じて、ほとんどの項目において男性より女性の方が回答割合が高くなっている。

(2) 男女共同参画を進めるために子どもへの教育において必要なこと(問13)

全体では、「男女ともに、経済的自立の意識をもつよう働きかける」(61.8%)、「進路や職業選択において多様な選択肢にふれる機会を与える」(56.6%)、「男女ともに、家事能力が身につくような経験をさせる」(56.3%)、「男女がともに家庭の責任を果たすことの大切さを教える」(55.7%)の順で高くなっているが、女性では「男女ともに、家事能力が身につくような経験をさせる」(64.4%)が最も高く、男性の回答に比べて17.5ポイント上回っている。

他に男女で回答の差が大きいのは「幼児のときから自分の心とからだを大切にする意識を育み、いじめや暴力から自分を守る力を育てる」(女性:46.2%、男性:34.4%)が挙げられる。

【地域活動・防災について】

(1) 地域活動の参加状況(問14)

参加している地域活動は、全体では「町内会、PTA、子ども会などの活動」が45.9%で最も高く、次いで「趣味やスポーツのグループ活動など」が26.5%となっている。「地域活動に参加していない」は34.7%である。

性別による違いはほとんどみられず、年齢による違いが大きい。

「町内会、PTA、子ども会などの活動」は、女性の40歳代から60歳代、男性の50歳代、60歳代は半数以上が参加している一方、男女とも10・20歳代では1割余りである。「趣味やスポーツのグループ活動など」は女性の60歳代、70歳以上と男性の70歳以上が他の年齢に比べて高くなっている。男女とも10・20歳代は「地域活動に参加していない」が7割前後となっている。

（２）地域活動に参加する際に支障となること（問 15）

男女とも「仕事が忙しいこと」（女性：32.9%、男性：43.6%）が最も高く、次いで女性では「家事・育児・介護が忙しいこと」（23.6%）が、男性では「活動する仲間がいないこと」（19.6%）がそれぞれ高くなっている。

「仕事が忙しいこと」は、男性が女性より 10 ポイント以上高く、「家事・育児・介護が忙しいこと」は、女性が男性より 10 ポイント以上高くなっている。」また、「活動する仲間がいないこと」と「活動情報がないこと」はいずれも男性が女性より約 7 ポイント高くなっており、地域活動参加の支障に男女の違いがみられている。

（３）女性が地域活動のリーダーになるために必要なこと（問 16）

「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」（女性：36.3%、男性：41.4%）、次いで「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」（女性：27.2%、男性：36.8%）、「社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること」（女性：23.9%、男性 34.8%）の順に高くなっており、男女の順位は同じである。

いずれの項目も女性より男性の回答割合が高くなっており、「社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること」と「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」は約 10 ポイント高くなっている。

（４）防災・災害復興対策において性別に配慮した対応が必要なこと（問 17）

全体では、「避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗たく物干し場等）」（83.0%）、「災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポート事業）」（59.9%）、「避難所の設計・運営に男女がともに参画し、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」（55.0%）の順となっている。

男女で回答の違いはほとんどみられない。

【仕事について】

（１）女性の就労についての考え方（問 18）

「出産後は一時家庭に入り、育児が終われば再び仕事に就く方がよい」（女性：41.2%、男性：49.3%）が最も高く、次いで高い「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」（女性：37.2%、男性：34.8%）の 2 つでほぼ 8 割を占めるのは男女とも同様である。違いとしては、女性は男性に比べて、「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」がやや高く、男性は女性に比べて、「出産後は一時家庭に入り、育児が終われば再び仕事に就く方がよい」が高くなっている。

（２）今の職場・仕事に対する不満や悩み（問 19）

全体では「収入が少ない」（33.9%）を 3 人に 1 人が挙げており、他の不満や悩みと比べて高くなっている。

男女で回答に 5 ポイント以上の違いがみられるのは、男性の方が高い「労働時間が長い、労働時間が不規則」、女性の方が高い「身体的負担が大きい」が挙げられる。

（３）今後の就労意向（問 20）

現在働いていない人のうち就労意向のある（「すぐにでも働きたい」と「条件が整えば働きたい」の合計）人の割合は、女性が 42.8%、男性が 33.4%となっている。女性の 30 歳代と 40 歳代では 8 割以上が就労意向を示している。

（４）現在、働いていない理由（問 21）

働いていない理由は、男性は「希望の雇用形態に合う仕事が見つからない」（44.4%）、「自分の健康に不安がある」（38.9%）が高く、女性では「子どもが小さいうちは自分で世話をしたい」（35.9%）、「自分の健康に不安がある」（33.3%）が高くなっている。

【ドメスティック・バイオレンス、ハラスメントなどについて】

（１）ＤＶにあたる行為を受けた経験（問 22）

ＤＶにあたる行為の経験は、精神的暴力はいずれも男女で同程度の回答となっているが、「ののしる、おどす、ばかにするなどの言葉の暴力」「なぐる、ける、物を投げるなどの身体的暴力」は女性が 5 ポイント以上高くなっている。

「恐怖を感じる行為を受けたことがない」は、男性は約 7 割、女性は約 6 割となっている。

性年齢別にみると、女性の 50 歳代は、「ののしる、おどす、ばかにするなどの言葉の暴力」「なぐる、ける、物を投げるなどの身体的暴力」が、ともに 1 割を超えており、他の年齢に比べて高くなっている。

（２）ＤＶの相談状況（問 23、問 24）

女性は、3 割程度が「家族・親族に相談した」「同僚や友人に相談した」と回答しているが、男性では 1 割程度である。それ以外に相談した人はわずかである。

相談しなかった理由としては、女性では約 4 割が「相談しても無駄だと思ったから」を挙げており、男性では「相談するほどのことではないと思ったから」が約 4 割の回答となっている。

「人に知られたくないから」と躊躇する意識や「相談しても自分の責任にされと思ったから」と二次被害を心配する意識は女性の方が強い傾向である。

（３）ハラスメント等を受けた経験（問 25）

様々なハラスメントの経験の有無では、パワー・ハラスメントは男性の方が高くなっているが、それ以外のセクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント、ストーカー行為はいずれも女性の方が高くなっている。

いずれも経験がないと回答した人は、男性が 65.2%に対して、女性は 52.3%で 10 ポイント以上の差がみられている。

年齢別でみると、「異性に体をさわられた・卑猥な話を聞かされる」「結婚や異性との交際についてしつこく聞かれる」は、女性の若い年代で被害の経験が高い。男性は、70 歳以上を除くと年齢が上がるほどパワー・ハラスメントを受けた経験が高くなっている。また、女性のなかでも 40 歳代と 50 歳代は、男性と同じ程度かそれ以上にパワー・ハラスメントを受けた経験が高くなっている。

（４）主に女性が被害にあっている問題の認知度（問 26）

近年、社会問題化している様々な女性に対する暴力の問題は、全体では「よく知っている」と回答した人はいずれも 1 割前後である。認知度（「よく知っている」「少しは中身を知っている」「言葉は聞いたことがある」の合計）は、「デートレイプドラッグ」以外は 5 割を超えている。

性別でみると、いずれの問題も「よく知っている」は男性が高くなっており、「デートDV」以外はいずれも男性の方が認知度は高い。

年齢別でみると、男女とも概ね 50 歳代以下の若い年齢層の認知度が高い傾向である。

【男女共同参画社会について】

（１）各分野の男女の地位の平等感（問 27）

全体では、「学校教育の場」と「地域」は「平等になっている」の回答割合が高いが、それら以外の分野では『男性優遇』（「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）がいずれも 5 割を超えている。なかでも、「政治の場」（82.4%）、「社会通念・慣習・しきたり」（80.1%）、「雇用の機会や職場」（75.2%）は特に高くなっている。その結果、社会全体では 78.3%が『男性優遇』と回答している。

性別でみると、すべての分野で女性の方が『男性優遇』と感じる割合は高くなっている。

前回調査とは選択肢が一部異なるため参考比較となるが、「家庭生活」以外の分野では『男性優遇』がいずれも増加しており、なかでも「政治の場」と「法律や制度の上」の増加幅が大きくなっている。

（２）男女共同参画に関する用語の認知度（問 28）

全体では、「男女共同参画社会」は、認知度（「内容まで知っている」と「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の合計）が 8 割を超えており、最も高くなっている。「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」「ジェンダー」も約 7 割で高い。この 3 項目は「内容まで知っている」人が 3 割前後となっている。比較的最近制定された法律である「女性活躍推進法」と「③候補者男女均等法」のいずれも半数以上が認知しているのに対して、「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」の認知度は 3 割未満と低くなっている。

性別でみると、「ジェンダー」以外の用語は男性の方が認知度が高くなっている。

前回調査と一部選択肢が異なるため参考比較となるが、比較できる項目のうち「男女共同参画社会」「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」「ジェンダー」は、いずれも認知度が大きく上昇している。一方で、「④ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」の認知度はほとんど変わっていない。

（３）この 10 年間の男女共同参画の変化（問 29）

この 10 年間の変化に対する評価は、「男女平等の考え方」と「職場における女性の活躍」は、いずれも『前進』（「前進した」と「どちらかといえば前進した」の合計）が 7 割近い評価である。

「地域活動における女性の活躍」「仕事と家庭・子育てなどの両立のしやすさ」「男性の子育て、介護への参加」は、『前進』がそれぞれ約 5 割の評価となっている。「DV など女性に対する暴力を

なくすための取組」と「行政などの相談窓口の充実」は、『前進』と「変わらない」がほぼ同程度であり、他の項目に比べて評価が低いといえる。

性別でみると、すべての項目において男性の方が『前進』の割合が高くなっている。女性の方が男性に比べてやや評価が厳しい傾向である。

（４）男女共同参画社会をめざして行政が取り組むべきこと（問 30）

全体では、「男女が子育てや介護をともに担える環境づくり」（43.7%）、「保育所や放課後学級の施設などを充実させること」（39.7%）、「育児休業・介護休業・看護休業などの制度の普及を図ること」（38.1%）の３項目が４割前後で高くなっている。

性別でみると、「男女が子育てや介護をともに担える環境づくり」は女性の方が男性より 15.0 ポイント高くなっている。男性で最も高い回答は「育児休業・介護休業・看護休業などの制度の普及を図ること」（39.9%）である。

2. 事業所アンケート結果の概要

【回答事業所の概要】

（１）従業員数・雇用形態（問２）

本調査に回答の得られた事業所全体で、管理職の女性割合は 19.7%となっている。

正規従業員の女性割合は 37.6%である一方、非正規従業員の女性割合は 65.4%となっている。

（２）育児・介護休業の取得状況（問３）

回答の得られた事業所全体で、直近３年間の育児休業取得者数は女性 73 人、男性 4 人となっている。介護休業取得者数は女性 5 人、男性 1 人である。

【女性の登用について】

（１）女性の雇用状況の変化（問４）

女性従業員数、女性管理職数ともに、「変わらない」が大半を占めているが、「増えている」は、女性従業員数で 18.4%、女性管理職数で 13.8%となっている。

（２）女性の雇用についての考え方（問５）

女性従業員数、女性管理職数ともに「増やしたい」と回答した事業所の割合は 35%程度となっている。

（３）女性の積極的登用のための取組の状況（問６）

既に取り組まれている割合が高い項目は、「勤務時間や担当業務などに本人の希望を反映する」と「職場環境の改善について意見要望を取り上げる」で、いずれも 6 割を超えている。

一方で、「女性従業員の人材育成を目的とした研修の実施」と「管理職を対象に女性従業員活用のための指導や研修の実施」は取り組まれている割合が低くなっている。

（４）女性を管理職に登用するうえでの課題（問７）

女性管理職の登用における課題で最も回答割合が高いのは、「出産、育児、介護等で離職する女性が多い」（40.2%）であり、女性が働き続けやすい職場であることが女性の管理職登用につながることをわかる。次いで「女性自身が管理職を望まない傾向がある」（35.6%）が挙げられている。

【男女がともに働きやすい環境について】

（１）企業認定・認証制度の認知度（問８）

「くるみんマーク」「えるぼし認定」「京都モデル」ワーク・ライフ・バランス認証」のいずれも「知らない」が 6 割を超えており、知らない事業所の方が多く、「取得済み」は 1 割未満である。「くるみんマーク」の認知度がやや高くなっている。

（２）ハラスメント防止のための取組の状況（問９）

「就業規則などにハラスメント防止の規定を設ける」（54.0%）が最も高く、次いで「事業所内

に相談窓口を設ける」(41.4%)となっている。その他の項目の回答割合は3割未満である。

「どれもない」(25.3%)が4社に1社となっているが、法改正により事業所に対して、ハラスメント対策の強化が求められていることから、今後の取組促進が必要となっている。

(3) ハラスメントなどの相談事例の有無 (問 10)

ハラスメントに関する相談事例は「いずれもない」の回答が7割を超えているが、パワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメントともに相談事例がみられている。

【育児・介護との両立支援について】

(1) 両立支援のための取組の状況 (問 11)

既に取り組まれている割合が高い項目は、「有給休暇の計画的な取得の推進」(72.4%)、「育児・介護における休業制度の導入」(62.1%)、「半日又は時間単位で取得できるような休暇制度」(56.3%)が挙げられる。

「休業中の情報提供など、職場復帰をしやすい配慮」「子育て・介護を理由に退職した従業員の再雇用制度」「⑦男性の育児休業・介護休業の取得の促進」では、既に取り組んでいるのは2~3割程度だが、今後の取組意向がいずれも4割台後半で高くなっている。

(2) 両立支援を推進するうえでの課題 (問 12)

従業員の両立支援推進の課題では、「育児休業や介護休業などによる代替要員の確保が難しい」(46.0%)が突出して高い。

さらに「日常的に労働時間が長い部門・事業所がある」(28.7%)、「全体的に休暇取得率が低い」(23.0%)に次いで、「公的及び民間の保育・介護サービスが不足している」(20.7%)と保育・介護サービスの不足が挙げられている。

【男女共同参画に関する今後の取組について】

(1) 男女がともに働きやすい環境をつくるために行政に対して希望すること (問 13)

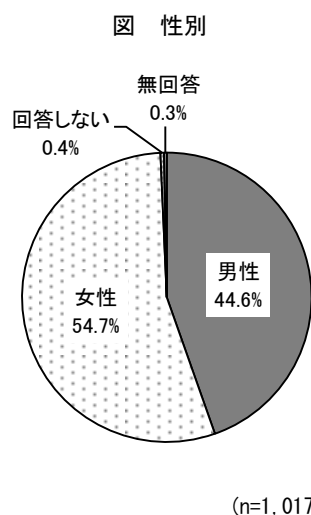
行政に対する希望は、「特に何もなし」(33.3%)が最も高いが、「結婚や出産、育児退職後の再就職及び能力開発の機会をつくる」(28.7%)、「男女共同参画に関して、事業所や労働者のための相談機能の充実を図る」(21.8%)が2割を超えている。

Ⅲ 市民アンケートの結果

1. 回答者の属性

(1) 性別

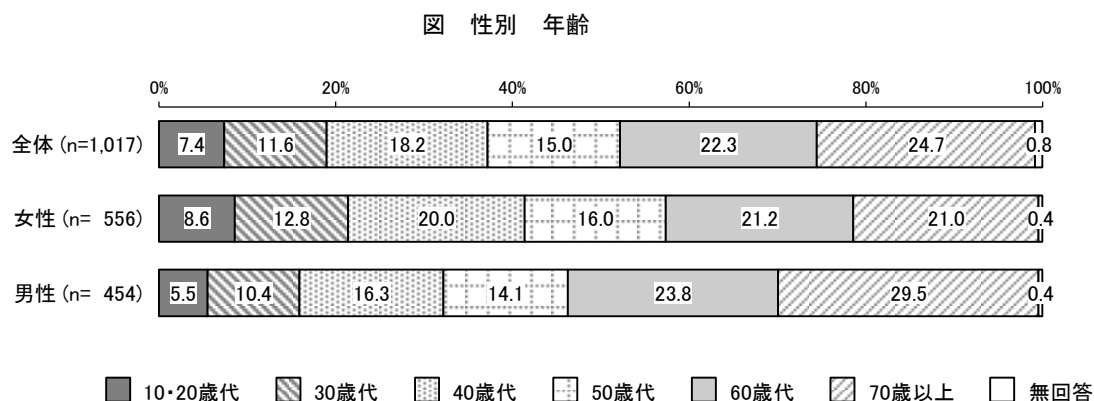
「女性」が 54.7%、「男性」が 44.6%、「回答しない」が 0.4%となっている。



(2) 年齢

「70 歳以上」が 24.7%で最も高く、次いで「60 歳代」が 22.3%、「40 歳代」が 18.2%、「50 歳代」が 15.0%、「30 歳代」が 11.6%、「10・20 歳代」が 7.4%となっている。

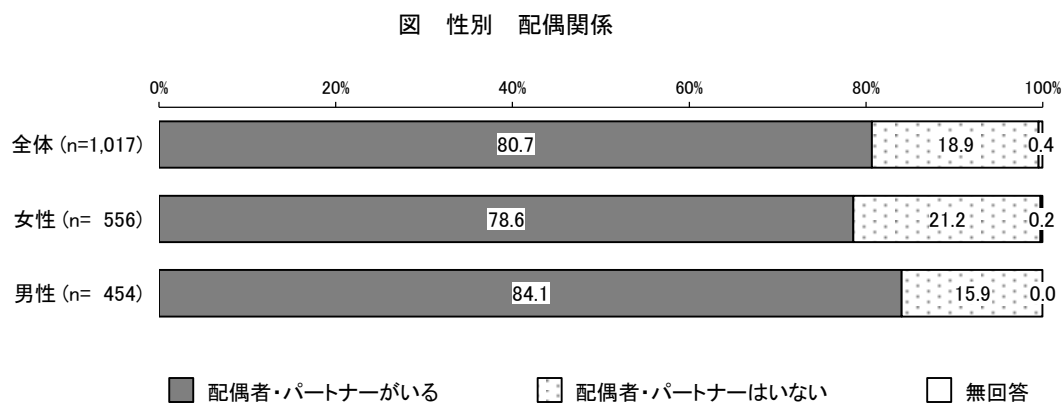
性別でみると、女性では「60 歳代」「70 歳以上」「40 歳代」が約 20%でほぼ同じ割合となっている。男性では「70 歳以上」が 29.5%で最も高く、次いで「60 歳代」が 23.8%となっており、60 歳以上が 5 割以上を占めている。



(3) 配偶関係

「配偶者・パートナーがいる」が80.7%、「配偶者・パートナーはいない」が18.9%となっている。

性別でみると、「配偶者・パートナーがいる」は女性が78.6%、男性が84.1%で、男性が5.5ポイント高くなっている。



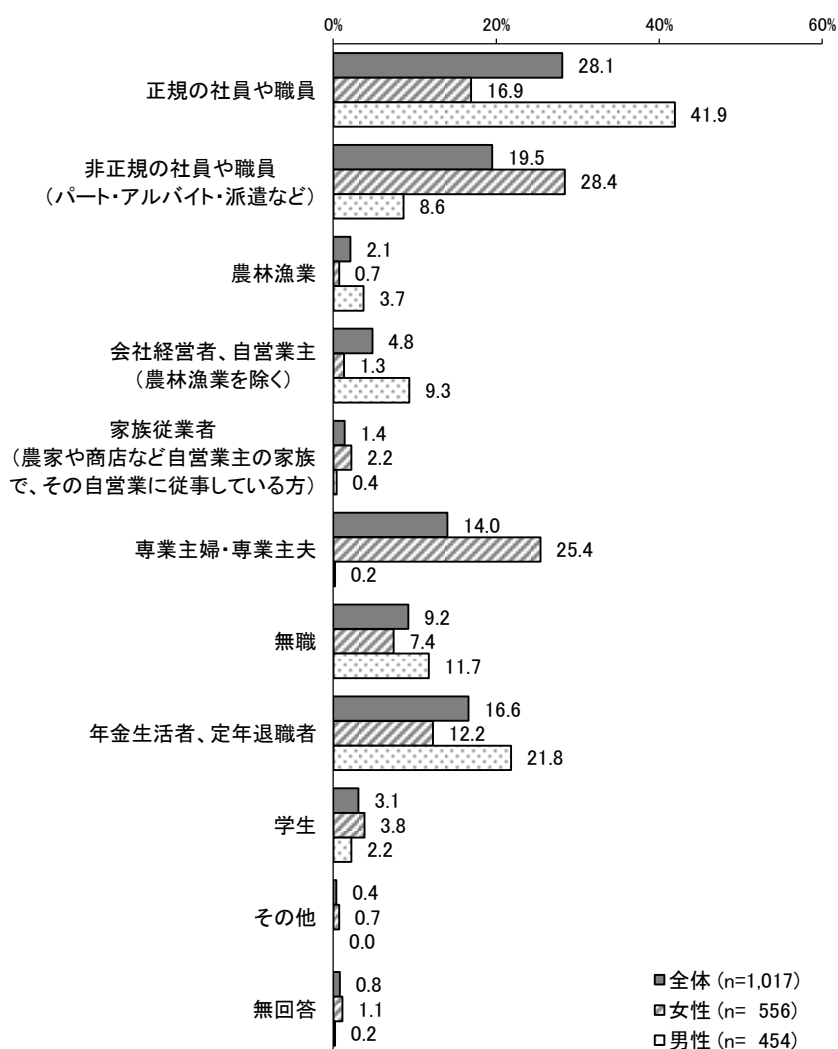
(4) 職業

本人の職業は「正規の社員や職員」が28.1%で最も高く、次いで「非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）」が19.5%、「年金生活者、定年退職者」が16.6%、「専業主婦・専業主夫」が14.0%となっている。

性別でみると、女性では「非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）」が28.4%で最も高く、次いで「専業主婦・専業主夫」が25.4%、「正規の社員や職員」が16.9%となっている。

男性では「正規の社員や職員」が41.9%で最も高く、次いで「年金生活者、定年退職者」が21.8%、「無職」が11.7%、「会社経営者、自営業主（農林漁業を除く）」が9.3%、「非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）」が8.6%となっている。

図 性別 本人の職業

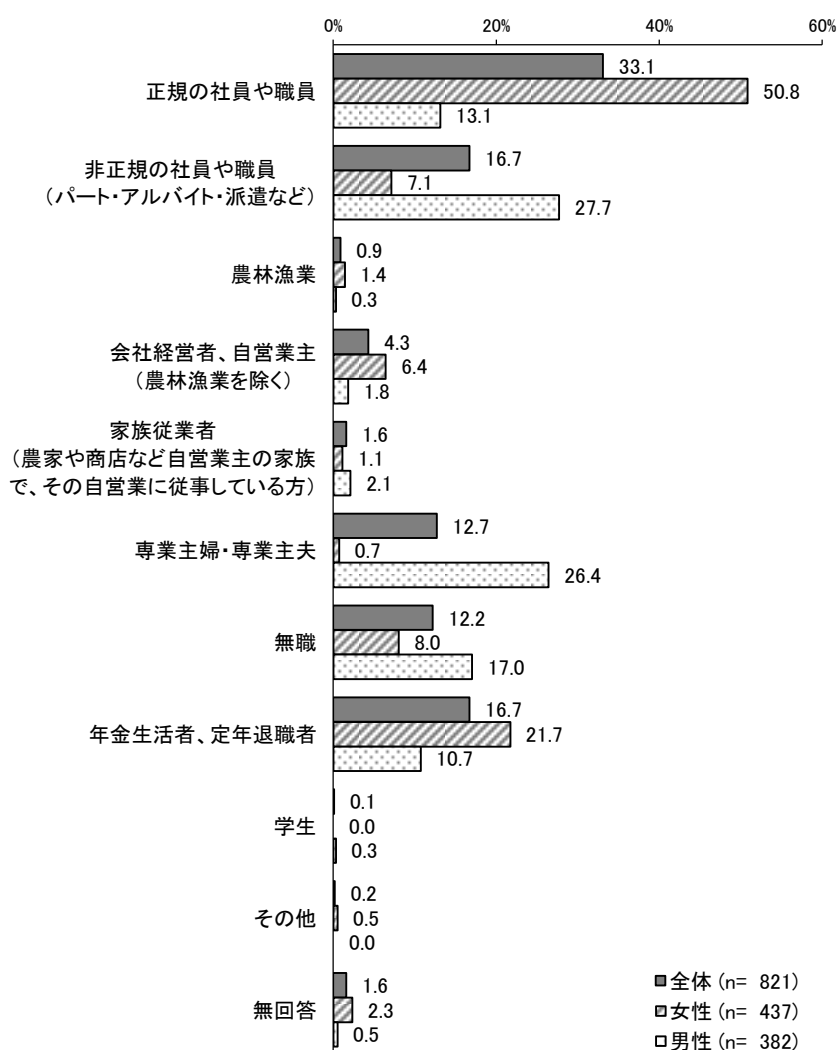


配偶者・パートナーの職業は「正規の社員や職員」が33.1%で最も高く、次いで「非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）」と「年金生活者、定年退職者」がともに16.7%、「専業主婦・専業主夫」が12.7%、「無職」が12.2%となっている。

性別でみると、女性では「正規の社員や職員」が50.8%で最も高く、次いで「年金生活者、定年退職者」が21.7%となっている。

男性では「非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）」が27.7%で最も高く、「専業主婦・専業主夫」が26.4%、「無職」が17.0%、「正規の社員や職員」が13.1%となっている。

図 性別 配偶者・パートナーの職業



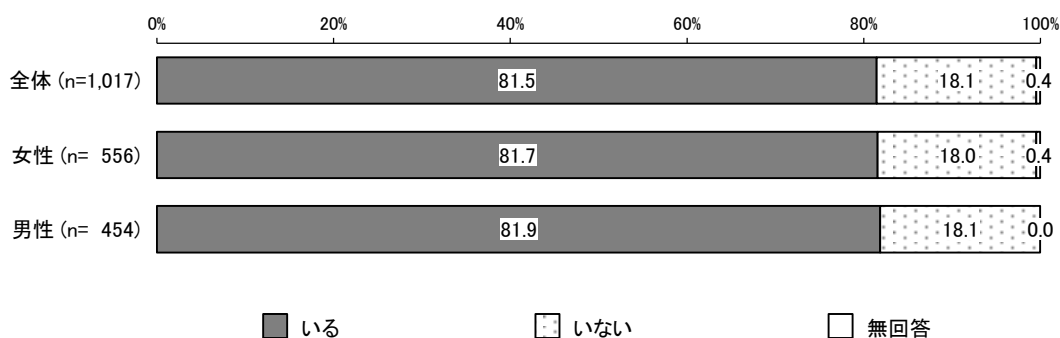
(5) 子どもの有無

問5. あなたにお子さんはいますか。(○は1つ)(別居・同居は問いません)

「いる」が81.5%、「いない」が18.1%となっている。

性別による大きな差異はみられない。

図 性別 子どもの有無

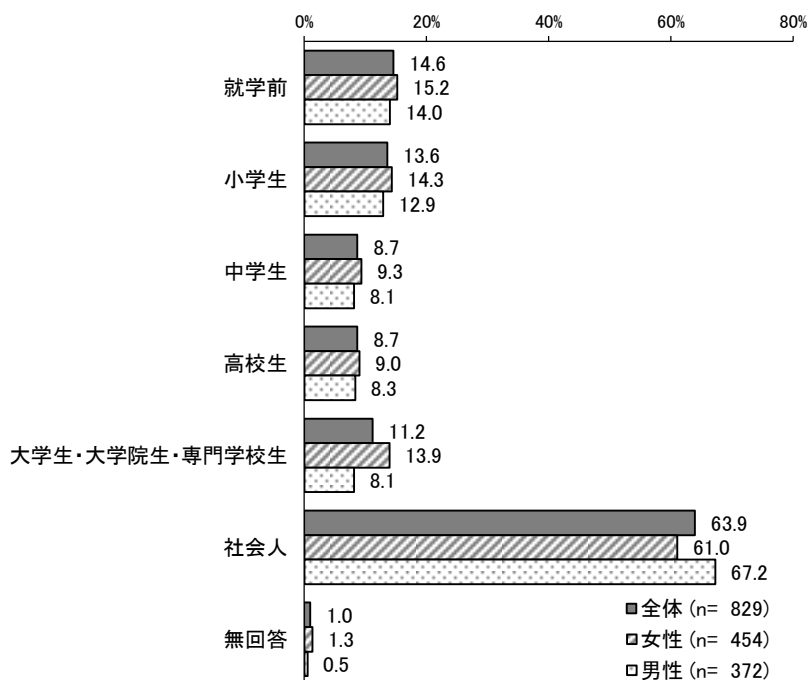


子どもの年代

「社会人」が63.9%で最も高く、次いで「就学前」が14.6%、「小学生」が13.6%、「大学生・大学院生・専門学校生」が11.2%、「中学生」と「高校生」がともに8.7%となっている。

性別でみると、「社会人」は女性が61.0%、男性が67.2%で男性が高く、「大学生・大学院生・専門学校生」は女性が13.9%、男性が8.1%で女性が高くなっている。

図 性別 子どもの有無 - 子どもの年代



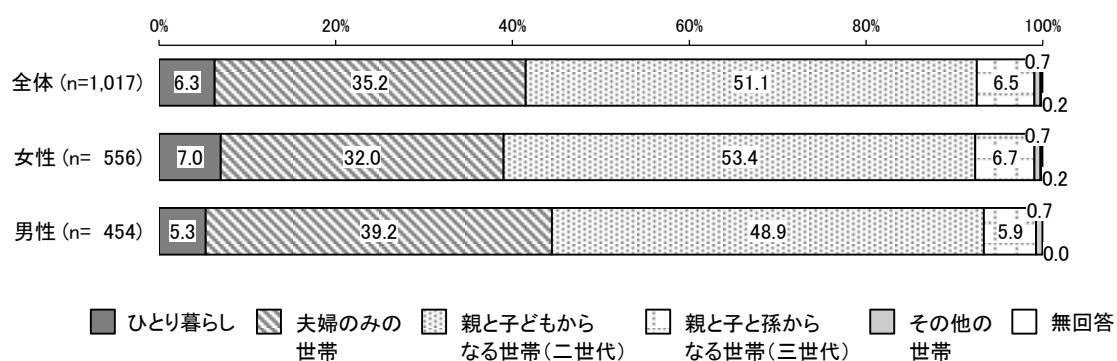
(6) 家族構成

問6. あなたの家族構成は。(○は1つ)

「親と子どもからなる世帯(二世帯)」が51.1%で最も高く、次いで「夫婦のみの世帯」が35.2%、「親と子と孫からなる世帯(三世帯)」が6.5%、「ひとり暮らし」が6.3%となっている。

性別でみると、「親と子どもからなる世帯(二世帯)」「ひとり暮らし」「親と子と孫からなる世帯(三世帯)」はいずれも女性が高く、「夫婦のみの世帯」は男性が高くなっている。

図 性別 家族構成



2. 家庭生活について

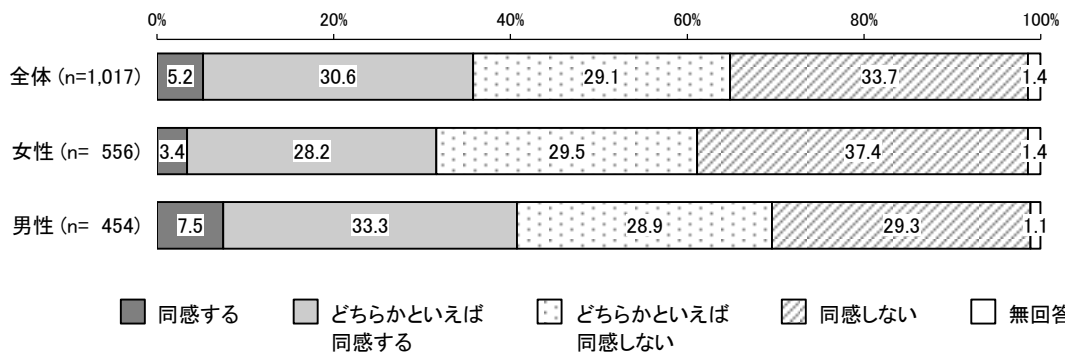
(1) 性別役割分担意識

問7. あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どのように考えますか。(〇は1つ)

「同感しない」が33.7%で最も高く、次いで「どちらかといえば同感する」が30.6%、「どちらかといえば同感しない」が29.1%となっている。『否定的』（「同感しない」と「どちらかといえば同感しない」の合計）は62.8%、『肯定的』（「同感する」と「どちらかといえば同感する」の合計）は35.8%となっている。

性別でみると、男性では「どちらかといえば同感する」が最も高く、『肯定的』が40.8%で、女性より9.2ポイント高くなっている。

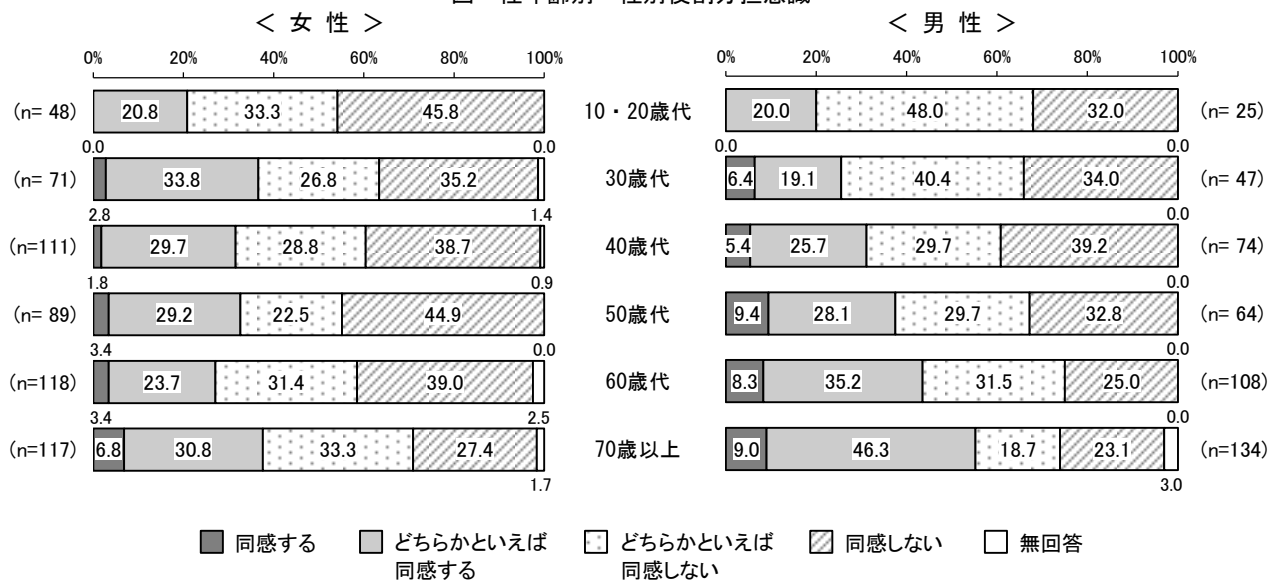
図 性別 性別役割分担意識



【性年齢別】

女性では10・20歳代と50歳代で「同感しない」が高く4割を超えており、10・20歳代では『否定的』が約8割を占めている。男性では年代が上がるほど『肯定的』が高くなっており、70歳以上では5割を超えている。一方、年代が下がるほど『否定的』が高くなっており、10・20歳代では8割を占めている。

図 性年齢別 性別役割分担意識

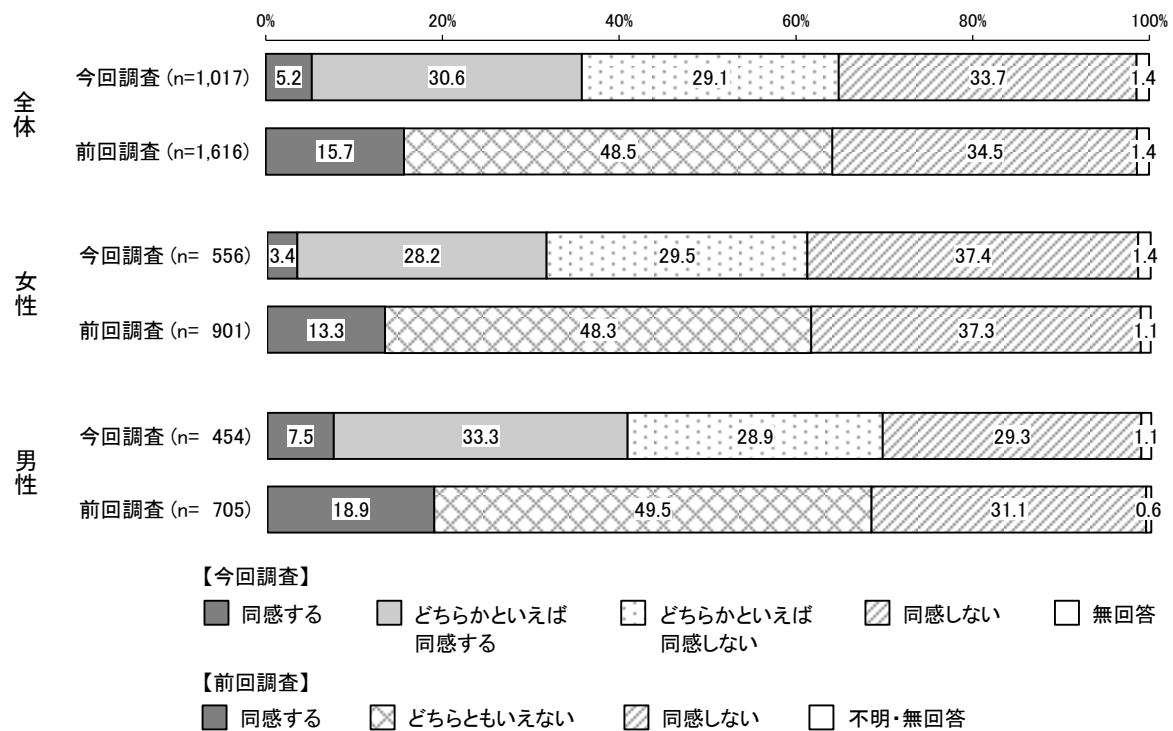


【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「同感する」が 10.5 ポイント、「同感しない」が 0.8 ポイントの減少となっている。

性別でみると、「同感しない」は男女とも大きな差異はみられないが、「同感する」は男女とも低くなっており、男女とも約 10 ポイントの減少となっている。

図 性別 性別役割分担意識（前回調査との比較）

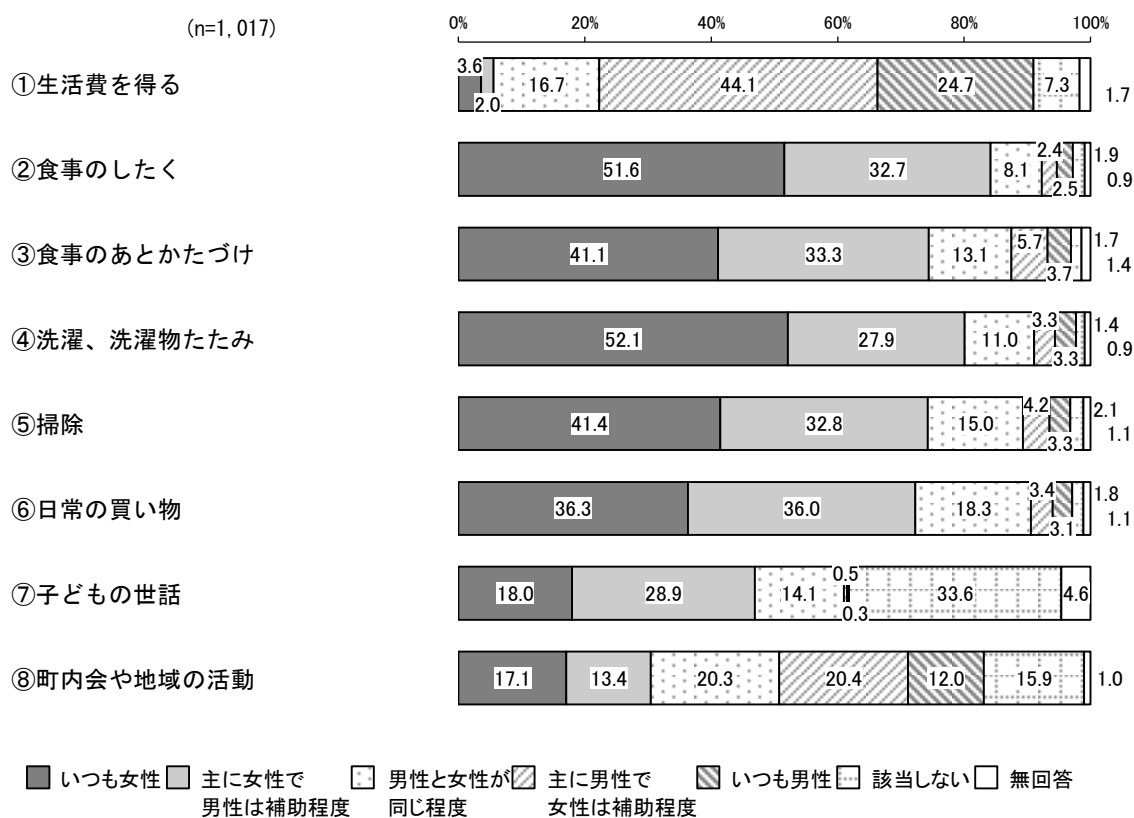


(2) 家庭内の役割分担

問8. あなたのご家庭では、次のことがらを男女のどちらが実際にされていますか。(〇は①～⑧それぞれに1つ)

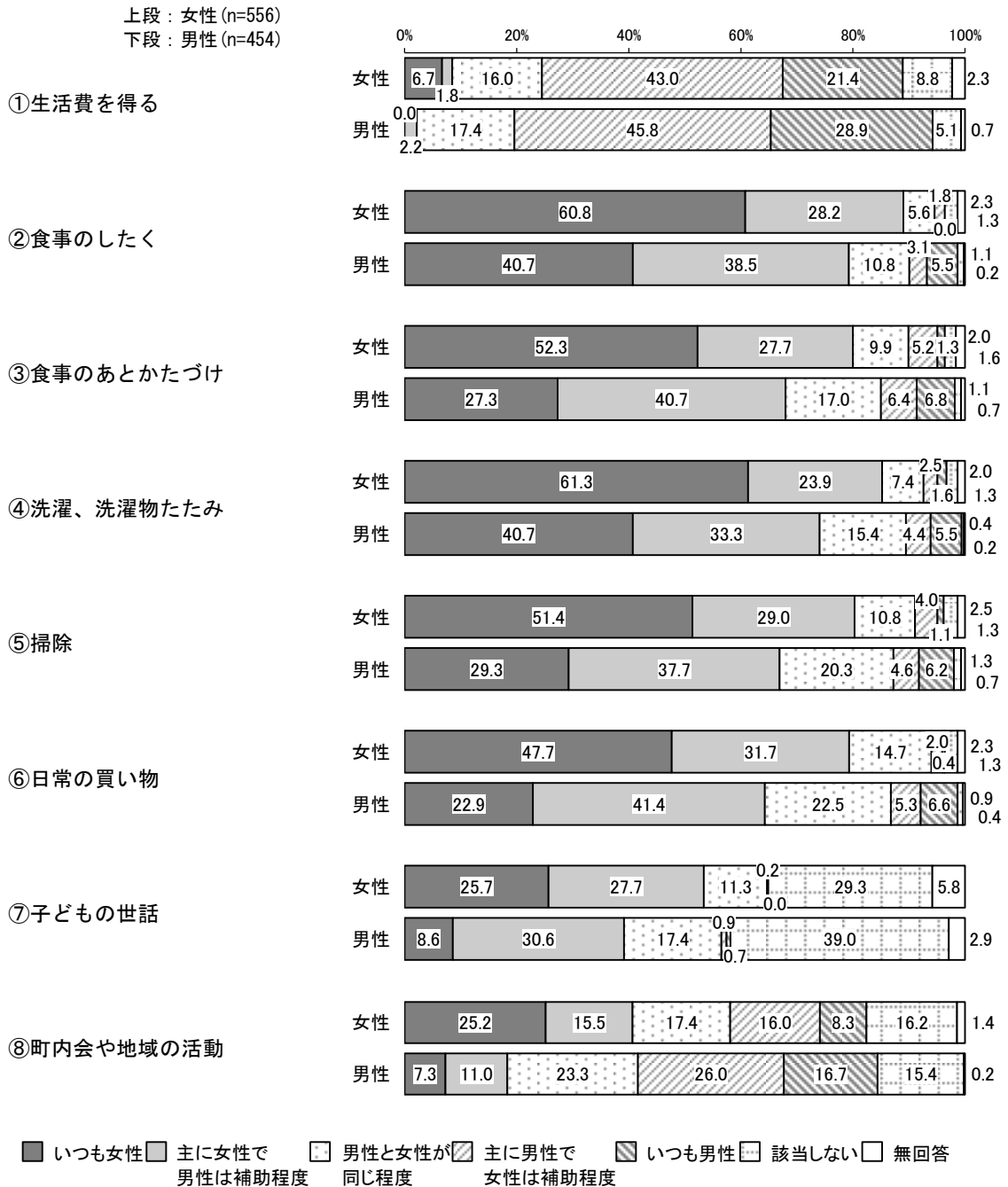
「②食事のしたく」「③食事のあとかたづけ」「④洗濯、洗濯物たたみ」「⑤掃除」「⑥日常の買い物」では「いつも女性」が最も高く、「主に女性で男性は補助程度」を合わせると7～8割を占めている。「①生活費を得る」では「主に男性で女性補助程度」が最も高く、「⑧町内会や地域の活動」では「主に男性で女性補助程度」と「男性と女性が同じ程度」がほぼ同率で高くなっている。

図 家庭内の役割分担の実際



性別でみると、すべてのことがらについて「男性と女性が同じ程度」は男性が高くなっており、「いつも女性」は女性が高くなっている。

図 性別 家庭内の役割分担の実際



【性年齢別】

<①生活費を得る>

女性では10・20歳代と30歳代で「男性と女性が同じ程度」が高く、男性では40歳代以下で「男性と女性が同じ程度」が高く、男女とも2割を超えている。

<②食事のしたく>

女性では40歳代以上で「いつも女性」が6割台と高くなっている。男性では10・20歳代で「男性と女性が同じ程度」が高く2割台となっている。

<③食事のあとかたづけ>

女性では50歳代以上で「いつも女性」が高く5割を超えている。男性では10・20歳代と40歳代で「男性と女性が同じ程度」が高く2割台となっている。

<④洗濯、洗濯物たたみ>

女性では50歳代と60歳代で「いつも女性」が高く7割弱となっている。男性では年代が上がるほど「いつも女性」が高くなっている。

<⑤掃除>

女性では50歳代で「いつも女性」が高く7割弱となっている。男性では10・20歳代で「男性と女性が同じ程度」が40.0%と最も高くなっている。

<⑥日常の買い物>

女性では40歳代と50歳代で「いつも女性」が高く5割を超えている。男性では10・20歳代で「男性と女性が同じ程度」が40.0%と高く、50歳代と60歳代で「いつも男性」が1割を超えている。

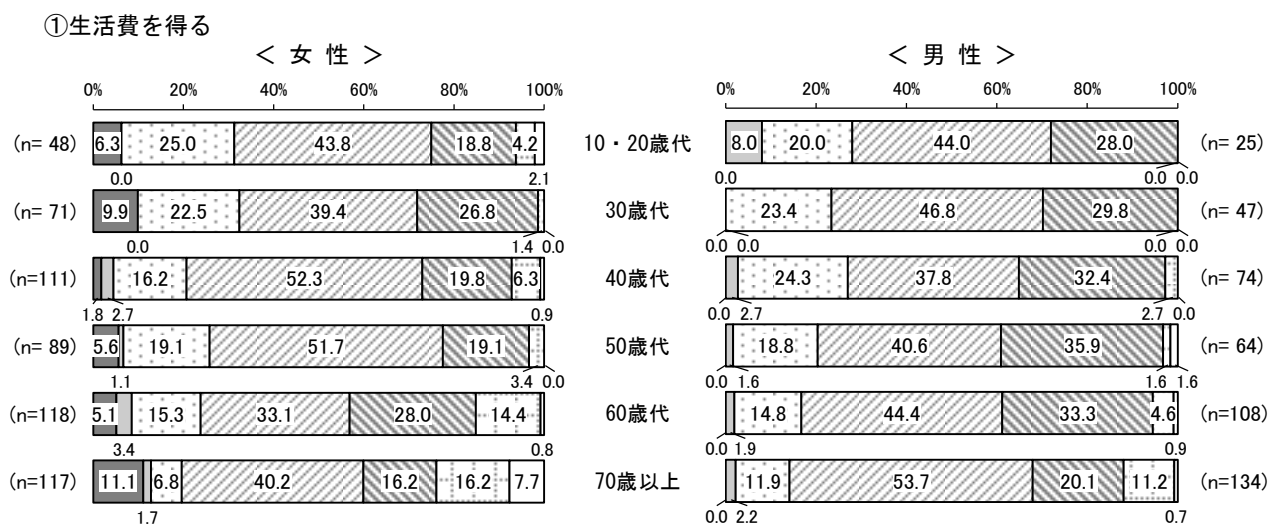
<⑦子どもの世話>

女性では40歳代と50歳代で「いつも女性」が高く「主に女性で男性は補助程度」を合わせると約7割を占めている。男性では40歳代で「男性と女性が同じ程度」が高く32.4%となっている。

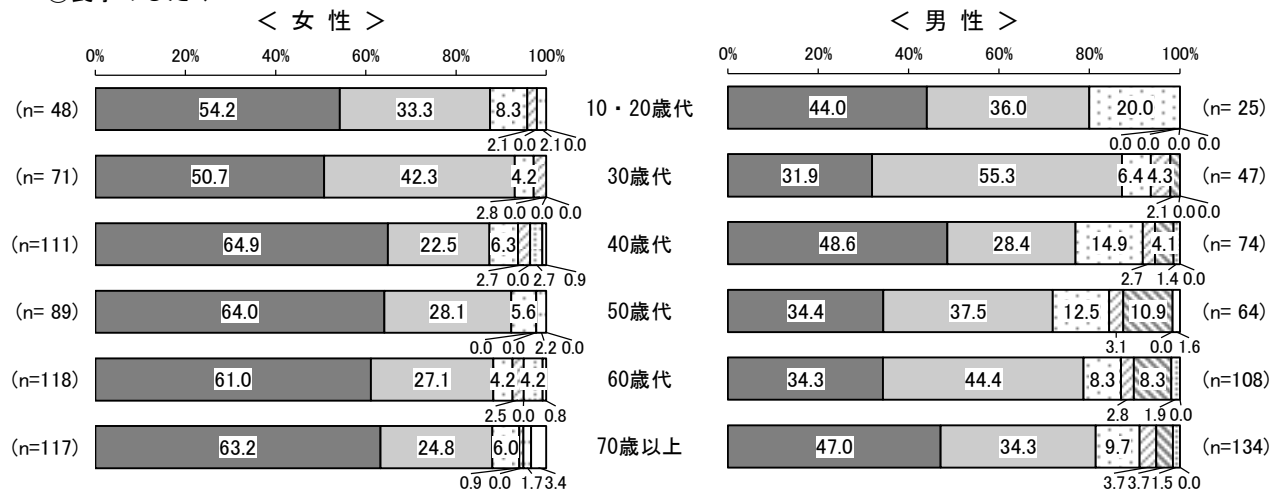
<⑧町内会や地域の活動>

女性では40歳代から60歳代で「いつも女性」が最も高く、70歳以上では「主に男性で女性補助程度」が最も高くなっている。男性では10・20歳代で「男性と女性が同じ程度」、60歳代と70歳以上で「主に男性で女性補助程度」が高く3割を超えている。

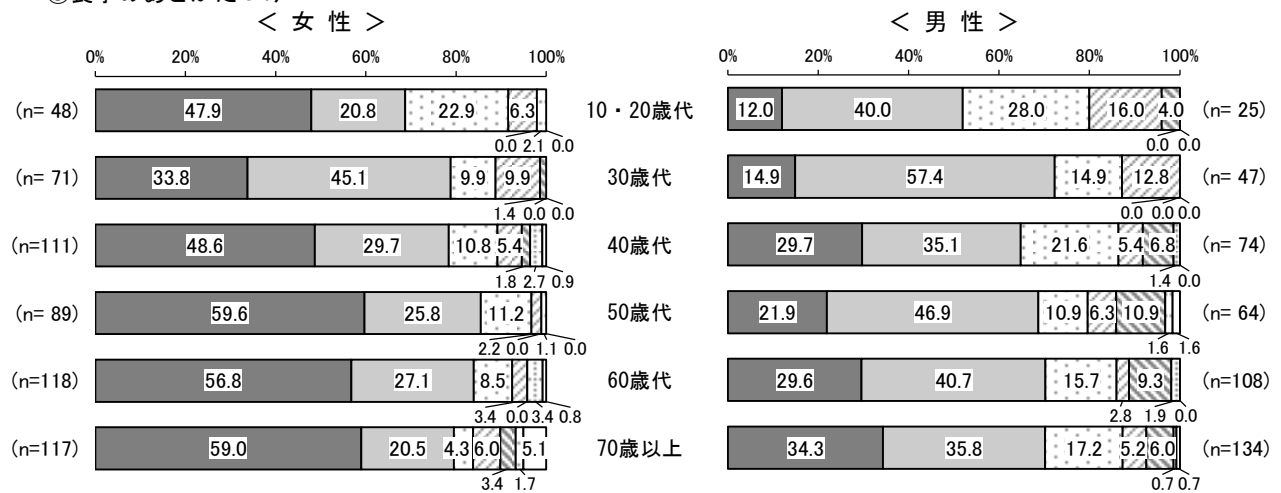
図 性年齢別 家庭内の役割分担の実態



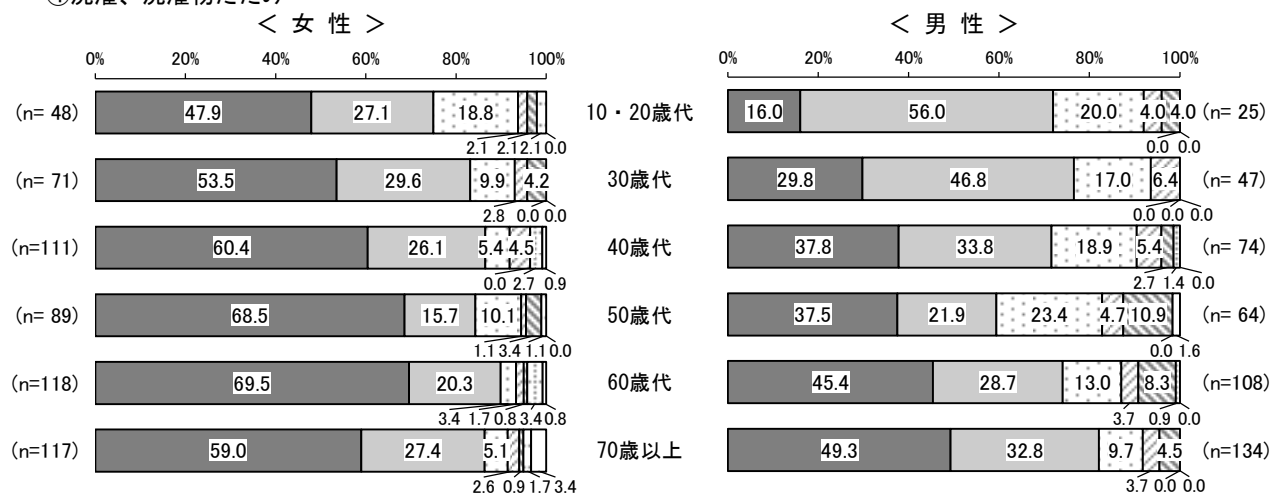
②食事のしたく



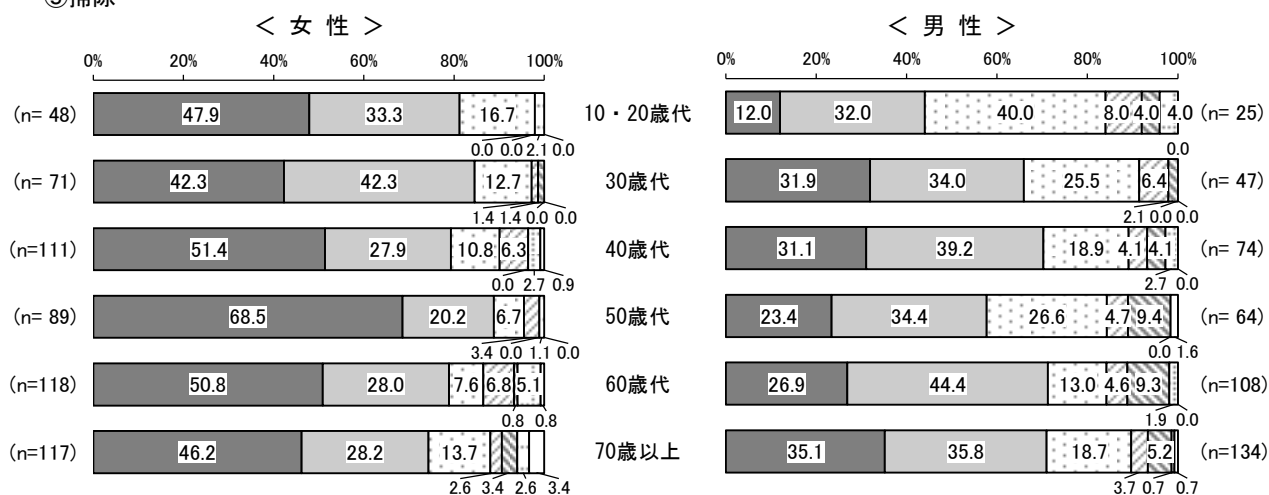
③食事のあとかたづけ



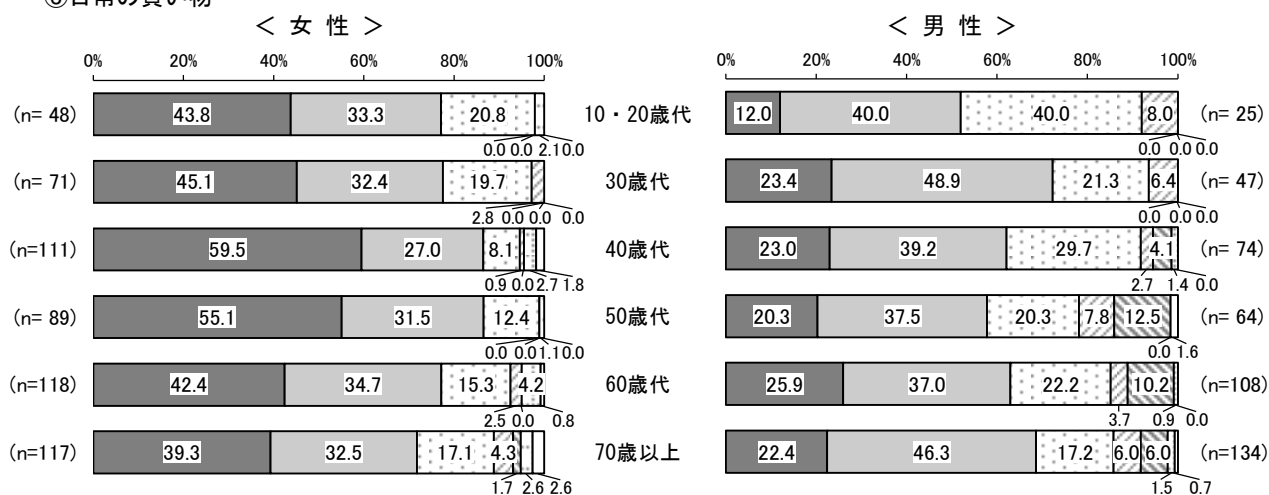
④洗濯、洗濯物たたみ



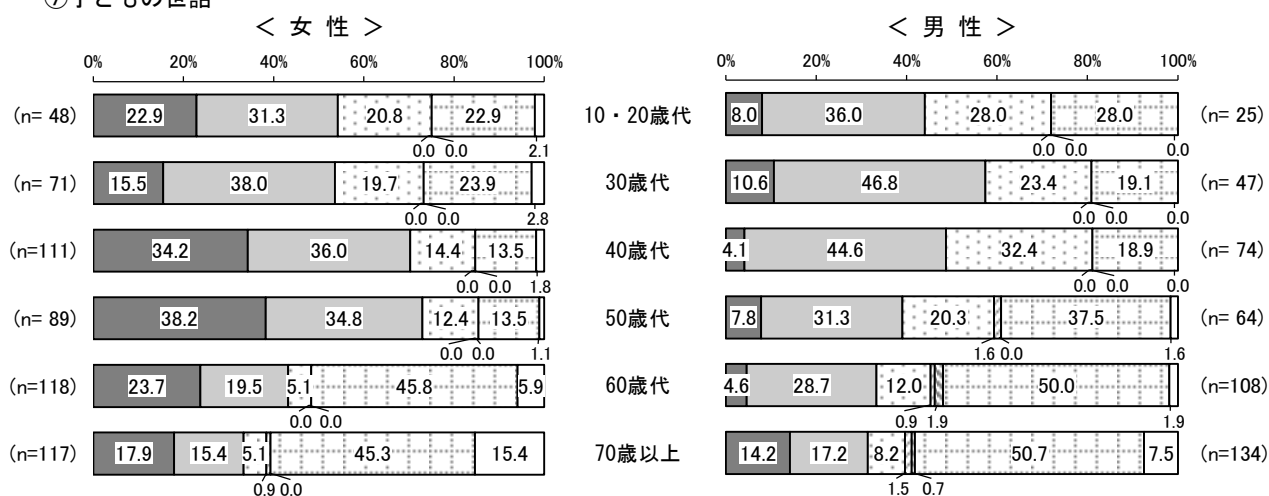
⑤掃除



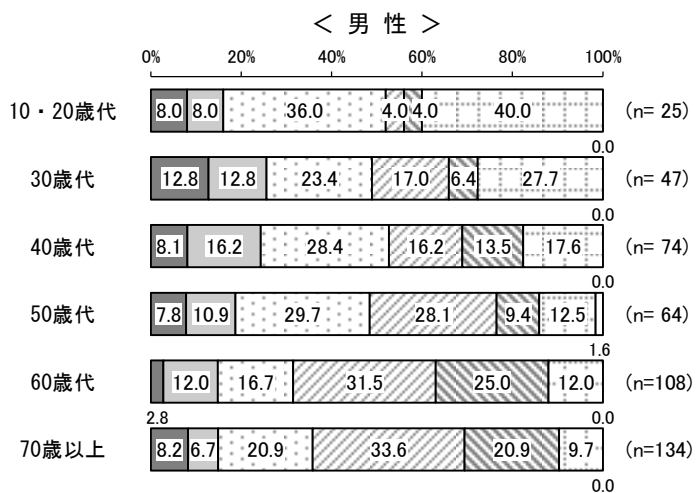
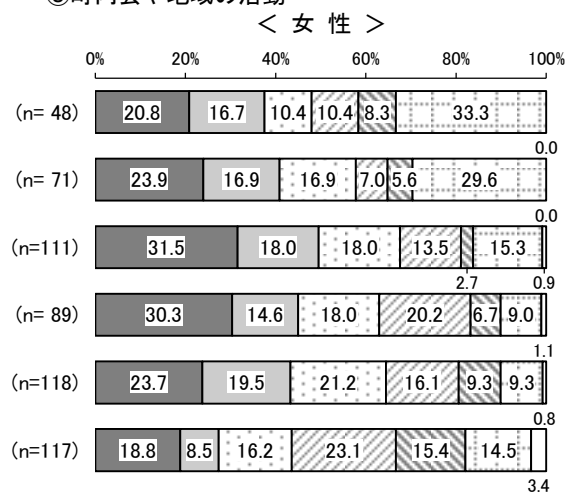
⑥日常の買い物



⑦子どもの世話



⑧町内会や地域の活動



いつも女性
 主に女性で
 男性と女性が
 主に男性で
 いつも男性
 該当しない
 無回答

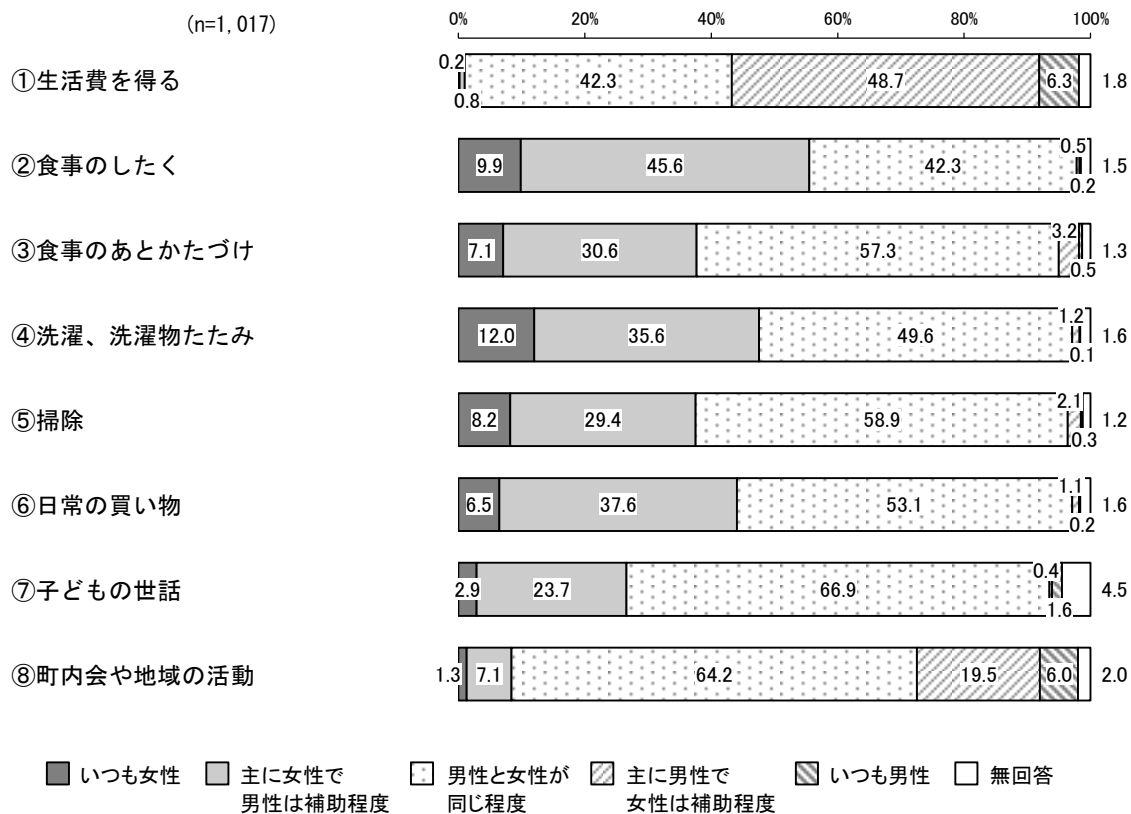
男性は補助程度 同じ程度 女性は補助程度

(3) 家庭内の役割分担の理想

問9. あなたは、次のことがらを男女のどちらがするのが理想だと思いますか。(○は①～⑧それぞれに1つ)

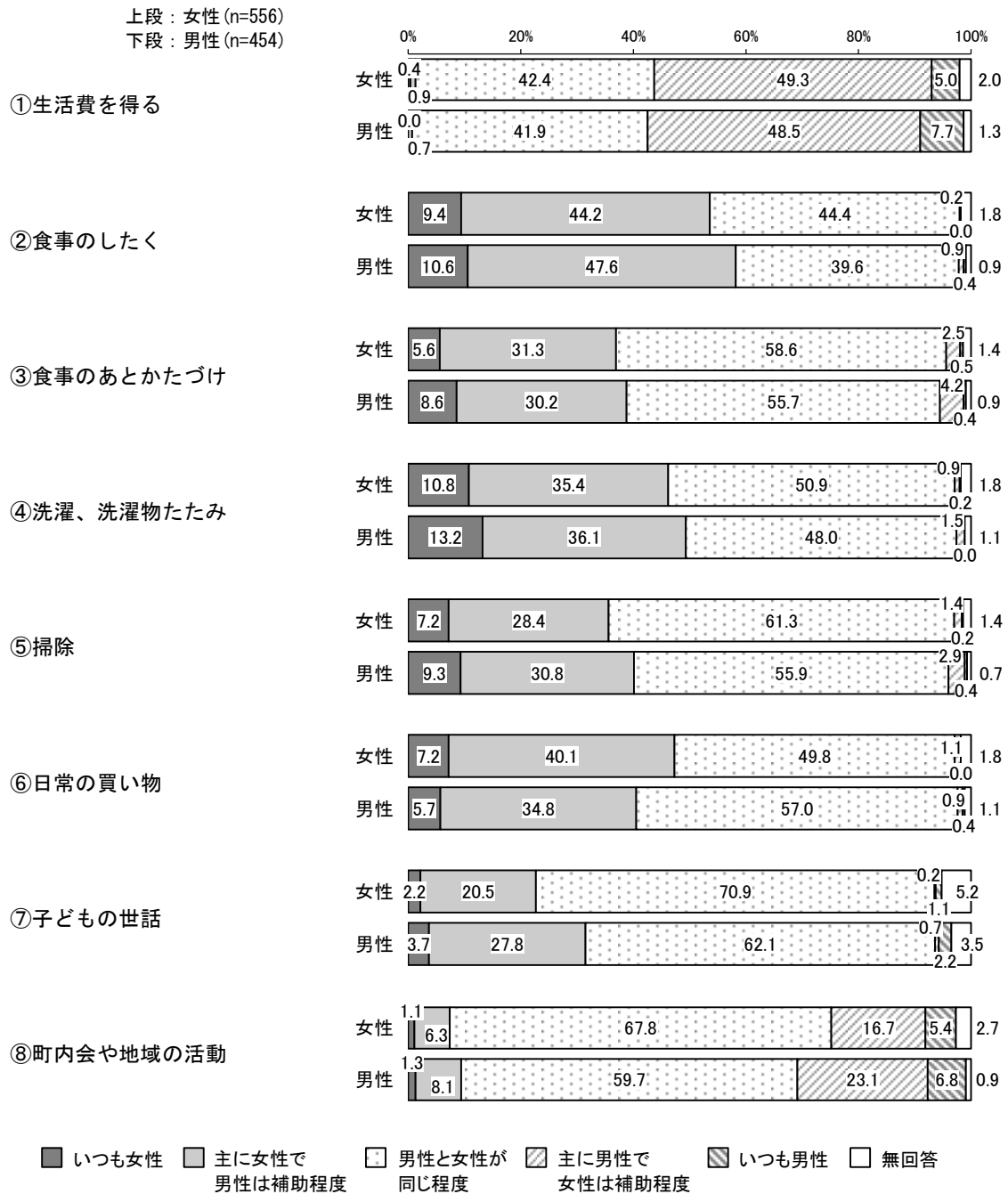
「①生活費を得る」では「主に男性で女性に補助程度」が48.7%で最も高く、「②食事のしたく」では「主に女性で男性に補助程度」が最も高く「いつも女性」を合わせると5割を超えている。「③食事のあとかたづけ」「④洗濯、洗濯物たたみ」「⑤掃除」「⑥日常の買い物」「⑦子どもの世話」「⑧町内会や地域の活動」では「男性と女性が同じ程度」が最も高く、「⑦子どもの世話」と「⑧町内会や地域の活動」は6割を超えている。

図 家庭内の役割分担の理想



性別でみると、「⑥日常の買い物」では「いつも女性」「主に女性で男性は補助程度」とも女性が高くなっているが、それ以外のことがらでは「男性と女性が同じ程度」が男性より高くなっている。

図 性別 家庭内の役割分担の理想



【性年齢別】

＜①生活費を得る＞

女性では10・20歳代と50歳代で「男性と女性が同じ程度」が高く、男性では10・20歳代で「男性と女性が同じ程度」が高く、男女とも5割を超えている。「主に男性で女性は補助程度」は男女とも70歳以上で最も高くなっている。

＜②食事のしたく＞

男女とも10・20歳代で「男性と女性が同じ程度」が高く6割台となっている。女性の70歳以上では「いつも女性」が男女の全年齢層の中で最も高く2割台となっている。

＜③食事のあとかたづけ＞

男女とも年代が下がるほど「男性と女性が同じ程度」が高くなっており、10・20歳代で8割台となっている。

＜④洗濯、洗濯物たたみ＞

男女とも10・20歳代で「男性と女性が同じ程度」が最も高く7割を超えている。70歳以上では男女とも「いつも女性」が高く2割を超えており、男性の60歳代以上では「主に女性で男性は補助程度」を合わせると6割を超えている。

＜⑤掃除＞

男女とも60歳代以下では「男性と女性が同じ程度」が5割を超えており、男性の10・20歳代で84.0%と最も高くなっている。70歳以上では男女とも「いつも女性」が高く、「主に女性で男性は補助程度」を合わせると5割を超えている。

＜⑥日常の買い物＞

男女とも10・20歳代で「男性と女性が同じ程度」が高く男性は80.0%となっている。女性の40歳代と70歳以上、男性の70歳以上では「男性と女性が同じ程度」が低く、「いつも女性」と「主に女性で男性は補助程度」を合わせると5割を超えている。

＜⑦子どもの世話＞

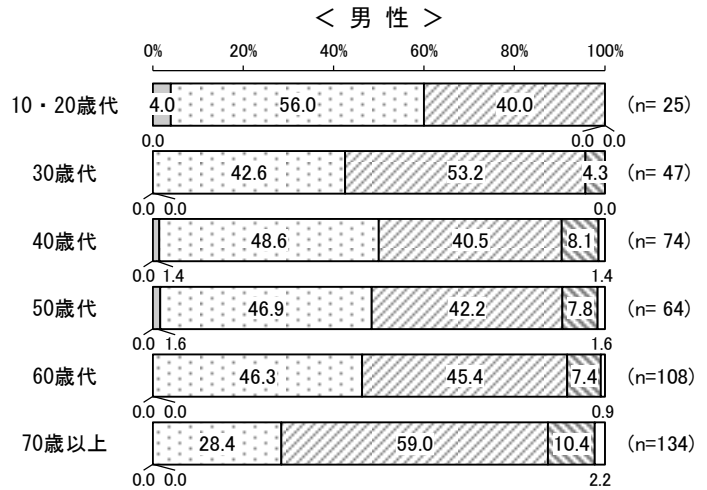
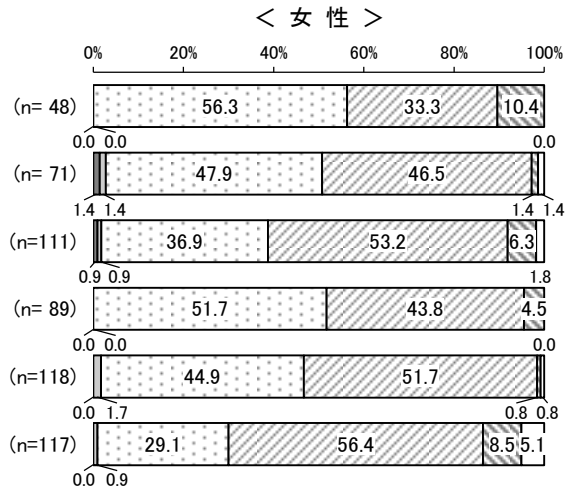
男女とも概ね年代が低くなるほど「男性と女性が同じ程度」が高く、女性の10・20歳代で89.6%と最も高くなっている。70歳以上では男女とも「男性と女性が同じ程度」は低く5割を切っている。

＜⑧町内会や地域の活動＞

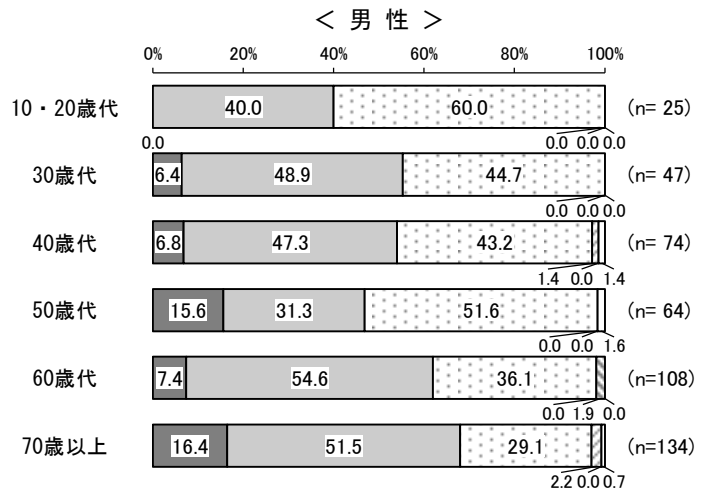
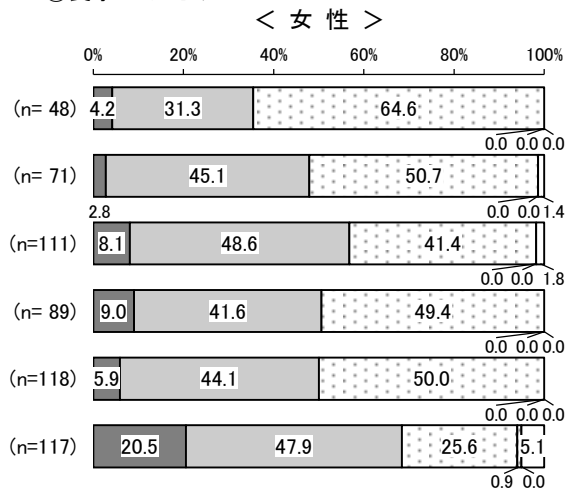
男女とも概ね年代が低くなるほど「男性と女性が同じ程度」が高く、女性の10・20歳代で85.4%と最も高くなっている。男女とも70歳以上で「主に男性で女性は補助程度」が高く、男性では33.6%と3割を超えている。

図 性年齢別 家庭内の役割分担の理想

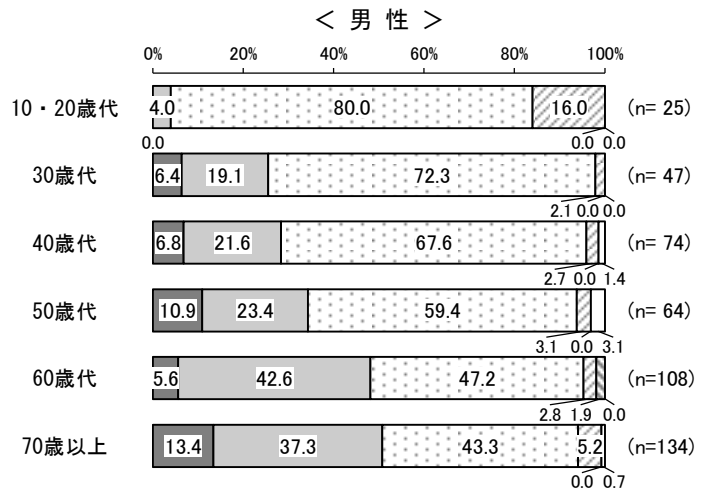
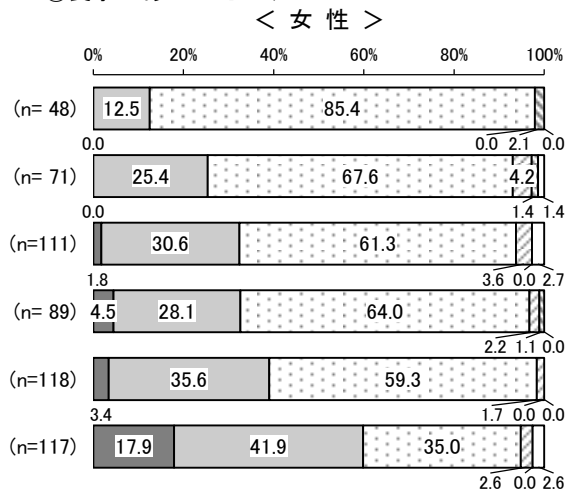
①生活費を得る



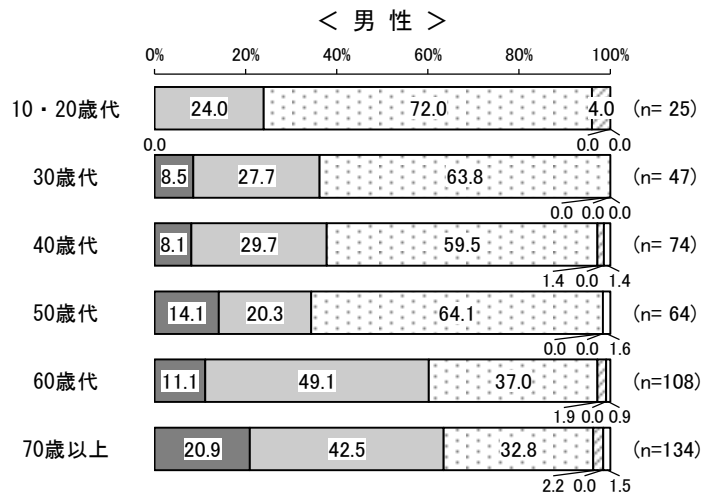
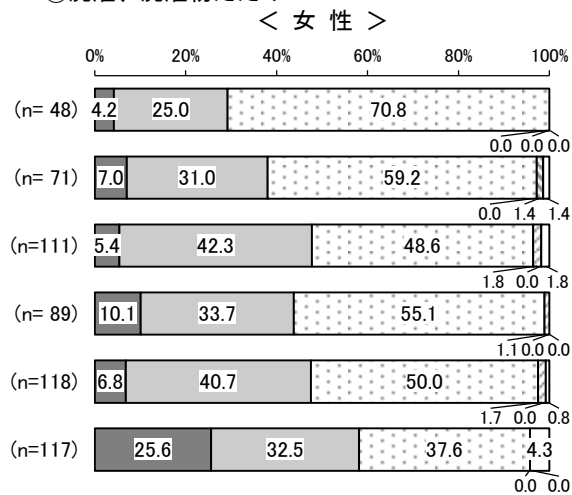
②食事のしたく



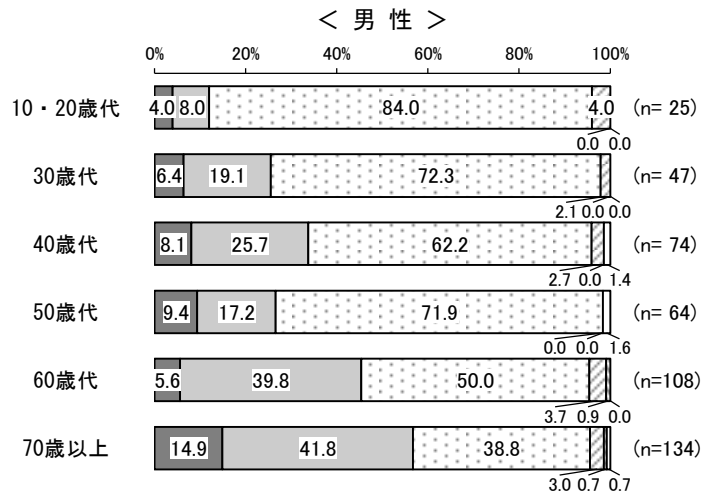
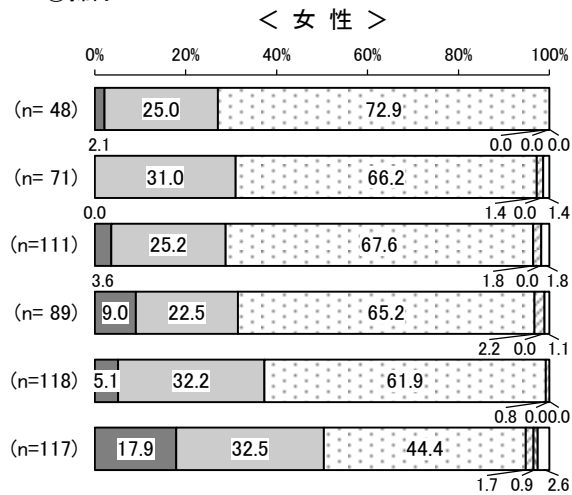
③食事のあとかたづけ



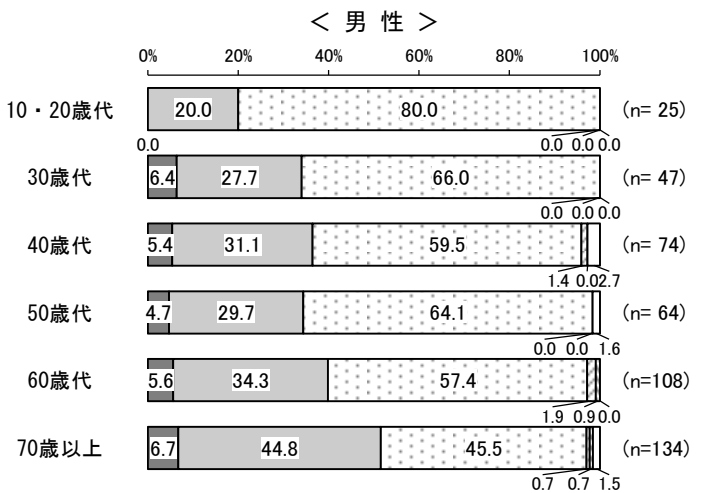
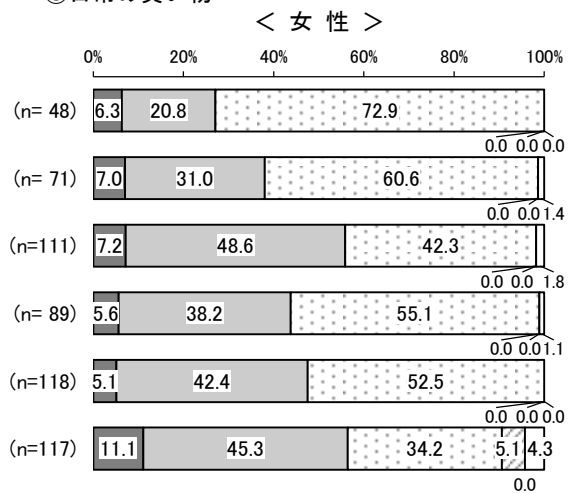
④洗濯、洗濯物たたみ



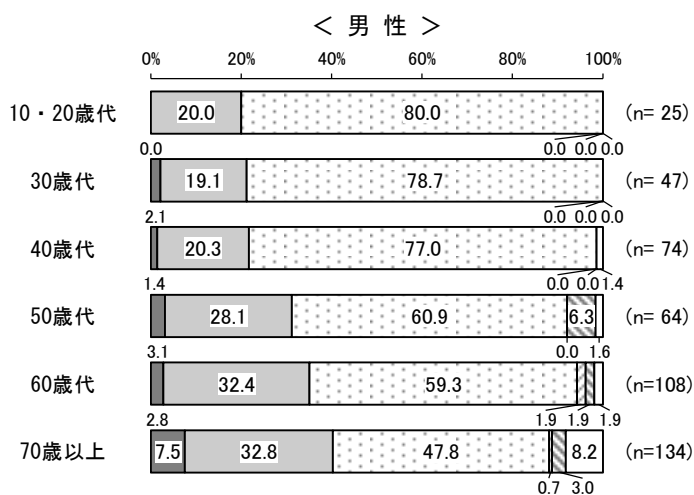
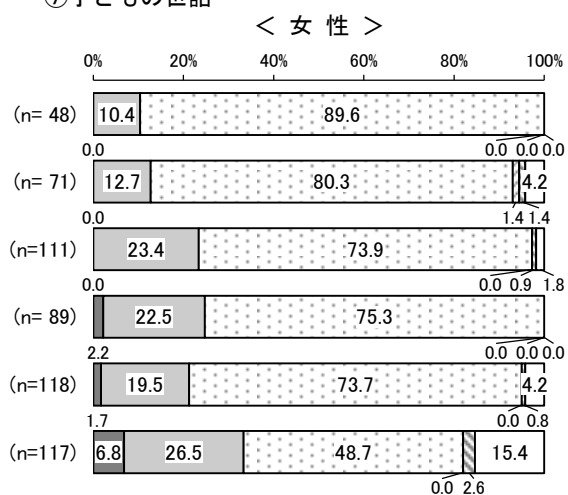
⑤掃除



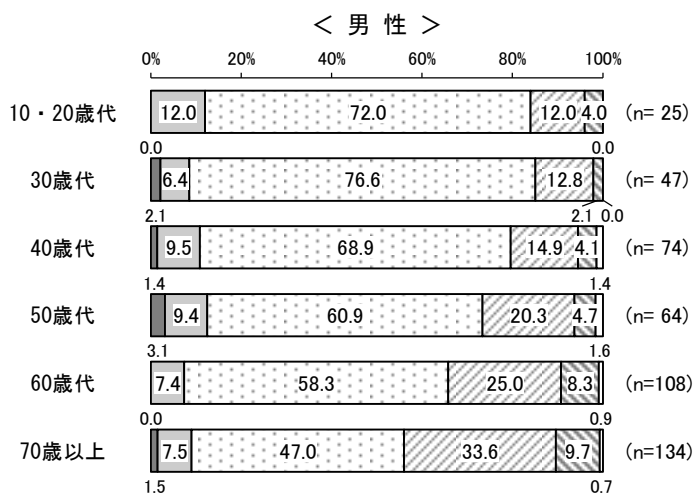
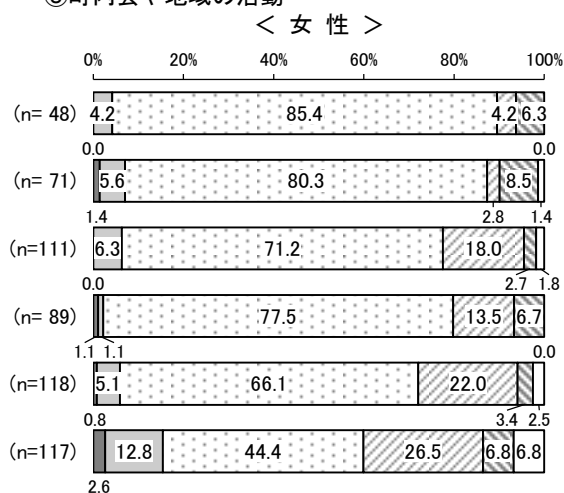
⑥日常の買い物



⑦子どもの世話



⑧町内会や地域の活動



いつも女性
 主に女性で男性は補助程度
 男性と女性が同じ程度
 主に男性で女性補助程度
 いつも男性
 無回答

(4)「仕事」「家庭生活」「地域・個人生活」の関わり方

問 10. あなたは、生活の中で「仕事」「家庭生活」「プライベート（趣味や学習・社会参加活動・地域活動）」で何を優先しますか。希望と現実（現状）に最も近いものをそれぞれお答えください。

<希望>

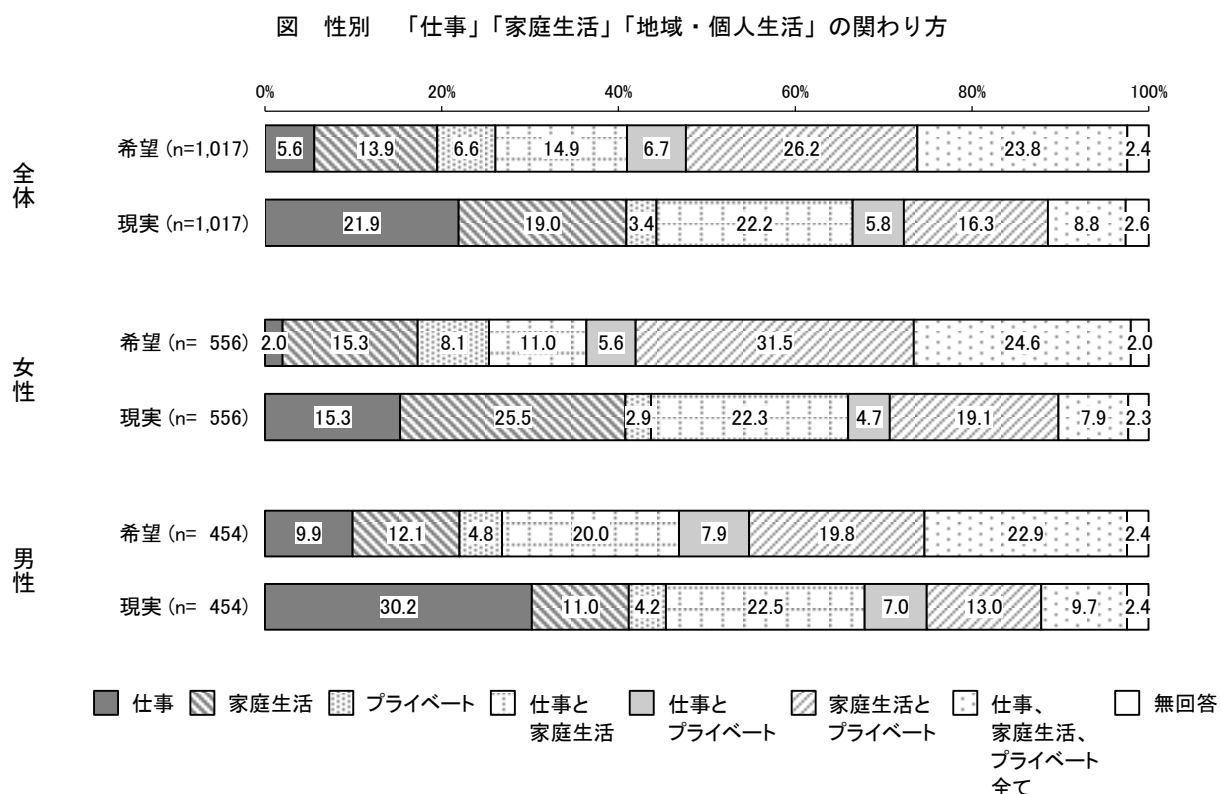
「家庭生活とプライベート」が 26.2%で最も高く、次いで「仕事、家庭生活、プライベート全て」が 23.8%、「仕事と家庭生活」が 14.9%、「家庭生活」が 13.9%となっている。

性別でみると、女性では「家庭生活とプライベート」が 31.5%で最も高く、次いで「仕事、家庭生活、プライベート全て」が 24.6%となっている。男性では「仕事、家庭生活、プライベート全て」が 22.9%で最も高く、次いで「仕事と家庭生活」が 20.0%、「家庭生活とプライベート」が 19.8%となっている。

<現実>

「仕事と家庭生活」が 22.2%で最も高く、次いで「仕事」が 21.9%、「家庭生活」が 19.0%、「家庭生活とプライベート」が 16.3%となっている。

性別でみると、女性では「家庭生活」が 25.5%で最も高く、次いで「仕事と家庭生活」が 22.3%、「家庭生活とプライベート」が 19.1%となっている。男性では「仕事」が 30.2%で最も高く、次いで「仕事と家庭生活」が 22.5%となっている。



<希望>

【性年齢別】

女性では10・20歳代、40歳代、60歳代、70歳以上は「家庭生活とプライベート」、30歳代と50歳代は「仕事、家庭生活、プライベート全て」が最も高くなっている。10・20歳代で「プライベート」、70歳以上で「家庭生活」が他の年齢層と比べて高くなっている。

男性では30歳代と70歳以上は「家庭生活とプライベート」、40歳代と60歳代は「仕事、家庭生活、プライベート全て」、50歳代は「仕事と家庭生活」が最も高くなっている。10・20歳代は「プライベート」と「仕事、家庭生活、プライベート全て」が同率で最も高くなっている。10・20歳代で「プライベート」、30歳代で「家庭生活」が他の年齢層と比べて高くなっている。また、50歳代以上で「仕事」が1割台となっており40歳代以下と比べて高くなっている。

表 性年齢別 希望する「仕事」「家庭生活」「地域・個人生活」の関わり方

		回答者数(n)	仕事	家庭生活	プライベート	仕事と家庭生活	仕事とプライベート	家庭生活とプライベート	仕事、家庭生活、プライベート全て	無回答	
全 体		1,017	5.6	13.9	6.6	14.9	6.7	26.2	23.8	2.4	
年 齢 別	女性	10・20 歳代	48	2.1	4.2	20.8	2.1	8.3	35.4	27.1	－
		30 歳代	71	1.4	12.7	4.2	11.3	2.8	32.4	33.8	1.4
		40 歳代	111	2.7	17.1	9.0	8.1	9.9	27.0	26.1	－
		50 歳代	89	1.1	12.4	6.7	13.5	6.7	27.0	31.5	1.1
		60 歳代	118	1.7	13.6	8.5	16.1	6.8	31.4	21.2	0.8
		70 歳以上	117	2.6	23.9	5.1	10.3	－	37.6	14.5	6.0
	男性	10・20 歳代	25	8.0	8.0	24.0	16.0	4.0	16.0	24.0	－
		30 歳代	47	6.4	21.3	2.1	12.8	4.3	29.8	23.4	－
		40 歳代	74	4.1	10.8	5.4	21.6	6.8	24.3	27.0	－
		50 歳代	64	10.9	14.1	4.7	25.0	9.4	7.8	23.4	4.7
		60 歳代	108	12.0	8.3	4.6	20.4	10.2	14.8	26.9	2.8
		70 歳以上	134	11.9	12.7	2.2	20.1	8.2	23.9	17.2	3.7

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目

<現実>

【性年齢別】

女性では10・20歳代は「仕事」、30歳代は「家庭生活」、40歳代と50歳代は「仕事と家庭生活」、70歳以上は「家庭生活とプライベート」が最も高くなっている。60歳代は「家庭生活」と「家庭生活とプライベート」が同率で最も高くなっている。

男性では30歳代から60歳代は「仕事」、70歳以上は「家庭生活とプライベート」が最も高くなっている。10・20歳代は「仕事」と「仕事と家庭生活」が同率で最も高くなっている。30歳代と50歳代では「仕事」が4割台で他の年代に比べて高くなっている。

表 性年齢別 現実の「仕事」「家庭生活」「地域・個人生活」の関わり方

		回答者数(n)	仕事	家庭生活	プライベート	仕事と家庭生活	仕事とプライベート	家庭生活とプライベート	仕事、家庭生活、プライベート全て	無回答	
全 体		1,017	21.9	19.0	3.4	22.2	5.8	16.3	8.8	2.6	
年齢別	女性	10・20 歳代	48	27.1	6.3	12.5	10.4	18.8	14.6	8.3	2.1
		30 歳代	71	11.3	39.4	－	32.4	－	8.5	7.0	1.4
		40 歳代	111	17.1	25.2	－	38.7	5.4	5.4	8.1	－
		50 歳代	89	22.5	19.1	－	34.8	5.6	9.0	7.9	1.1
		60 歳代	118	15.3	28.0	4.2	11.9	3.4	28.0	7.6	1.7
		70 歳以上	117	6.0	28.2	4.3	6.8	1.7	39.3	7.7	6.0
	男性	10・20 歳代	25	24.0	12.0	16.0	24.0	16.0	－	8.0	－
		30 歳代	47	46.8	8.5	2.1	25.5	6.4	－	10.6	－
		40 歳代	74	37.8	4.1	－	32.4	10.8	4.1	10.8	－
		50 歳代	64	43.8	9.4	4.7	20.3	4.7	3.1	9.4	4.7
		60 歳代	108	27.8	11.1	2.8	25.0	6.5	14.8	9.3	2.8
		70 歳以上	134	16.4	16.4	6.0	14.9	5.2	27.6	9.7	3.7

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目

【前回調査との比較】

<希望>

前回調査と比較すると、「仕事と家庭生活」（今回：14.9%、前回：27.7%）と「家庭生活」（今回：13.9%、前回：18.4%）がそれぞれ12.8ポイント、4.5ポイントの減少、「家庭生活とプライベート」（今回：26.2%、前回：7.2%）と「仕事、家庭生活、プライベート全て」（今回：23.8%、前回18.4%）がそれぞれ19.0ポイント、5.4ポイントの増加となっている。

性別でみると、男女で大きな差異はみられないが、「家庭生活とプライベート」は女性では24.6ポイントと大幅に増加しており、男性においては割合が2倍以上となっている。

<現実>

前回調査と比較すると、「仕事」（今回：21.9%、前回：26.9%）が5.0ポイントの減少、「家庭生活とプライベート」（今回：16.3%、前回：4.5%）と「仕事と家庭生活」（今回：22.2%、前回：17.2%）がそれぞれ11.8ポイント、5.0ポイントの増加となっている。

性別でみると、男女で大きな差異はみられないが、「家庭生活とプライベート」は女性では14.1ポイント、男性では9.3ポイントの増加となっており、「仕事」は男性では8.0ポイント、女性では2.9ポイントの減少となっている。

図 性別 希望する「仕事」「家庭生活」「地域・個人生活」の関わり方（前回調査との比較）

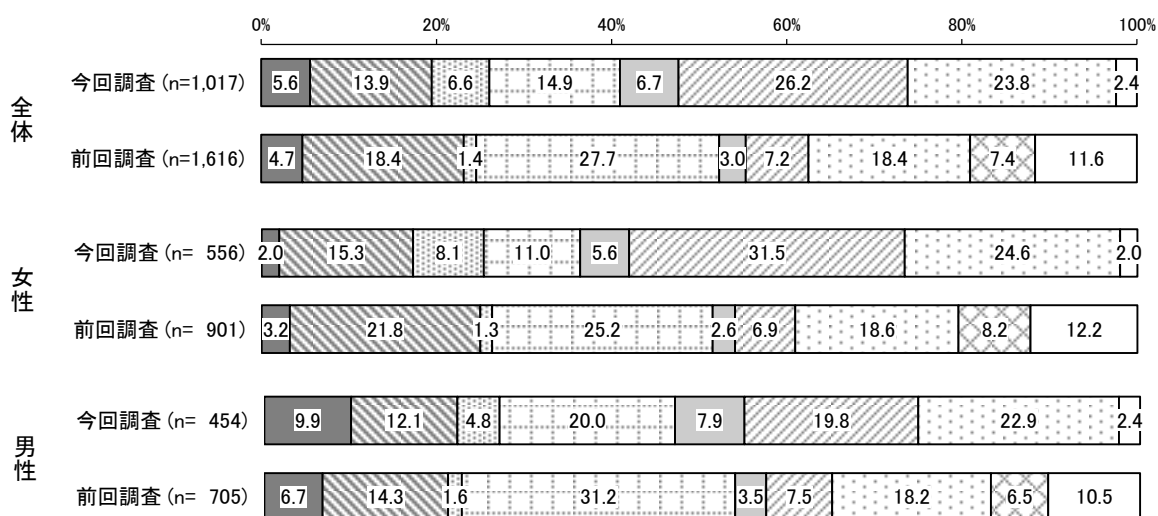
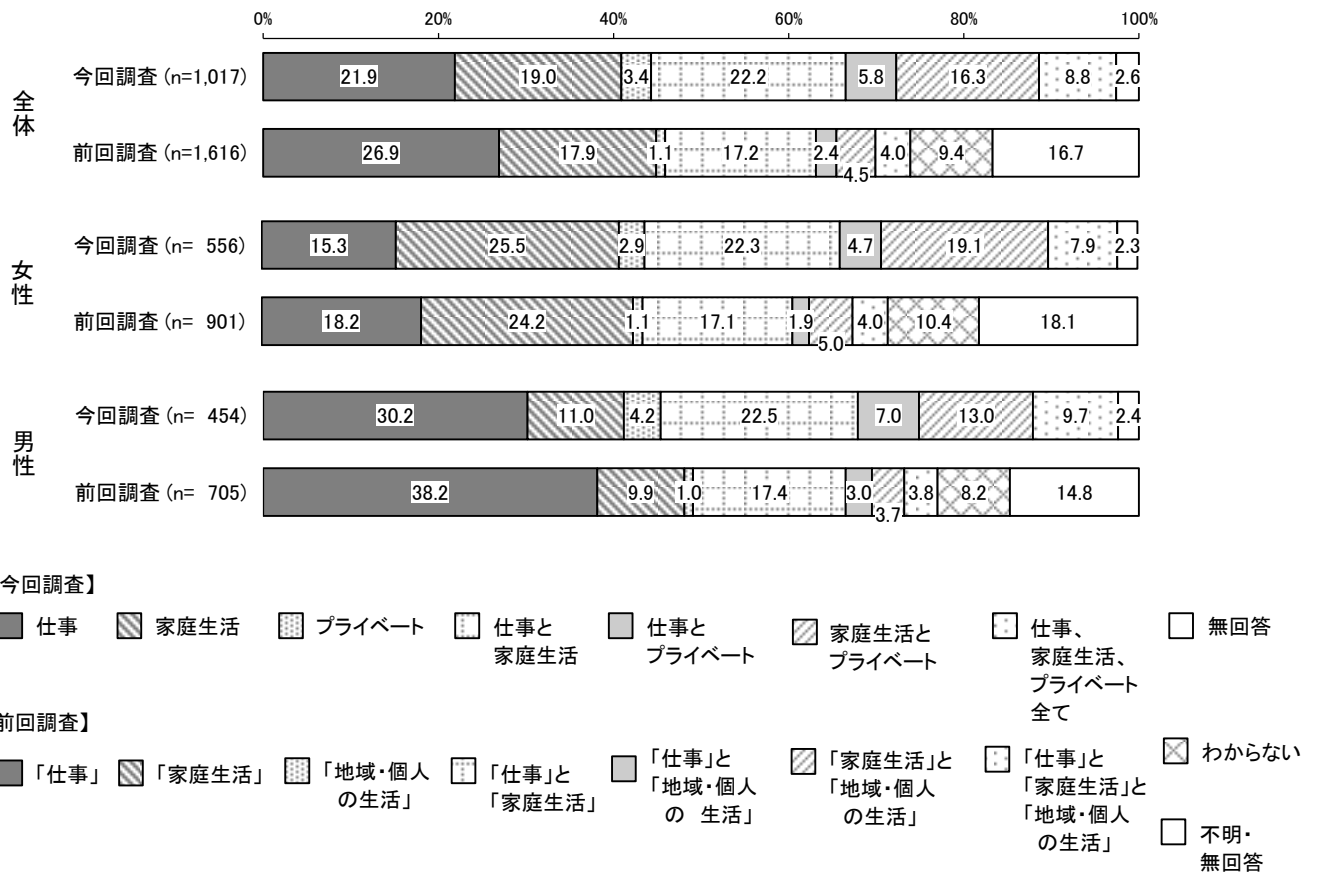


図 性別 現実の「仕事」「家庭生活」「地域・個人生活」の関わり方（前回調査との比較）



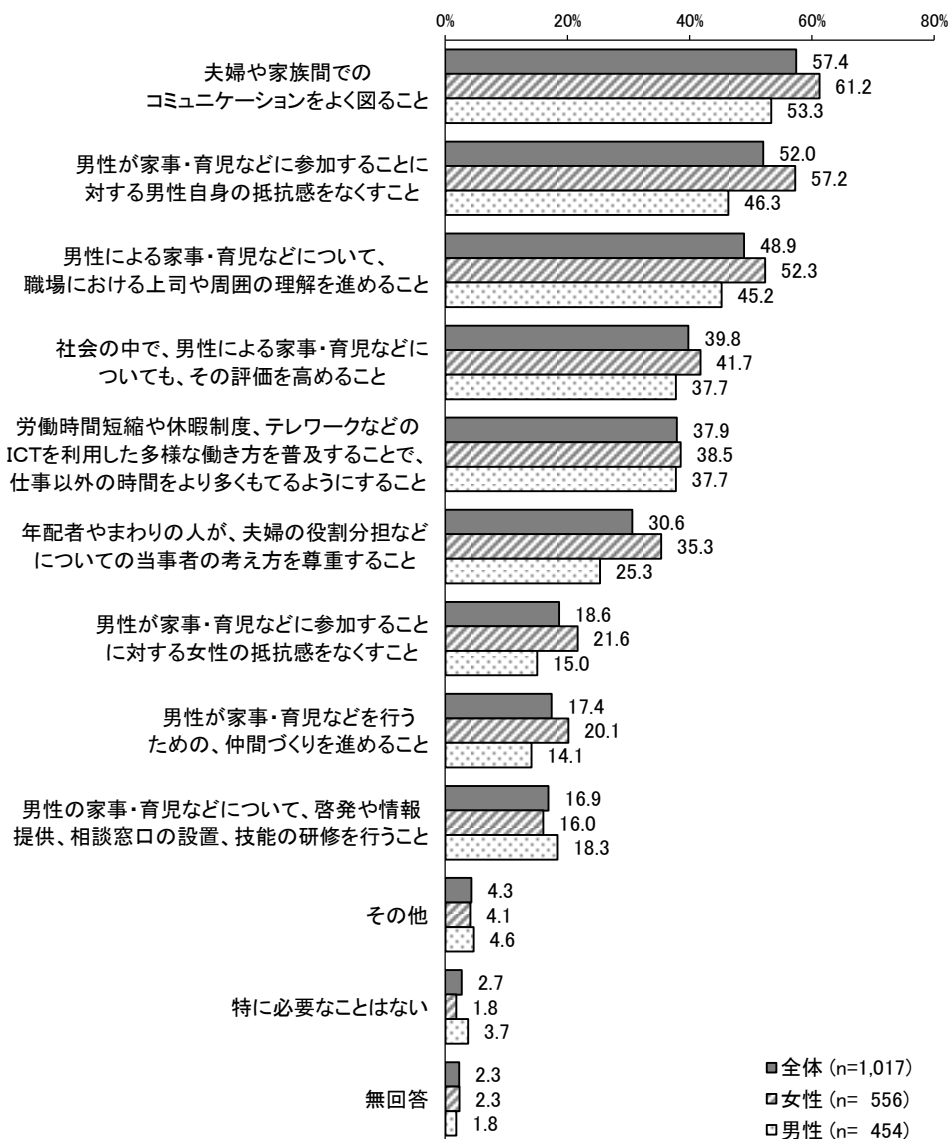
(5) 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

問 11. 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が 57.4%で最も高く、次いで「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が 52.0%、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が 48.9%となっている。

性別でみると、必要なことの順位は男女でほぼ同じとなっており、大半の項目で女性が高く、特に「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」と「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」は 10 ポイント以上の差となっている。

図 性別 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと



【性年齢別】

女性では10・20歳代で9項目中6項目が他の年齢層と比べて高く、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」は77.1%と突出して高くなっている。60歳代では「男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと」が65.3%と高くなっている。

男性では10・20歳代と30歳代で「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」と「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」が高くなっており、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」は10・20歳代で72.0%となっている。

表 性年齢別 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

		回答者数(n)	男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと												特に必要なことはない	無回答
			夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること	男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	社会の中で、男性による家事・育児などについて、その評価を高めること	労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	男性が家事・育児などを行うための、仲間づくりを進めること	男性が家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	その他				
全 体		1,017	57.4	52.0	48.9	39.8	37.9	30.6	18.6	17.4	16.9	4.3	2.7	2.3		
年 齢 別	女性	10・20 歳代	48	68.8	58.3	77.1	58.3	54.2	45.8	16.7	37.5	20.8	6.3	-	-	
		30 歳代	71	60.6	46.5	66.2	42.3	52.1	25.4	19.7	23.9	25.4	2.8	2.8	2.8	
		40 歳代	111	61.3	58.6	51.4	44.1	39.6	30.6	21.6	21.6	13.5	6.3	-	-	
		50 歳代	89	58.4	57.3	47.2	44.9	32.6	34.8	18.0	19.1	19.1	4.5	2.2	1.1	
		60 歳代	118	61.0	65.3	55.1	40.7	32.2	35.6	23.7	18.6	12.7	5.1	2.5	-	
		70 歳以上	117	61.5	54.7	36.8	31.6	33.3	41.9	25.6	12.0	12.0	0.9	2.6	7.7	
	男性	10・20 歳代	25	60.0	28.0	72.0	44.0	48.0	24.0	8.0	12.0	12.0	-	4.0	-	
		30 歳代	47	42.6	34.0	59.6	46.8	59.6	31.9	21.3	21.3	21.3	4.3	-	-	
		40 歳代	74	43.2	41.9	39.2	36.5	44.6	16.2	13.5	9.5	10.8	5.4	5.4	-	
		50 歳代	64	43.8	35.9	43.8	37.5	35.9	15.6	15.6	10.9	14.1	6.3	3.1	4.7	
		60 歳代	108	62.0	52.8	44.4	37.0	32.4	25.0	17.6	14.8	22.2	3.7	7.4	1.9	
		70 歳以上	134	59.7	55.2	39.6	34.3	29.1	32.8	12.7	15.7	20.9	5.2	1.5	2.2	

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目

3. 子育て・教育について

(1) 子どもにどのように育ってほしいか

問 12. あなたは、子どもにどのように育ってほしいですか（ほしかったですか）。子どものいない方もいるとしたらと仮定してお答えください。（女の子、男の子それぞれ〇はいくつでも）

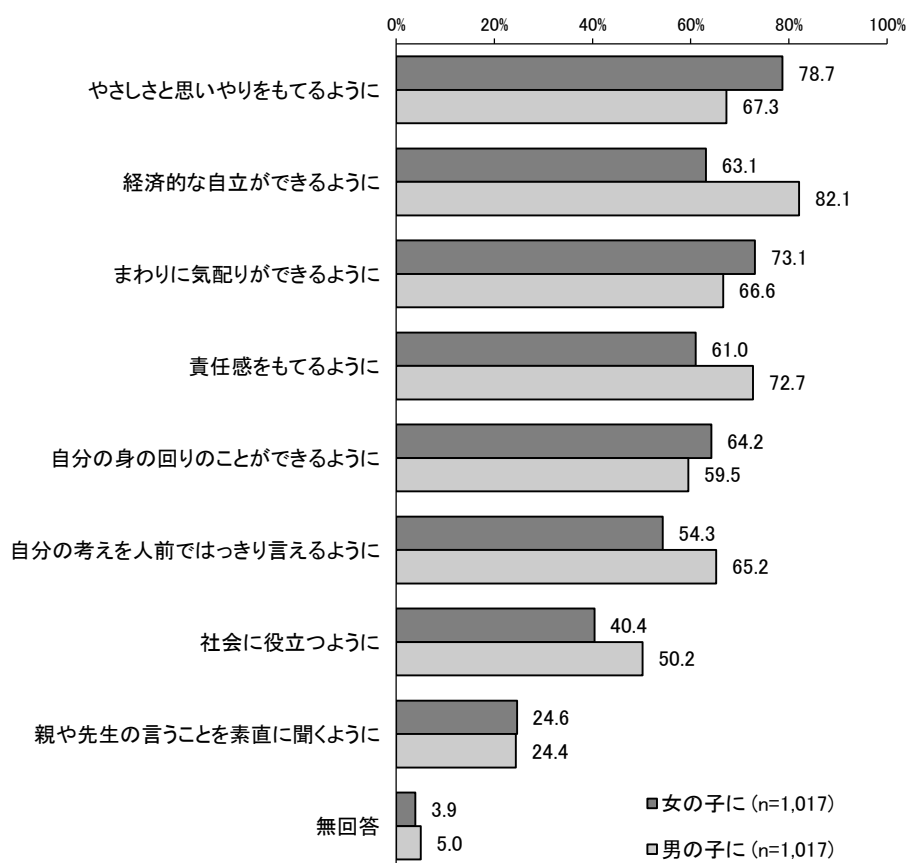
<女の子に>

「やさしさと思いやりをもてるように」が 78.7%で最も高く、次いで「まわりに気配りができるように」が 73.1%、「自分の身の回りのことができるように」が 64.2%、「経済的な自立ができるように」が 63.1%、「責任感をもてるように」が 61.0%となっている。

<男の子に>

「経済的な自立ができるように」が 82.1%で最も高く、次いで「責任感をもてるように」が 72.7%、「やさしさと思いやりをもてるように」が 67.3%、「まわりに気配りができるように」が 66.6%、「自分の考えを人前ではっきり言えるように」が 65.2%となっている。

図 子どもにどのように育ってほしいか



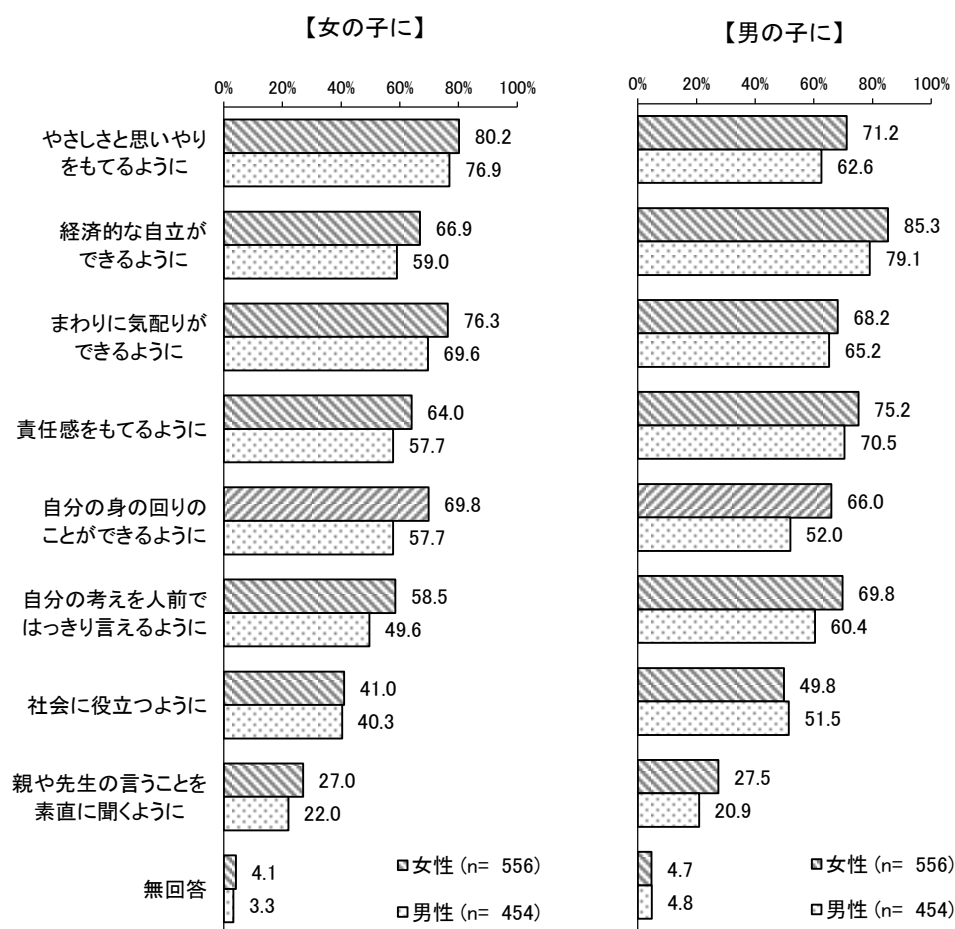
<女の子に>

性別でみると、男女とも「やさしさと思いやりをもてるように」「まわりに気配りができるように」の順で高くなっており、次いで、女性は「自分の身の回りのことができるように」、男性は「経済的な自立ができるように」となっている。すべての項目において女性が高くなっており、特に「自分の身の回りのことができるように」は12.1ポイントの差となっている。

<男の子に>

性別でみると、男女とも「経済的な自立ができるように」「責任感をもてるように」の順で高くなっており、次いで、女性は「やさしさと思いやりをもてるように」、男性は「まわりに気配りができるように」となっている。「社会に役立つように」は男性がやや高いが、それ以外は女性が高くなっており、特に「自分の身の回りのことができるように」は14.0ポイントの差となっている。

図 性別 子どもにどのように育ってほしいか



【性年齢別】

＜女の子に＞

女性では10・20 歳代で「やさしさと思いやりをもてるように」「まわりに気配りができるように」「親や先生の言うことを素直に聞くように」、30 歳代で「自分の身の回りのことができるように」、50 歳代で「経済的な自立ができるように」「社会に役立つように」が高くなっている。

男性では30 歳代で「やさしさと思いやりをもてるように」「自分の考えを人前ではっきり言えるように」「社会に役立つように」が高くなっている。

＜男の子に＞

女性では10・20 歳代で「やさしさと思いやりをもてるように」「まわりに気配りができるように」「自分の考えを人前ではっきり言えるように」「親や先生の言うことを素直に聞くように」が高く、いずれも男女の全年齢層の中で最も高くなっており、特に「やさしさと思いやりをもてるように」は93.8%と高くなっている。30 歳代から50 歳代で「自分の身の回りのことができるように」が高く、50 歳代では「社会に役立つように」も高くなっている。

男性では30 歳代で「やさしさと思いやりをもてるように」「自分の身の回りのことができるように」「社会に役立つように」が高くなっている。

表 性年齢別 子どもにどのように育ってほしいか - 女の子に

		回答者数(n)	やさしさと思いやりをもてるように	経済的な自立ができるように	まわりに気配りができるように	責任感をもてるように	自分の身の回りのことができるように	自分の考えを人前ではっきり言えるように	社会に役立つように	親や先生の言うことを素直に聞くように	無回答
全 体		1,017	78.7	63.1	73.1	61.0	64.2	54.3	40.4	24.6	3.9
年 齢 別	10・20 歳代	48	91.7	60.4	87.5	62.5	75.0	64.6	33.3	41.7	4.2
	30 歳代	71	81.7	69.0	77.5	69.0	80.3	62.0	40.8	33.8	1.4
	40 歳代	111	85.6	68.5	76.6	60.4	73.9	67.6	42.3	26.1	2.7
	50 歳代	89	76.4	76.4	73.0	62.9	76.4	59.6	50.6	19.1	7.9
	60 歳代	118	77.1	67.8	77.1	66.9	66.1	51.7	40.7	22.9	3.4
	70 歳以上	117	75.2	58.1	71.8	62.4	55.6	50.4	35.0	27.4	5.1
	10・20 歳代	25	72.0	40.0	64.0	36.0	72.0	52.0	24.0	20.0	-
	30 歳代	47	91.5	68.1	80.9	66.0	74.5	68.1	55.3	29.8	-
	40 歳代	74	86.5	58.1	75.7	55.4	59.5	50.0	32.4	21.6	-
	50 歳代	64	60.9	54.7	54.7	51.6	50.0	40.6	35.9	21.9	6.3
	60 歳代	108	83.3	62.0	72.2	67.6	55.6	41.7	46.3	23.1	2.8
	70 歳以上	134	70.1	59.7	68.7	55.2	53.7	53.0	39.6	19.4	5.2

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目

表 性年齢別 子どもにどのように育ってほしいか - 男の子に

		回答者数(n)	やさしさと思いやりを もてるように	経済的な自立ができる ように	まわりに気配りができ るように	責任感をもてるように	自分の身の回りのことが できるように	自分の考えを人前ではう きり言えるように	社会に役立つように	親や先生の言うことを 素直に聞くように	無回 答
全 体		1,017	67.3	82.1	66.6	72.7	59.5	65.2	50.2	24.4	5.0
年 齢 別	女性										
	10・20 歳代	48	93.8	87.5	87.5	81.3	68.8	81.3	41.7	41.7	-
	30 歳代	71	77.5	87.3	69.0	73.2	73.2	67.6	45.1	33.8	4.2
	40 歳代	111	76.6	87.4	64.9	71.2	72.1	72.1	46.8	26.1	5.4
	50 歳代	89	74.2	87.6	74.2	75.3	77.5	73.0	62.9	22.5	3.4
	60 歳代	118	68.6	83.9	68.6	81.4	63.6	60.2	47.5	22.0	4.2
	70 歳以上	117	53.0	80.3	57.3	70.9	47.9	70.9	50.4	28.2	7.7
	男性										
	10・20 歳代	25	64.0	56.0	60.0	60.0	68.0	68.0	32.0	20.0	-
	30 歳代	47	78.7	83.0	74.5	78.7	70.2	72.3	68.1	29.8	4.3
	40 歳代	74	75.7	83.8	67.6	70.3	52.7	63.5	43.2	17.6	1.4
	50 歳代	64	50.0	71.9	46.9	57.8	40.6	45.3	43.8	18.8	9.4
	60 歳代	108	66.7	82.4	71.3	74.1	47.2	54.6	58.3	23.1	5.6
	70 歳以上	134	52.2	80.6	65.7	73.1	51.5	64.9	52.2	19.4	4.5

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目

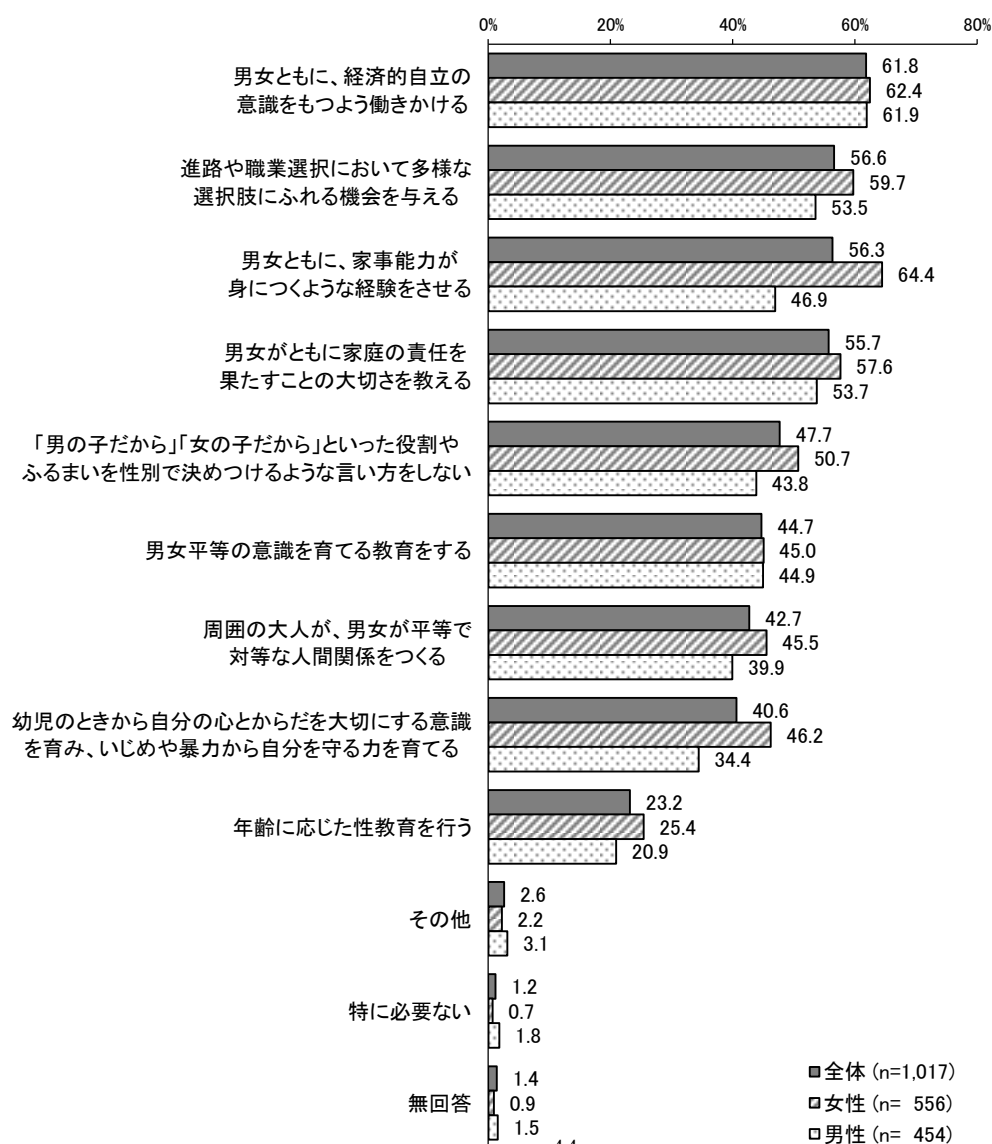
(2) 男女共同参画を進めるために子どもへの教育において必要なこと

問 13. あなたは、男女共同参画を進めるために、子どもへの教育においてどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「男女ともに、経済的自立の意識をもつよう働きかける」が61.8%で最も高く、次いで「進路や職業選択において多様な選択肢にふれる機会を与える」が56.6%、「男女ともに、家事能力が身につくような経験をさせる」が56.3%、「男女がともに家庭の責任を果たすことの大切さを教える」が55.7%となっている。

性別でみると、女性では「男女ともに、家事能力が身につくような経験をさせる」が64.4%で最も高く、次いで「男女ともに、経済的自立の意識をもつよう働きかける」が62.4%となっている。男性では「男女ともに、経済的自立の意識をもつよう働きかける」が61.9%で最も高く、次いで「男女がともに家庭の責任を果たすことの大切さを教える」が53.7%となっている。すべての項目で女性が高くなっており、「男女ともに、家事能力が身につくような経験をさせる」は17.5ポイント、「幼児のときから自分の心とからだを大切にすることの意識を育み、いじめや暴力から自分を守る力を育てる」は11.8ポイント高くなっている。

図 性別 男女共同参画を進めるために子どもへの教育において必要なこと



【性年齢別】

女性では10・20歳代で『男の子だから』『女の子だから』といった役割やふるまいを性別で決めつけるような言い方をしない」「周囲の大人が、男女が平等で対等な人間関係をつくる」が高く、いずれも男女の全年齢層の中で最も高くなっている。30歳代で「進路や職業選択において多様な選択肢にふれる機会を与える」、40歳代と60歳代で「男女ともに、家事能力が身につくような経験をさせる」、60歳代で「幼児のときから自分の心とからだを大切にする意識を育み、いじめや暴力から自分を守る力を育てる」が高くなっている。

男性では10・20歳代と30歳代で『男の子だから』『女の子だから』といった役割やふるまいを性別で決めつけるような言い方をしない」、30歳代で「進路や職業選択において多様な選択肢にふれる機会を与える」「幼児のときから自分の心とからだを大切にする意識を育み、いじめや暴力から自分を守る力を育てる」「年齢に応じた性教育を行う」が高くなっている。

表 性年齢別 男女共同参画を進めるために子どもへの教育において必要なこと

		回答者数(n)	男女ともに、経済的自立の意識をもつよう働きかける	進路や職業選択において多様な選択肢にふれる機会を与える	男女ともに、家事能力が身につくような経験をさせる	男女がともに家庭の責任を果たすことの大切さを教える	男の子だからー女の子だからーといった役割やふるまいを性別で決めつけるような言い方をしない	男女平等の意識を育てる教育をする	周囲の大人が、男女が平等で対等な人間関係をつくる	幼児のときから自分の心とからだを大切にする意識を育み、いじめや暴力から自分を守る力を育てる	年齢に応じた性教育を行う	その他	特に必要ない	無回答
全 体		1,017	61.8	56.6	56.3	55.7	47.7	44.7	42.7	40.6	23.2	2.6	1.2	1.4
年 齢 別	10・20 歳代	48	47.9	64.6	52.1	47.9	75.0	50.0	66.7	47.9	35.4	2.1	－	－
	30 歳代	71	59.2	73.2	64.8	62.0	43.7	42.3	53.5	49.3	31.0	－	1.4	2.8
	40 歳代	111	67.6	67.6	70.3	55.0	54.1	40.5	45.9	45.0	20.7	6.3	－	－
	50 歳代	89	67.4	65.2	64.0	51.7	52.8	47.2	46.1	41.6	22.5	1.1	1.1	－
	60 歳代	118	59.3	56.8	70.3	58.5	47.5	50.8	40.7	51.7	25.4	2.5	1.7	0.8
	70 歳以上	117	65.0	40.2	58.1	64.1	43.6	41.9	35.9	42.7	23.9	－	－	1.7
	10・20 歳代	25	32.0	52.0	56.0	52.0	60.0	28.0	40.0	24.0	16.0	4.0	4.0	－
	30 歳代	47	68.1	68.1	53.2	57.4	59.6	44.7	44.7	53.2	44.7	2.1	－	－
	40 歳代	74	54.1	60.8	47.3	44.6	36.5	40.5	41.9	23.0	18.9	4.1	4.1	－
	50 歳代	64	51.6	62.5	50.0	43.8	40.6	32.8	39.1	28.1	12.5	－	－	3.1
	60 歳代	108	65.7	46.3	44.4	56.5	43.5	52.8	38.9	31.5	17.6	2.8	2.8	1.9
	70 歳以上	134	71.6	46.3	43.3	60.4	41.0	50.0	38.1	41.0	20.9	3.7	0.7	1.5

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目

4. 地域活動・防災について

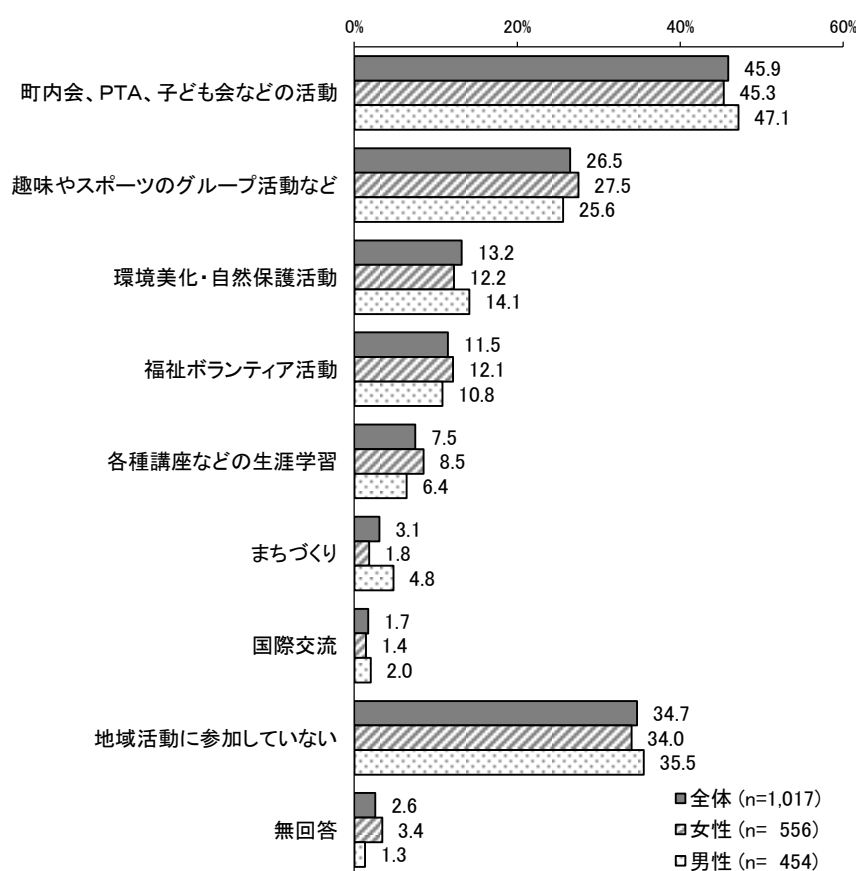
(1) 地域活動の参加状況

問 14. あなたは、次のような地域活動に参加していますか。(〇はいくつでも)

「町内会、PTA、子ども会などの活動」が45.9%で最も高く、次いで「地域活動に参加していない」が34.7%、「趣味やスポーツのグループ活動など」が26.5%となっている。

性別でみると、「趣味やスポーツのグループ活動など」「福祉ボランティア活動」「各種講座などの生涯学習」は女性がやや高く、「町内会、PTA、子ども会などの活動」「環境美化・自然保護活動」「まちづくり」「国際交流」は男性がやや高くなっている。

図 性別 地域活動の参加状況



【性年齢別】

女性では40歳代で「町内会、PTA、子ども会などの活動」が61.3%と高く、男女の全年齢層の中で最も高くなっている。60歳代と70歳以上で「趣味やスポーツのグループ活動など」、70歳以上で「環境美化・自然保護活動」「福祉ボランティア活動」が高くなっている。

男性では50歳代と60歳代で「町内会、PTA、子ども会などの活動」が高く、70歳以上で「趣味やスポーツのグループ活動など」が高くなっている。

男女とも若い年齢層で「地域活動に参加していない」が高くなっており、10・20歳代で女性が68.8%、男性が72.0%と約7割を占めている。

表 性年齢別 地域活動の参加状況

		回答者数(n)	町内会、PTA、子ども会などの活動	趣味やスポーツのグループ活動など	環境美化・自然保護活動	福祉ボランティア活動	各種講座などの生涯学習	まちづくり	国際交流	地域活動に参加していない	無回答
全 体		1,017	45.9	26.5	13.2	11.5	7.5	3.1	1.7	34.7	2.6
年 齢 別	10・20 歳代	48	14.6	12.5	2.1	2.1	2.1	—	2.1	68.8	4.2
	30 歳代	71	33.8	7.0	1.4	2.8	4.2	—	2.8	60.6	—
	40 歳代	111	61.3	17.1	9.0	4.5	1.8	0.9	2.7	31.5	1.8
	50 歳代	89	52.8	30.3	7.9	7.9	6.7	—	—	28.1	3.4
	60 歳代	118	50.0	41.5	16.9	18.6	13.6	2.5	—	22.0	2.5
	70 歳以上	117	39.3	39.3	24.8	25.6	16.2	5.1	1.7	23.1	6.8
	10・20 歳代	25	12.0	8.0	12.0	—	—	4.0	—	72.0	—
	30 歳代	47	42.6	23.4	6.4	4.3	6.4	6.4	4.3	42.6	—
	40 歳代	74	47.3	17.6	5.4	4.1	2.7	2.7	1.4	44.6	—
	50 歳代	64	53.1	18.8	14.1	4.7	4.7	4.7	3.1	32.8	1.6
	60 歳代	108	55.6	22.2	13.9	14.8	7.4	6.5	1.9	32.4	0.9
	70 歳以上	134	45.5	38.8	21.6	17.9	9.0	4.5	1.5	25.4	3.0

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目

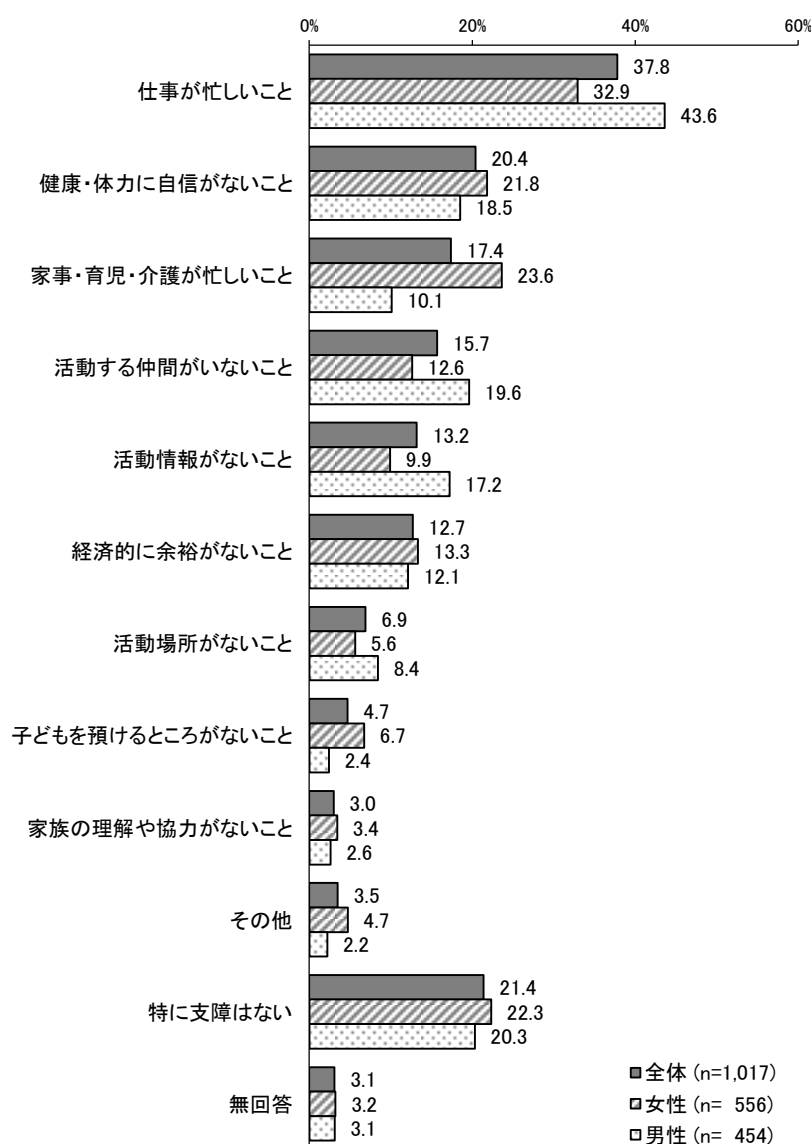
(2) 地域活動に参加する際に支障となること

問 15. あなたが、地域活動に参加する際に、支障となることは何でしょうか。(〇はいくつでも)

「仕事が忙しいこと」が 37.8%で最も高く、次いで「特に支障はない」が 21.4%、「健康・体力に自信がないこと」が 20.4%、「家事・育児・介護が忙しいこと」が 17.4%、「活動する仲間がいないこと」が 15.7%、「活動情報がないこと」が 13.2%、「経済的に余裕がないこと」が 12.7%となっている。

性別でみると、男女とも「仕事が忙しいこと」が最も高く、男性は 43.6%と女性より 10.7 ポイント高くなっている。次いで、女性は「家事・育児・介護が忙しいこと」が 23.6%で男性より 13.5 ポイント高く、男性は「活動する仲間がいないこと」が 19.6%となっている。「活動する仲間がいないこと」と「活動情報がないこと」はいずれも男性が約 7 ポイント高くなっている。

図 性別 地域活動に参加する際に支障となること



【性年齢別】

女性では10・20歳代で「活動する仲間がいないこと」「活動情報がないこと」、30歳代で「家事・育児・介護が忙しいこと」「子どもを預けるところがないこと」、40歳代と50歳代で「仕事が忙しいこと」、70歳以上で「健康・体力に自信がないこと」が高くなっている。

男性では10・20歳代で「活動する仲間がいないこと」「活動情報がないこと」が高くなっている。30歳代から50歳代で「仕事が忙しいこと」が高く、30歳代で72.3%と男女の全年齢層の中で最も高くなっている。

表 性年齢別 地域活動に参加する際に支障となること

		回答者数(n)	仕事が忙しいこと	健康・体力に自信がないこと	家事・育児・介護が忙しいこと	活動する仲間がいないこと	活動情報がないこと	経済的に余裕がないこと	活動場所がないこと	子どもを預けるところがないこと	家族の理解や協力ががないこと	その他	特に支障はない	無回答	
全 体		1,017	37.8	20.4	17.4	15.7	13.2	12.7	6.9	4.7	3.0	3.5	21.4	3.1	
年 齢 別	女性	10・20 歳代	48	39.6	2.1	12.5	25.0	29.2	14.6	10.4	10.4	2.1	8.3	29.2	－
		30 歳代	71	31.0	7.0	46.5	16.9	12.7	12.7	8.5	26.8	1.4	7.0	15.5	2.8
		40 歳代	111	57.7	16.2	36.0	9.9	11.7	21.6	3.6	10.8	3.6	1.8	13.5	－
		50 歳代	89	53.9	15.7	27.0	11.2	3.4	15.7	1.1	1.1	5.6	3.4	23.6	1.1
		60 歳代	118	22.0	28.0	16.1	13.6	5.9	13.6	5.9	－	5.9	5.9	25.4	3.4
		70 歳以上	117	3.4	42.7	7.7	7.7	7.7	3.4	6.8	－	0.9	4.3	27.4	8.5
	男性	10・20 歳代	25	44.0	8.0	12.0	36.0	28.0	16.0	12.0	4.0	8.0	－	24.0	－
		30 歳代	47	72.3	10.6	27.7	27.7	23.4	17.0	10.6	12.8	－	2.1	6.4	－
		40 歳代	74	66.2	5.4	23.0	23.0	18.9	13.5	6.8	4.1	4.1	4.1	14.9	－
		50 歳代	64	67.2	12.5	7.8	18.8	10.9	6.3	6.3	1.6	4.7	1.6	12.5	1.6
		60 歳代	108	41.7	22.2	2.8	19.4	18.5	13.9	13.0	－	1.9	2.8	15.7	2.8
		70 歳以上	134	11.9	29.9	3.7	12.7	14.2	10.4	5.2	－	1.5	1.5	34.3	7.5

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目

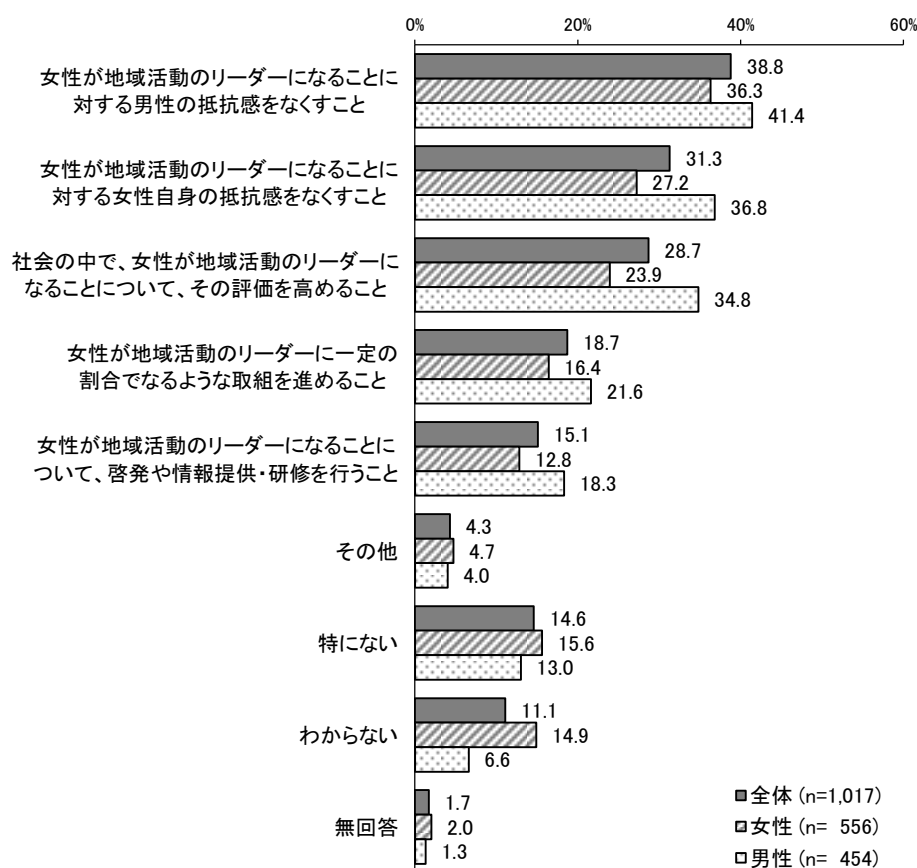
(3) 女性が地域活動のリーダーになるために必要なこと

問 16. あなたは、自治会長やPTA会長など、女性が地域活動のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」が38.8%で最も高く、次いで「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」が31.3%、「社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること」が28.7%となっている。

性別でみると、いずれの項目も男性が高くなっており、「社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること」と「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」は約10ポイント高くなっている。

図 性別 女性が地域活動のリーダーになるために必要なこと



【性年齢別】

女性では 10・20 歳代で「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」が 58.3%と男女の全年齢層の中で最も高くなっている。

男性では 60 歳代と 70 歳以上で「社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること」が高く 4 割を超えている。

表 性年齢別 女性が地域活動のリーダーになるために必要なこと

		回答者数(n)	女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと	女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと	社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること	女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取組を進めること	女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと	その他	特にない	わからない	無回答	
全 体		1,017	38.8	31.3	28.7	18.7	15.1	4.3	14.6	11.1	1.7	
年 齢 別	女 性	10・20 歳代	48	58.3	29.2	37.5	22.9	12.5	—	8.3	14.6	—
		30 歳代	71	31.0	35.2	15.5	8.5	4.2	5.6	12.7	26.8	1.4
		40 歳代	111	31.5	21.6	24.3	12.6	9.9	4.5	15.3	20.7	1.8
		50 歳代	89	33.7	22.5	25.8	18.0	11.2	7.9	23.6	15.7	—
		60 歳代	118	39.8	32.2	21.2	16.9	13.6	5.9	16.9	6.8	—
		70 歳以上	117	34.2	25.6	24.8	20.5	21.4	2.6	13.7	9.4	6.0
	男 性	10・20 歳代	25	48.0	32.0	32.0	16.0	16.0	—	8.0	16.0	—
		30 歳代	47	44.7	34.0	31.9	17.0	12.8	8.5	6.4	8.5	—
		40 歳代	74	43.2	36.5	31.1	24.3	12.2	6.8	20.3	6.8	—
		50 歳代	64	43.8	37.5	17.2	10.9	10.9	3.1	21.9	4.7	1.6
60 歳代		108	39.8	38.9	41.7	21.3	19.4	3.7	13.9	2.8	0.9	
70 歳以上	134	38.1	35.8	41.8	27.6	26.1	2.2	7.5	8.2	3.0		

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目

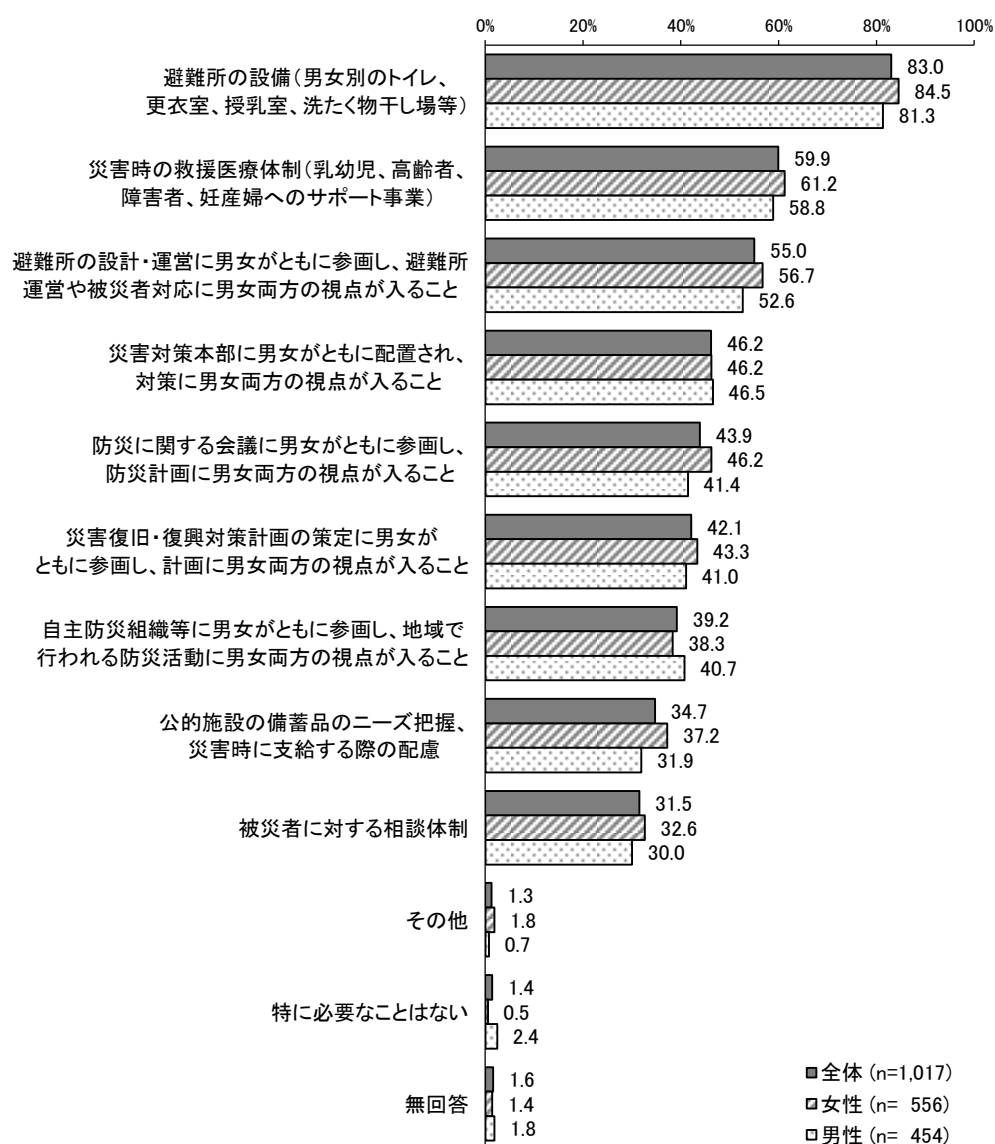
(4) 防災・災害復興対策において性別に配慮した対応が必要なこと

問 17. 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要なことは何だと思いますか。(○はい/△は多少/□はいくつでも)

「避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗たく物干し場等）」が 83.0% で最も高く、次いで「災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポート事業）」が 59.9%、「避難所の設計・運営に男女がともに参画し、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」が 55.0% となっている。

性別でみると、「災害対策本部に男女がともに配置され、対策に男女両方の視点が入ること」と「自主防災組織等に男女がともに参画し、地域で行われる防災活動に男女両方の視点が入ること」は男性がやや高く、それ以外は女性がやや高くなっている。

図 性別 防災・災害復興対策において性別に配慮した対応が必要なこと



【性年齢別】

女性では30歳代と50歳代で「避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗たく物干し場等）」が高く9割を超えている。10・20歳代で「災害復旧・復興対策計画の策定に男女がともに参画し、計画に男女両方の視点が入ること」が52.1%、30歳代で「公的施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮」が46.5%と高くなっている。

男性では30歳代で「災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポート事業）」が78.7%、「災害対策本部に男女がともに配置され、対策に男女両方の視点が入ること」が59.6%と高くなっている。

表 性年齢別 防災・災害復興対策において性別に配慮した対応が必要なこと

		回答者数(n)	避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗たく物干し場等）	災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポート事業）	避難所の設計・運営に男女がともに参画し、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること	災害対策本部に男女がともに配置され、対策に男女両方の視点が入ること	防災に関する会議に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ること	災害復旧・復興対策計画の策定に男女がともに参画し、計画に男女両方の視点が入ること	自主防災組織等に男女がともに参画し、地域で行われる防災活動に男女両方の視点が入ること	公的施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮	被災者に対する相談体制	その他	特に必要なことはない	無回答	
全 体		1,017	83.0	59.9	55.0	46.2	43.9	42.1	39.2	34.7	31.5	1.3	1.4	1.6	
年齢別	女性	10・20 歳代	48	83.3	68.8	50.0	47.9	35.4	52.1	43.8	31.3	33.3	2.1	2.1	2.1
		30 歳代	71	91.5	62.0	62.0	40.8	49.3	45.1	39.4	46.5	26.8	1.4	-	2.8
		40 歳代	111	88.3	56.8	57.7	44.1	41.4	46.8	27.0	38.7	30.6	2.7	-	-
		50 歳代	89	91.0	57.3	53.9	50.6	47.2	36.0	32.6	31.5	25.8	2.2	-	1.1
		60 歳代	118	83.1	62.7	57.6	44.1	48.3	45.8	44.1	36.4	38.1	0.8	-	1.7
		70 歳以上	117	73.5	62.4	55.6	48.7	49.6	37.6	43.6	36.8	35.9	1.7	1.7	1.7
	男性	10・20 歳代	25	88.0	64.0	56.0	48.0	40.0	36.0	36.0	20.0	12.0	-	4.0	-
		30 歳代	47	83.0	78.7	46.8	59.6	53.2	40.4	44.7	36.2	25.5	-	-	-
		40 歳代	74	86.5	52.7	50.0	39.2	36.5	35.1	32.4	40.5	31.1	-	2.7	-
		50 歳代	64	82.8	54.7	40.6	35.9	35.9	35.9	31.3	26.6	18.8	-	1.6	3.1
		60 歳代	108	83.3	62.0	57.4	49.1	46.3	50.0	48.1	31.5	32.4	2.8	1.9	-
		70 歳以上	134	74.6	53.7	57.5	48.5	38.8	40.3	43.3	30.6	36.6	-	3.7	4.5

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目

5. 仕事について

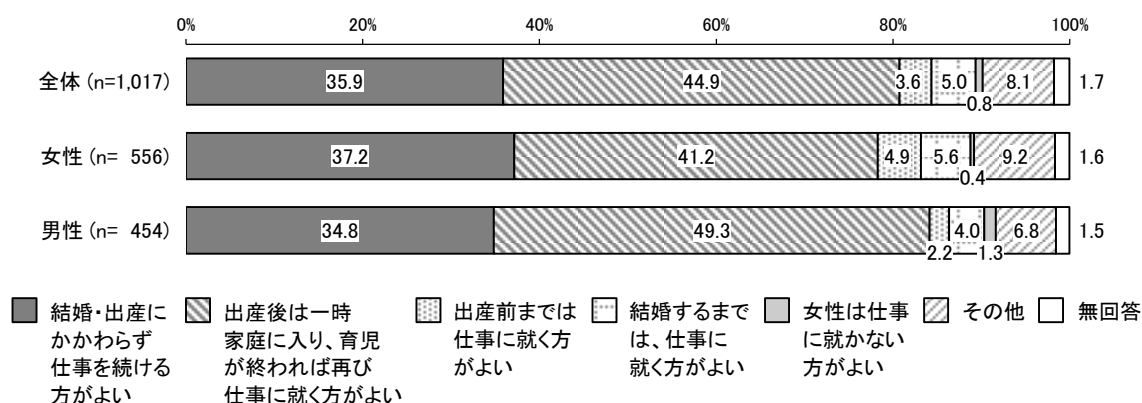
(1) 女性の就労についての考え方

問 18. 女性が仕事をするということについてあなたはどのようにお考えですか。(〇は1つ)

「出産後は一時家庭に入り、育児が終われば再び仕事に就く方がよい」が44.9%で最も高く、次いで「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」が35.9%となっている。

性別でみると、「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」は女性が高く、「出産後は一時家庭に入り、育児が終われば再び仕事に就く方がよい」は男性が高くなっている。

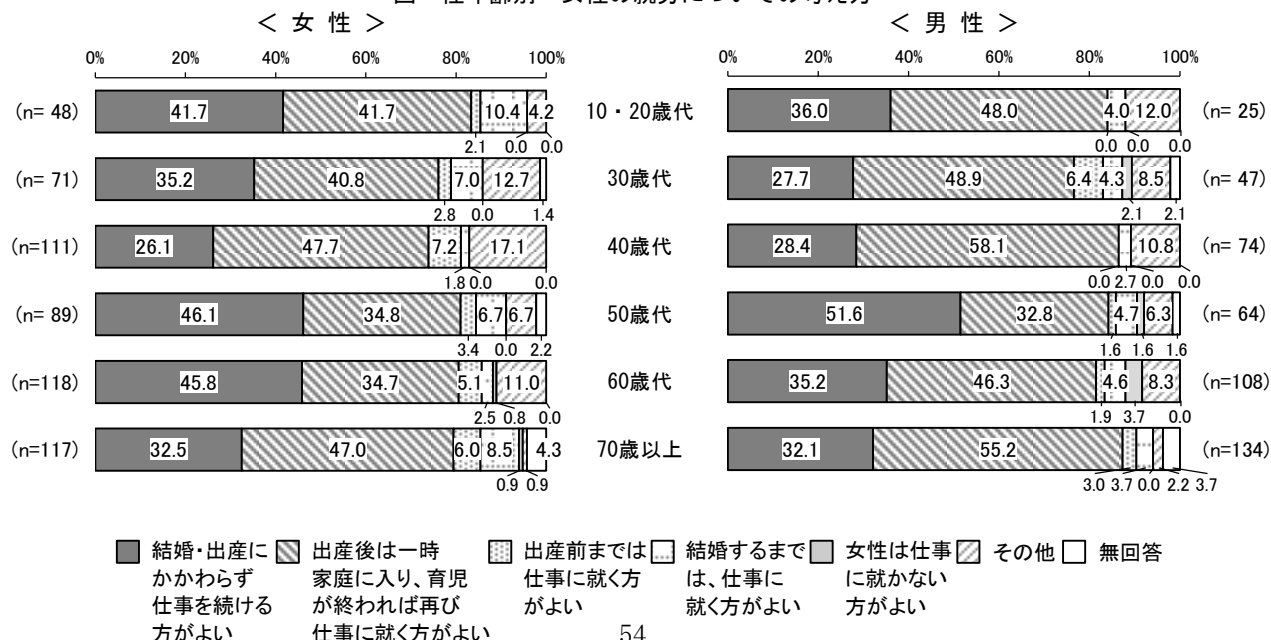
図 性別 女性の就労についての考え方



【性年齢別】

女性では50歳代と60歳代で「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」が高く、10・20歳代で「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」と「出産後は一時家庭に入り、育児が終われば再び仕事に就く方がよい」が同率となっている。男性では50歳代で「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」が高く、40歳代と70歳以上で「出産後は一時家庭に入り、育児が終われば再び仕事に就く方がよい」が高く、いずれも5割を超えている。

図 性年齢別 女性の就労についての考え方



（２）今の職場・仕事に対する不満や悩み

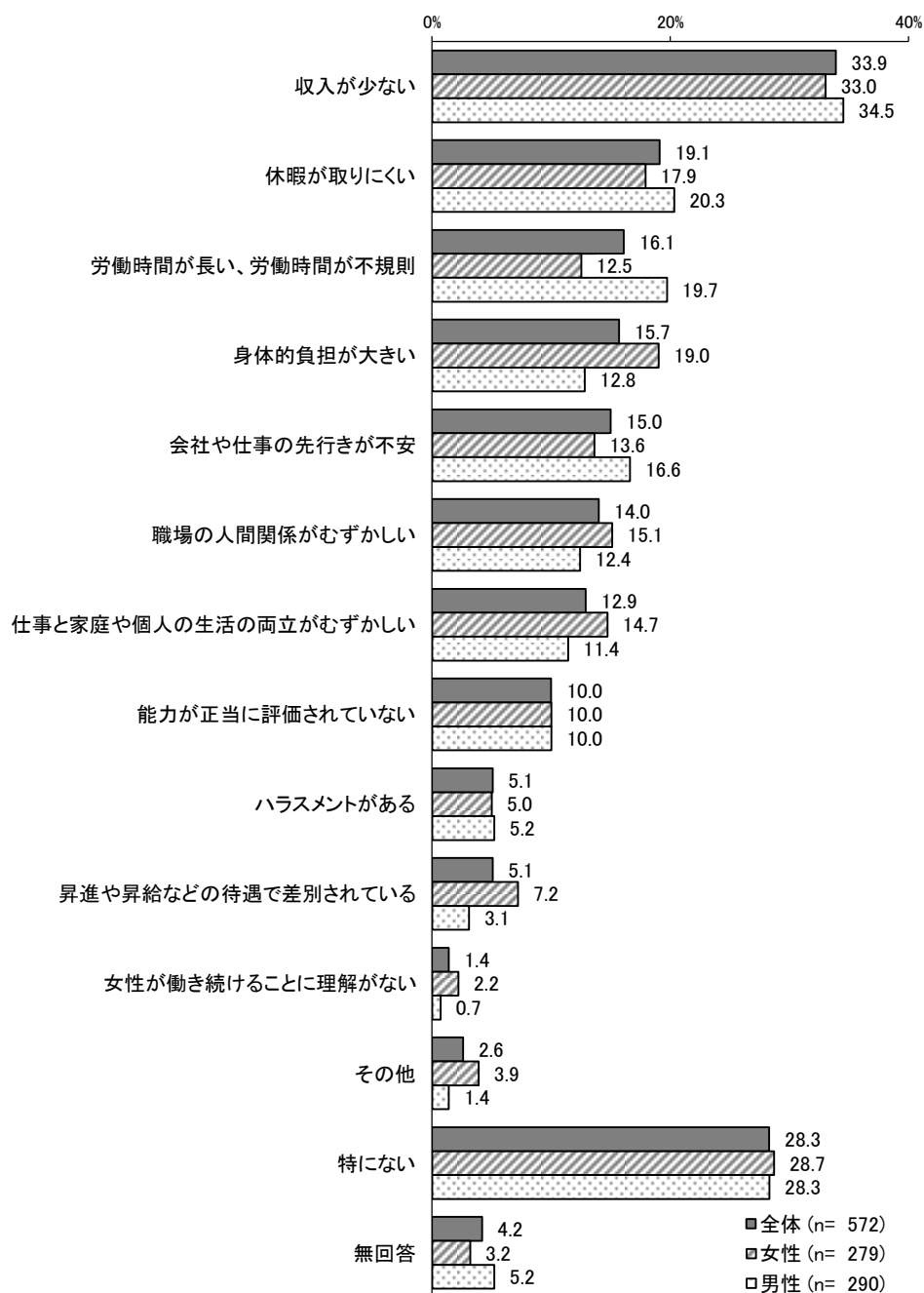
現在就労している方のみお答えください

問 19. あなたは、今の職場・仕事に不満や悩みがありますか。（〇はいくつでも）

「収入が少ない」が 33.9% で最も高く、次いで「特にない」が 28.3%、「休暇が取りにくい」が 19.1%、「労働時間が長い、労働時間が不規則」が 16.1%、「身体的負担が大きい」が 15.7%、「会社や仕事の先行きが不安」が 15.0% となっている。

性別でみると、男女とも「収入が少ない」が最も高く、次いで、女性は「身体的負担が大きい」が 19.0%、「休暇が取りにくい」が 17.9%、男性は「休暇が取りにくい」が 20.3%、「労働時間が長い、労働時間が不規則」が 19.7% となっている。

図 性別 今の職場・仕事に対する不満や悩み



【性年齢別】

女性では 10・20 歳代で「収入が少ない」「労働時間が長い、労働時間が不規則」「職場の人間関係がむずかしい」が高く、30 歳代と 40 歳代で「仕事と家庭や個人の生活の両立がむずかしい」が高くなっている。

男性では 30 歳代で「収入が少ない」「休暇が取りにくい」「仕事と家庭や個人の生活の両立がむずかしい」が高く、「仕事と家庭や個人の生活の両立がむずかしい」は 36.4%と男女の全年齢層の中で最も高くなっている。30 歳代と 40 歳代で「労働時間が長い、労働時間が不規則」が高くなっている。

表 性年齢別 今の職場・仕事に対する不満や悩み

		回答者数(n)	収入が少ない	休暇が取りにくい	労働時間が長い、労働時間が不規則	身体的負担が大きい	会社や仕事の先行きが不安	職場の人間関係がむずかしい	仕事と家庭や個人の生活の両立がむずかしい	能力が正當に評価されていない	ハラスメントがある	
全 体		572	33.9	19.1	16.1	15.7	15.0	14.0	12.9	10.0	5.1	
年 齢 別	女性	10・20 歳代	22	45.5	27.3	27.3	18.2	13.6	22.7	9.1	4.5	13.6
		30 歳代	43	41.9	20.9	16.3	20.9	16.3	11.6	23.3	9.3	2.3
		40 歳代	90	33.3	15.6	13.3	22.2	15.6	16.7	21.1	8.9	6.7
		50 歳代	73	27.4	19.2	12.3	17.8	12.3	17.8	8.2	12.3	4.1
		60 歳代	39	35.9	15.4	2.6	12.8	12.8	10.3	10.3	12.8	2.6
		70 歳以上	11	－	9.1	－	18.2	－	－	－	9.1	－
	男性	10・20 歳代	13	23.1	30.8	7.7	7.7	15.4	7.7	－	－	7.7
		30 歳代	44	45.5	36.4	31.8	18.2	22.7	20.5	36.4	11.4	11.4
		40 歳代	74	32.4	18.9	28.4	12.2	21.6	20.3	10.8	14.9	5.4
		50 歳代	61	31.1	26.2	13.1	8.2	16.4	14.8	11.5	11.5	6.6
		60 歳代	70	40.0	12.9	12.9	12.9	10.0	2.9	1.4	8.6	1.4
		70 歳以上	27	22.2	－	14.8	18.5	11.1	－	3.7	－	－

		回答者数(n)	昇進や昇給などの待遇 で差別されている	女性が働き続けること に理解がない	その他	特 に ない	無 回 答	
全 体		572	5.1	1.4	2.6	28.3	4.2	
年 齢 別	女 性	10・20 歳代	22	9.1	4.5	4.5	22.7	－
		30 歳代	43	7.0	4.7	－	27.9	4.7
		40 歳代	90	10.0	2.2	4.4	30.0	－
		50 歳代	73	6.8	－	4.1	28.8	1.4
		60 歳代	39	2.6	2.6	7.7	25.6	5.1
		70 歳以上	11	－	－	－	36.4	36.4
	男 性	10・20 歳代	13	－	－	－	38.5	－
		30 歳代	44	4.5	2.3	2.3	15.9	－
		40 歳代	74	8.1	1.4	1.4	27.0	1.4
		50 歳代	61	1.6	－	3.3	27.9	－
		60 歳代	70	－	－	－	35.7	7.1
		70 歳以上	27	－	－	－	29.6	29.6

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目
(回答者数が 15 件未満の場合は網掛けなし)

(3) 今後の就労意向

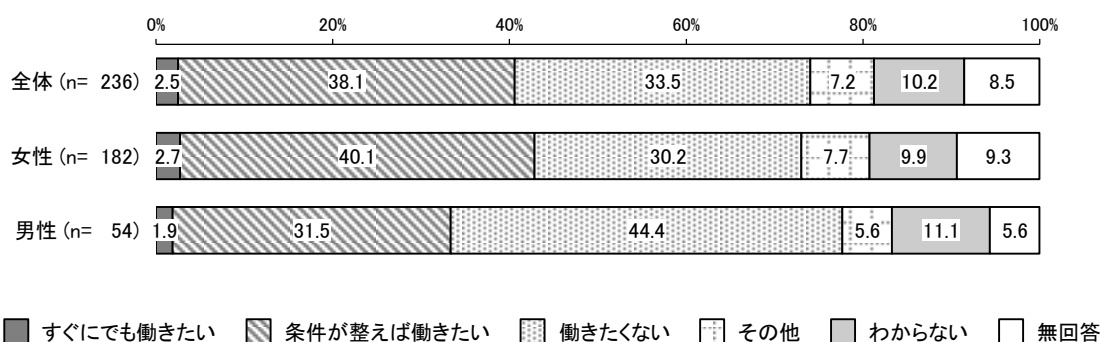
現在働いていない方のみお答えください

問 20. 問4で、「6. 専業主婦・専業主夫」または「7. 無職」と答えた方におたずねします。
あなたは、今後、働きたいと思いますか。(〇は1つ)

「条件が整えば働きたい」が38.1%で最も高く、次いで「働きたくない」が33.5%、「わからない」が10.2%となっている。

性別でみると、女性では「条件が整えば働きたい」が40.1%、「働きたくない」が30.2%となっている。男性では「働きたくない」が44.4%、「条件が整えば働きたい」が31.5%となっている。

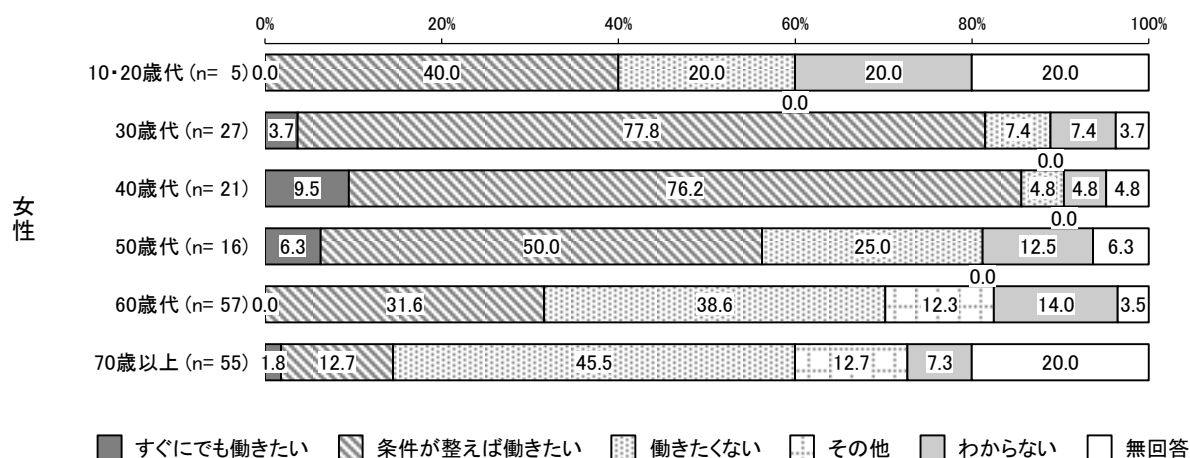
図 性別 今後の就労意向



【性年齢別】

女性では30歳代と40歳代で「条件が整えば働きたい」が高く75%以上を占めている。60歳代では「働きたくない」が38.6%、「条件が整えば働きたい」が31.6%と拮抗しており、70歳以上では「働きたくない」が45.5%と最も高くなっている。

図 年齢別 今後の就労意向



※男性は回答者数 (n=54) が少ないため、年齢別グラフを省略しています。

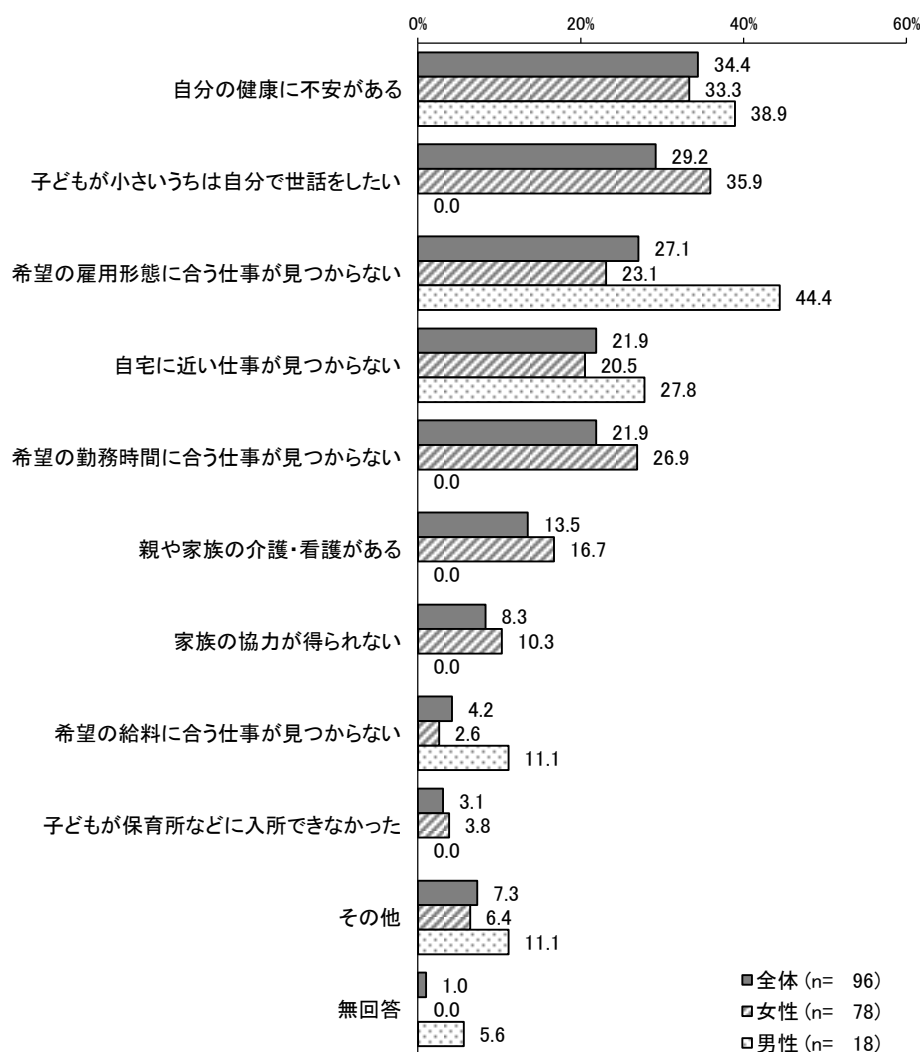
(4) 現在、働いていない理由

問 21. 問 20 で、「1. すぐにでも働きたい」または「2. 条件が整えば働きたい」と答えた方におたずねします。現在、働いていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「自分の健康に不安がある」が 34.4% で最も高く、次いで「子どもが小さいうちは自分で世話をしたい」が 29.2%、「希望の雇用形態に合う仕事が見つからない」が 27.1% となっている。

性別でみると、女性では「子どもが小さいうちは自分で世話をしたい」が 35.9% で最も高く、次いで「自分の健康に不安がある」が 33.3%、「希望の勤務時間に合う仕事が見つからない」が 26.9% となっている。男性では「希望の雇用形態に合う仕事が見つからない」が 44.4% (8 人)、「自分の健康に不安がある」が 38.9% (7 人)、「自宅に近い仕事が見つからない」が 27.8% (5 人) となっている。

図 性別 現在、働いていない理由



【性年齢別】

女性では30歳代と40歳代で「子どもが小さいうちは自分で世話をしたい」が高く、60歳代で「親や家族の介護・看護がある」が高くなっている。

表 年齢別 現在、働いていない理由

		回答者数(n)	自分の健康に不安がある	子どもが小さいうちは自分で世話をしたい	希望の雇用形態に合う仕事が見つからない	自宅に近い仕事が見つからない	希望の勤務時間に合う仕事が見つからない	親や家族の介護・看護がある	い家族の協力が得られない	希望の給料に合う仕事が見つからない	子どもが保育所などに入所できなかった	その他	無回答
全 体		96	34.4	29.2	27.1	21.9	21.9	13.5	8.3	4.2	3.1	7.3	1.0
年齢別	10・20歳代	2	—	—	—	100.0	50.0	—	—	—	50.0	—	—
	30歳代	22	9.1	68.2	22.7	9.1	31.8	4.5	9.1	4.5	9.1	13.6	—
	40歳代	18	33.3	66.7	22.2	27.8	33.3	11.1	11.1	5.6	—	5.6	—
	50歳代	9	66.7	—	11.1	22.2	22.2	22.2	33.3	—	—	—	—
	60歳代	18	44.4	—	27.8	11.1	16.7	44.4	—	—	—	—	—
	70歳以上	8	50.0	—	37.5	37.5	25.0	—	12.5	—	—	12.5	—

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目

(回答者数が15件未満の場合は網掛けなし)

※男性は回答者数(n=18)が少ないため、年齢別グラフを省略しています。

6. ドメスティック・バイオレンス、ハラスメントなどについて

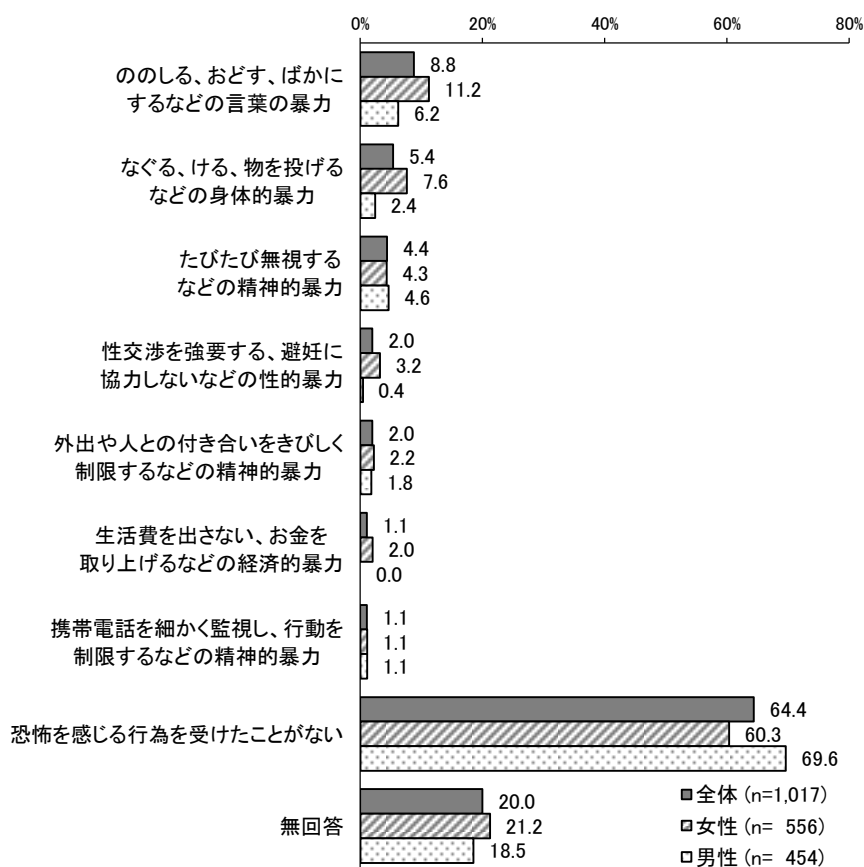
(1) DVにあたる行為を受けた経験

問 22. あなたは、配偶者・パートナーや恋人から一度でも次のような行為を受けて恐怖を感じた経験がありますか。(〇はいくつでも)

恐怖を感じた経験は、「ののしる、おどす、ばかにするなどの言葉の暴力」が 8.8%、「なぐる、ける、物を投げるなどの身体的暴力」が 5.4%、「たびたび無視するなどの精神的暴力」が 4.4%、「性交渉を強要する、避妊に協力しないなどの性的暴力」と「外出や人との付き合いをきびしく制限するなどの精神的暴力」がともに 2.0%、「生活費を出さない、お金を取り上げるなどの経済的暴力」と「携帯電話を細かく監視し、行動を制限するなどの精神的暴力」がともに 1.1%となっている。「恐怖を感じる行為を受けたことがない」は 64.4%となっている。

性別でみると、精神的暴力についてはいずれも男女でほぼ同率となっているが、「ののしる、おどす、ばかにするなどの言葉の暴力」「なぐる、ける、物を投げるなどの身体的暴力」は女性が 5 ポイント以上高くなっている。「恐怖を感じる行為を受けたことがない」は、女性は約 6 割、男性は約 7 割となっており、男性が約 10 ポイント高くなっている。

図 性別 DVにあたる行為を受けた経験



【性年齢別】

女性では40歳代から60歳代で「ののしる、おどす、ばかにするなどの言葉の暴力」が高く、1割を超えており、50歳代では「なぐる、ける、物を投げるなどの身体的暴力」も1割を超えている。男性では40歳代で「ののしる、おどす、ばかにするなどの言葉の暴力」が高く10.8%となっている。10・20歳代では「恐怖を感じる行為を受けたことがない」が96.0%と最も高くなっている。

表 性年齢別 DVにあたる行為を受けた経験

		回答者数(n)	ののしる、おどす、ばかにするなどの言葉の暴力	なぐる、ける、物を投げるなどの身体的暴力	たびたび無視するなどの精神的暴力	性交渉を強要する、避妊に協力しないなどの性的暴力	外出や人との付き合いをきびしく制限するなどの精神的暴力	生活費を出さない、お金を取り上げるなどの経済的暴力	携帯電話を細かく監視し、行動を制限するなどの精神的暴力	恐怖を感じる行為を受けたことがない	無回答
全 体		1,017	8.8	5.4	4.4	2.0	2.0	1.1	1.1	64.4	20.0
年 齢 別	10・20 歳代	48	8.3	6.3	6.3	4.2	2.1	—	2.1	79.2	8.3
	30 歳代	71	9.9	5.6	5.6	4.2	2.8	4.2	—	74.6	14.1
	40 歳代	111	13.5	9.0	5.4	2.7	2.7	1.8	2.7	61.3	13.5
	50 歳代	89	16.9	12.4	3.4	4.5	4.5	3.4	1.1	50.6	22.5
	60 歳代	118	11.0	5.1	5.1	3.4	1.7	1.7	0.8	59.3	21.2
	70 歳以上	117	6.8	6.8	1.7	1.7	—	0.9	—	50.4	37.6
	10・20 歳代	25	—	—	—	—	—	—	—	96.0	4.0
	30 歳代	47	6.4	4.3	8.5	—	6.4	—	2.1	78.7	4.3
	40 歳代	74	10.8	4.1	4.1	1.4	1.4	—	1.4	77.0	9.5
	50 歳代	64	6.3	1.6	3.1	—	3.1	—	1.6	70.3	17.2
	60 歳代	108	6.5	2.8	2.8	—	1.9	—	0.9	69.4	18.5
	70 歳以上	134	3.7	0.7	6.0	—	—	—	0.7	58.2	31.3

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目

(2) DVの相談状況

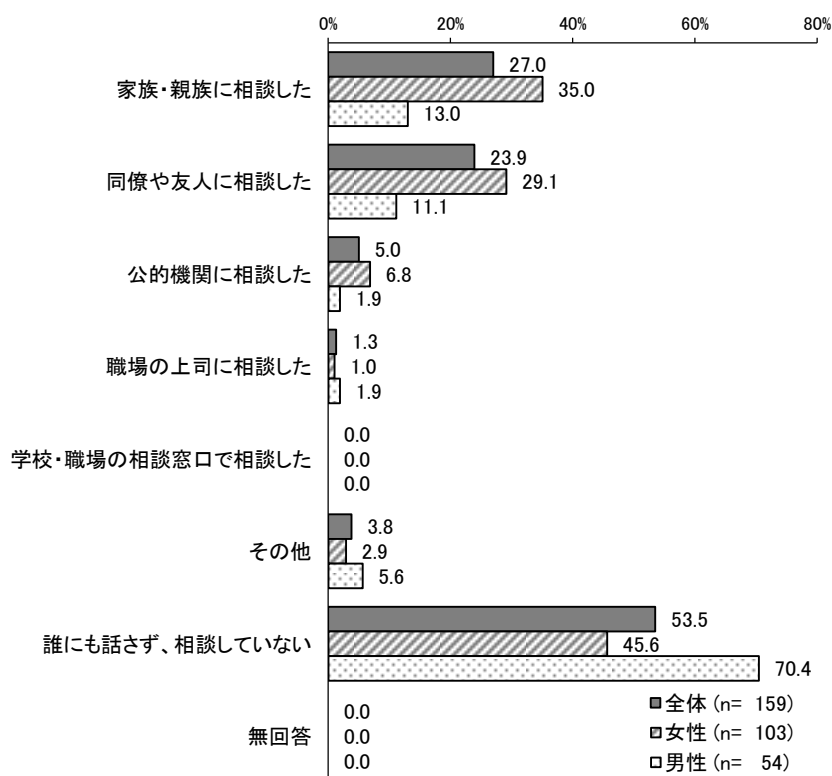
問 22 で、1～7の行為を受けた経験がある方にお聞きします

問 23. あなたは、そのことを誰かに話したり、相談したりしましたか。(〇はいくつでも)

「誰にも話さず、相談していない」が53.5%で5割を超えている。「家族・親族に相談した」が27.0%、「同僚や友人に相談した」が23.9%、「公的機関に相談した」が5.0%となっている。

性別でみると、女性では「家族・親族に相談した」が35.0%、「同僚や友人に相談した」が29.1%、「公的機関に相談した」が6.8%で、「誰にも話さず、相談していない」が45.6%となっている。男性では「誰にも話さず、相談していない」が約7割を占めており、「家族・親族に相談した」「同僚や友人に相談した」は1割台となっている。

図 性別 DVの相談状況



【性年齢別】

女性では40歳代から60歳代でみると、60歳代は「同僚や友人に相談した」が高く、40歳代と50歳代は「家族・親族に相談した」が高くなっており、年代が高くなるほど「誰にも話さず、相談していない」が高くなっている。

男性では50歳代と60歳代で「誰にも話さず、相談していない」が高く約9割を占めている。

表 性年齢別 DVの相談状況

		回答者数 (n)	家族・親族に 相談した	同僚や友人に 相談した	公的機関に 相談した	職場の上司に 相談した	学校・職場の 相談窓口で 相談した	その他	誰にも話さず、 相談して いない	無回答
全 体		159	27.0	23.9	5.0	1.3	-	3.8	53.5	-
年 齢 別	10・20 歳代	6	16.7	33.3	-	-	-	16.7	50.0	-
	30 歳代	8	62.5	37.5	12.5	12.5	-	-	25.0	-
	40 歳代	28	42.9	25.0	10.7	-	-	-	32.1	-
	50 歳代	24	37.5	29.2	8.3	-	-	-	45.8	-
	60 歳代	23	21.7	39.1	4.3	-	-	4.3	56.5	-
	70 歳以上	14	28.6	14.3	-	-	-	7.1	64.3	-
	10・20 歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30 歳代	8	12.5	25.0	-	12.5	-	-	62.5	-
	40 歳代	10	30.0	-	10.0	-	-	-	60.0	-
	50 歳代	8	-	12.5	-	-	-	-	87.5	-
	60 歳代	13	7.7	-	-	-	-	-	92.3	-
	70 歳以上	14	14.3	14.3	-	-	-	21.4	57.1	-

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目
(回答者数が15件未満の場合は網掛けなし)

(3) DVを相談しなかった理由

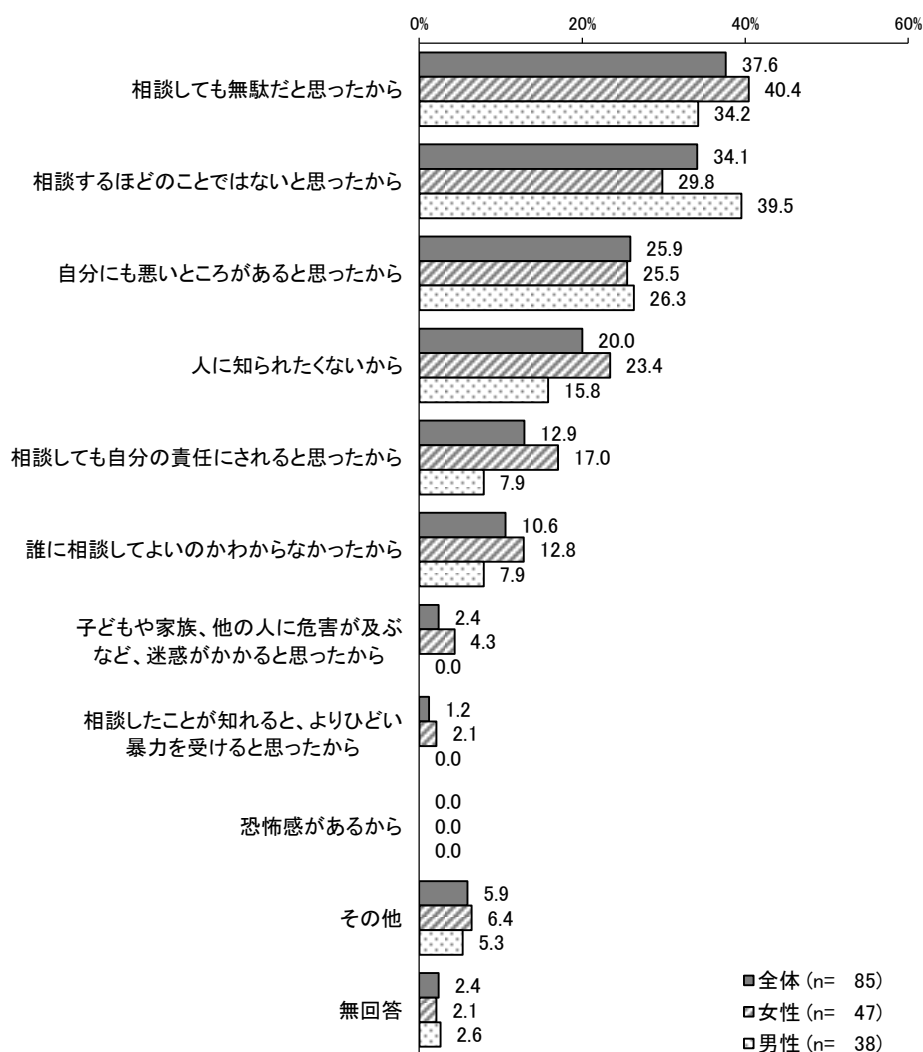
問23で、「7. 誰にも話さず、相談していない」とお答えの方にお聞きします

問24. 相談しなかったのは、なぜですか。(〇はいくつでも)

「相談しても無駄だと思ったから」が37.6%で最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」が34.1%、「自分にも悪いところがあると思ったから」が25.9%、「人に知られたくないから」が20.0%となっている。

性別でみると、女性では「相談しても無駄だと思ったから」が40.4%で最も高く、男性では「相談するほどのことではないと思ったから」が39.5%で最も高くなっている。次いで、男女とも「自分にも悪いところがあると思ったから」が約25%でほぼ同率となっている。これら以外の理由はいずれも女性が高くなっている。

図 性別 DVを相談しなかった理由



【性年齢別】

女性では50歳代以下は「相談しても無駄だと思ったから」を挙げる人が比較的多く、60歳代と70歳以上は理由が多岐にわたっている。男性では60歳代は「相談しても無駄だと思ったから」が高くなっており、50歳代は「相談しても無駄だと思ったから」「相談するほどのことではないと思ったから」が同率で高くなっている。

表 性年齢別 DVを相談しなかった理由

		回答者数(n)	相談しても無駄だと思ったから	相談するほどのことではないと思ったから	自分にも悪いところがあると思ったから	人にも知られたくないから	相談しても自分の責任にされると思ったから	相談しても自分の責任にされなかったから	誰に相談してよいのかわからなかったから	かかると思ったから	子どもや家族、他の人に危害が及ぶなど、迷惑がかかると思ったから	相談したことが知れると、よりひどい暴力を受けると思ったから	恐怖感があるから	その他	無回答	
全 体		85	37.6	34.1	25.9	20.0	12.9	10.6	2.4	1.2	-	-	5.9	2.4		
年 齢 別	女性	10・20 歳代	3	66.7	66.7	-	-	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	
		30 歳代	2	100.0	100.0	50.0	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-	
		40 歳代	9	44.4	22.2	33.3	-	11.1	-	11.1	-	-	11.1	-	-	
		50 歳代	11	54.5	36.4	18.2	36.4	18.2	-	-	-	-	9.1	-	-	
		60 歳代	13	23.1	15.4	23.1	23.1	15.4	23.1	7.7	-	-	7.7	7.7	7.7	
		70 歳以上	9	22.2	22.2	33.3	33.3	22.2	11.1	-	11.1	-	-	-	-	
	男性	10・20 歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		30 歳代	5	-	40.0	40.0	20.0	20.0	-	-	-	-	-	20.0	-	-
		40 歳代	6	50.0	50.0	16.7	16.7	-	16.7	-	-	-	-	-	-	-
		50 歳代	7	57.1	57.1	14.3	14.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		60 歳代	12	50.0	16.7	33.3	25.0	8.3	16.7	-	-	-	-	-	-	-
		70 歳以上	8	-	50.0	25.0	-	12.5	-	-	-	-	-	12.5	12.5	12.5

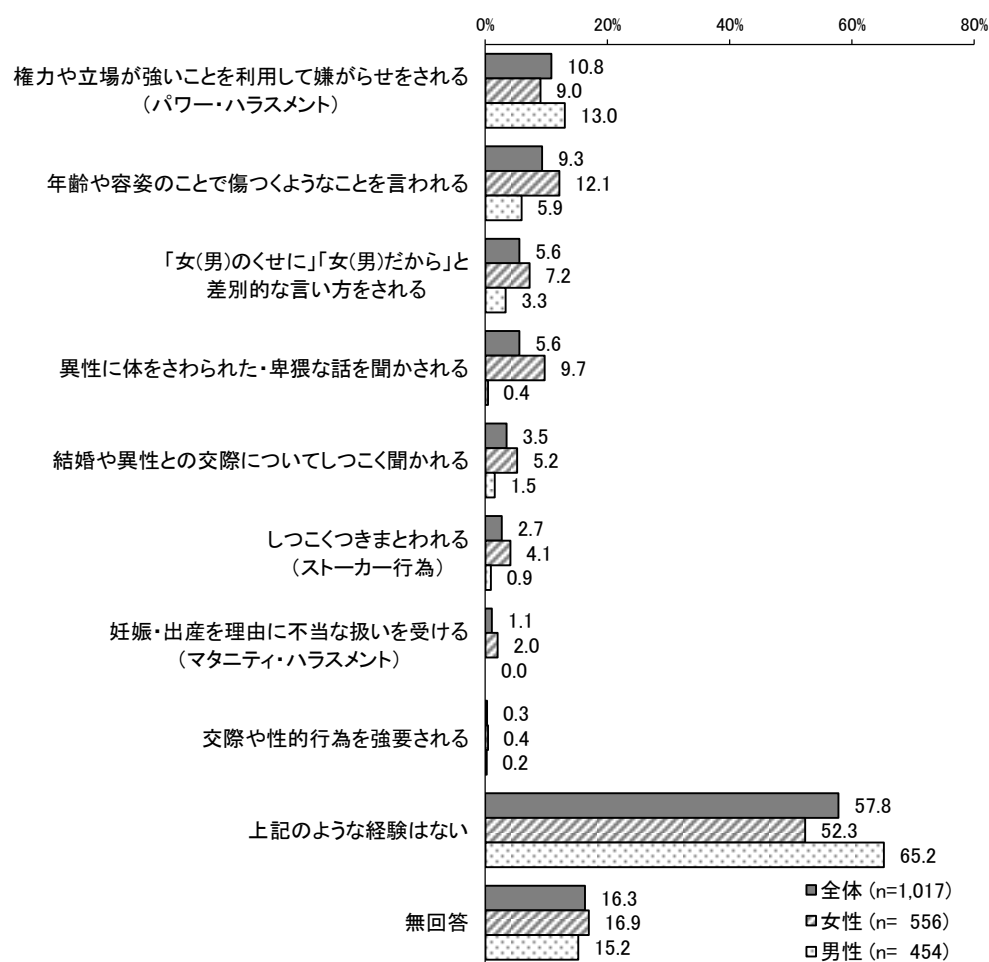
(4) ハラスメント等を受けた経験

問 25. あなたは、職場や学校、その他の活動の場で次のような不快と感じる行為を受けたことがありますか。(〇はいくつでも)

「権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる(パワー・ハラスメント)」が10.8%、「年齢や容姿のことで傷つくようなことを言われる」が9.3%、『女(男)のくせに』『女(男)だから』と差別的な言い方をされる」と「異性に体をさわられた・卑猥な話を聞かされる」がともに5.6%となっている。「上記のような経験はない」は57.8%となっている。

性別でみると、「権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる(パワー・ハラスメント)」は男性が高くなっており、それ以外のハラスメントの経験は女性が高くなっている。「上記のような経験はない」は女性が52.3%、男性が65.2%で、男性が12.9ポイント高くなっている。

図 性別 ハラスメント等を受けた経験



【性年齢別】

女性では30歳代で「異性に体をさわられた・卑猥な話を聞かされる」「結婚や異性との交際についてしつこく聞かれる」が高く、50歳代以下で「年齢や容姿のことで傷つくようなことを言われる」が高くなっている。

男性では60歳代以下で「権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる（パワー・ハラスメント）」がいずれも1割台となっており、10・20歳代と30歳代で「年齢や容姿のことで傷つくようなことを言われる」がいずれも1割台となっている。10・20歳代と30歳代では「上記のような経験はない」が高く7割を超えている。

表 性年齢別 ハラスメント等を受けた経験

		回答者数(n)									上記のような経験はない	無回答	
全 体		1,017	10.8	9.3	5.6	5.6	3.5	2.7	1.1	0.3	57.8	16.3	
年齢別	女性	10・20 歳代	48	10.4	18.8	10.4	10.4	14.6	4.2	2.1	—	54.2	6.3
		30 歳代	71	2.8	16.9	5.6	19.7	18.3	9.9	2.8	—	50.7	7.0
		40 歳代	111	15.3	18.9	7.2	12.6	4.5	5.4	3.6	0.9	46.8	10.8
		50 歳代	89	18.0	16.9	10.1	9.0	3.4	3.4	2.2	—	51.7	11.2
		60 歳代	118	7.6	7.6	6.8	7.6	0.8	2.5	1.7	0.8	58.5	16.1
		70 歳以上	117	0.9	0.9	5.1	3.4	—	1.7	—	—	52.1	37.6
	男性	10・20 歳代	25	12.0	12.0	8.0	—	8.0	—	—	—	72.0	—
		30 歳代	47	12.8	10.6	—	—	4.3	2.1	—	—	76.6	4.3
		40 歳代	74	13.5	9.5	4.1	—	—	—	—	—	68.9	8.1
		50 歳代	64	15.6	6.3	3.1	1.6	3.1	—	—	—	68.8	7.8
		60 歳代	108	15.7	6.5	2.8	—	—	0.9	—	—	63.9	16.7
		70 歳以上	134	9.7	0.7	3.7	—	—	0.7	—	—	58.2	27.6

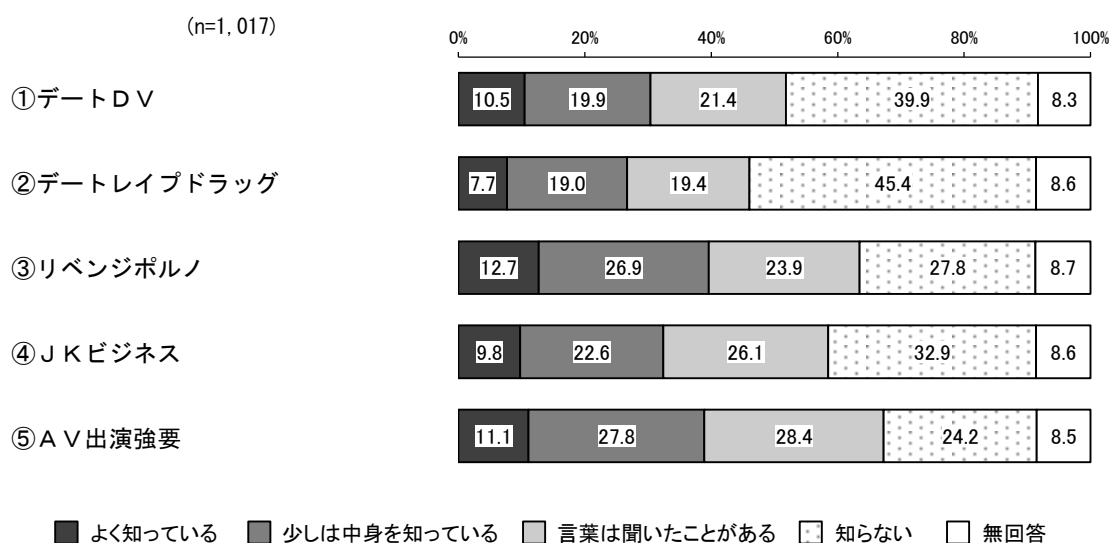
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目

(5) 主に女性が被害にあっている問題の認知度

問 26. あなたは、主に女性が被害にあっている次の問題について知っていますか。(○は①～⑤それぞれに1つ)

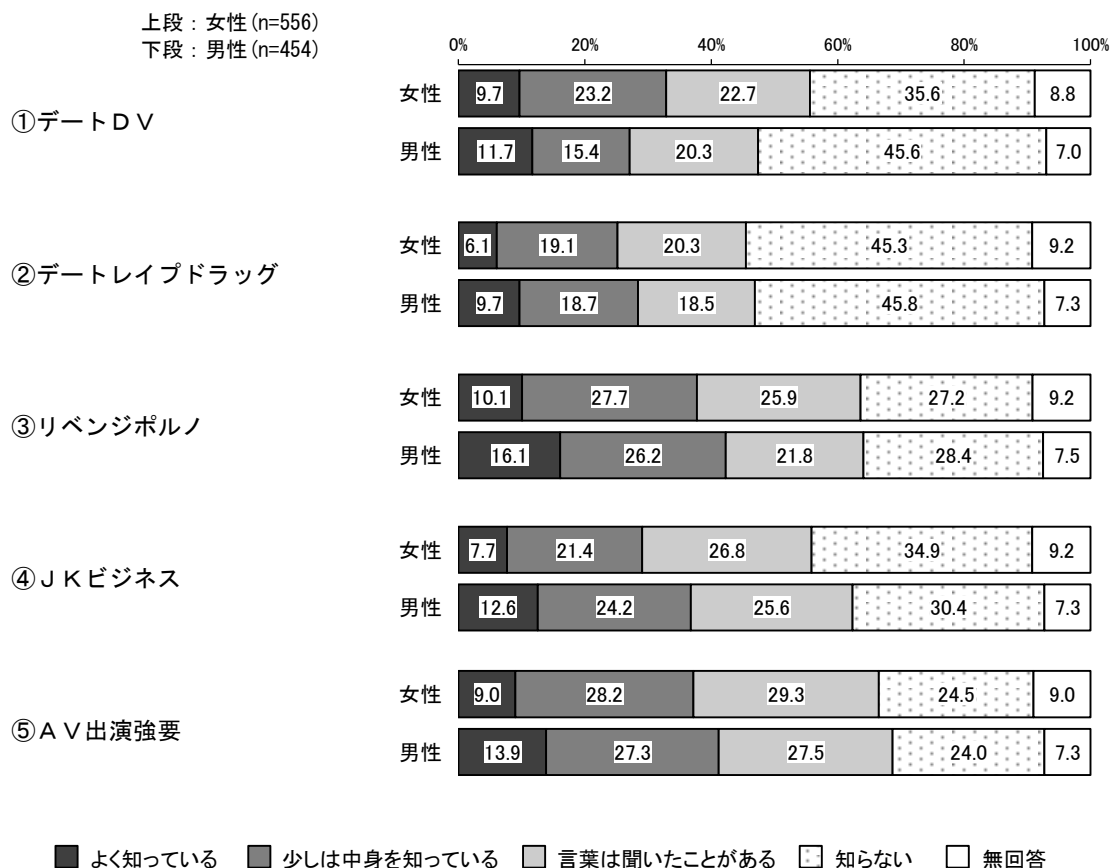
いずれの問題も「よく知っている」は1割前後にとどまっているが、認知度（「よく知っている」と「少しは中身を知っている」と「言葉は聞いたことがある」の合計）は、「⑤A V出演強要」が67.3%、「③リベンジポルノ」が63.5%、「④J Kビジネス」が58.5%、「①デートDV」が51.8%と5割を超えている。「②デートレイプドラッグ」については、認知度は46.1%となっており、「知らない」（45.4%）と拮抗している。

図 主に女性が被害にあっている問題の認知度



性別でみると、いずれの問題も「よく知っている」は男性が高くなっている。「①デートDV」の認知度は女性が高くなっているが、それ以外の問題についてはいずれも男性が高くなっている。

図 性別 主に女性が被害にあっている問題の認知度



【性年齢別】

<①デートDV>

女性では10・20歳代で「よく知っている」が20.8%と高く、認知度が最も高くなっている。男性では30歳代と40歳代で「よく知っている」が高く2割台となっており、30歳代で認知度が最も高くなっている。60歳代と70歳以上では認知度が4割弱と低くなっている。

<②デートレイプドラッグ>

女性では40歳代で認知度が高く、男性では30歳代から50歳代で認知度が高く、男性の40歳代では「よく知っている」が23.0%と最も高くなっている。男女とも10・20歳代では認知度が低くとなっており、「知らない」が女性は約6割、男性は8割を占めている。

<③リベンジポルノ>

女性では40歳代で認知度が高く84.6%となっており、10・20歳代で「よく知っている」が25.0%と高くなっている。男性では30歳代で認知度が高く85.1%となっており、30歳代と40歳代では「よく知っている」が約3割となっている。男女とも70歳以上では認知度が4割以下と低くなっている。

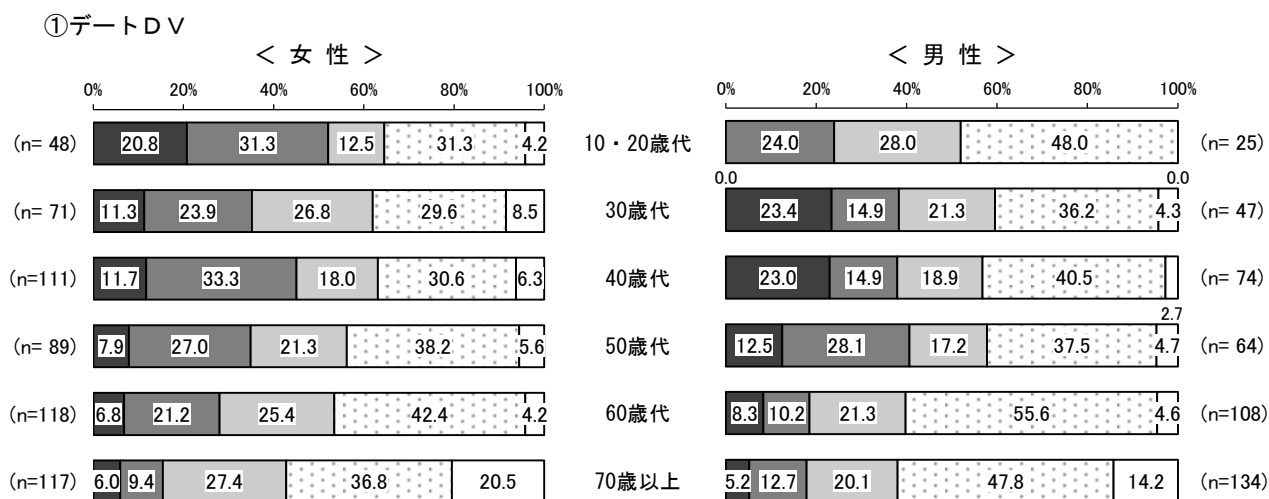
<④JKビジネス>

女性では40歳代で認知度が高く74.7%となっている。男性では30歳代で認知度が高く82.9%となっており、40歳代では「よく知っている」が27.0%と高くなっている。男女とも70歳以上では認知度が低く、女性は約3割となっている。

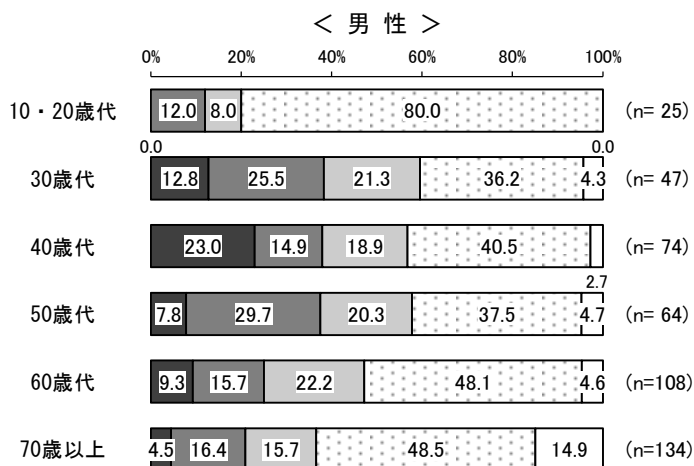
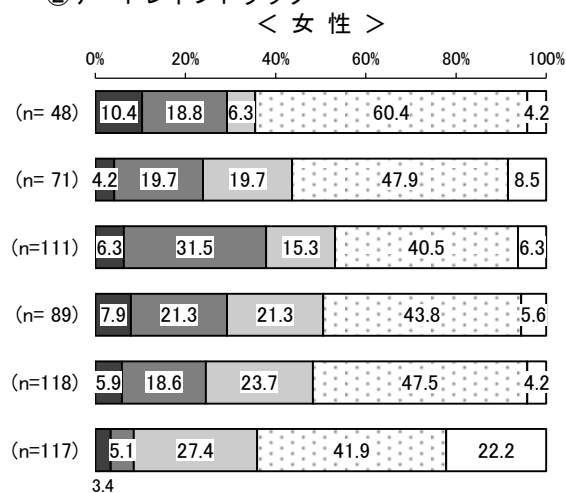
<⑤AV出演強要>

男女とも40歳代で認知度が高く、女性が81.9%、男性が83.8%となっており、男性は「よく知っている」が29.7%と高くなっている。男女とも70歳以上では認知度が低く、女性は約4割となっている。

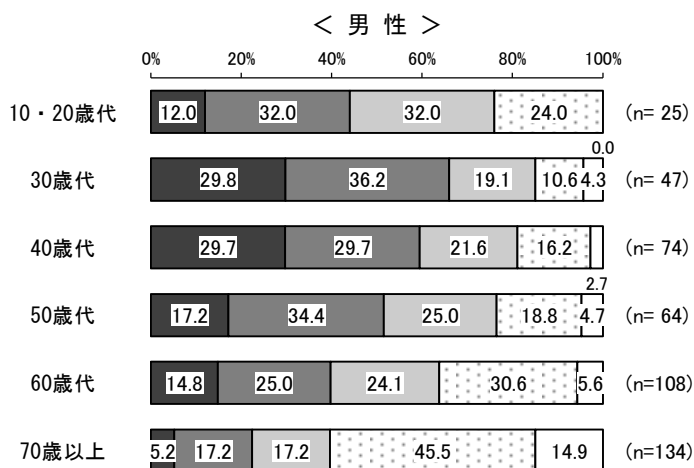
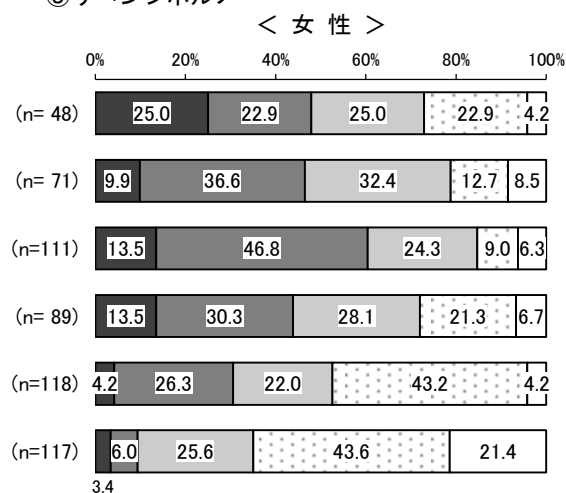
図 性年齢別 主に女性が被害にあっている問題の認知度



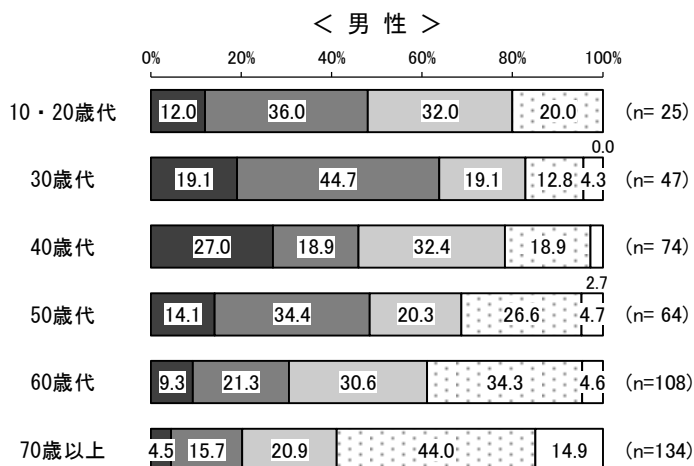
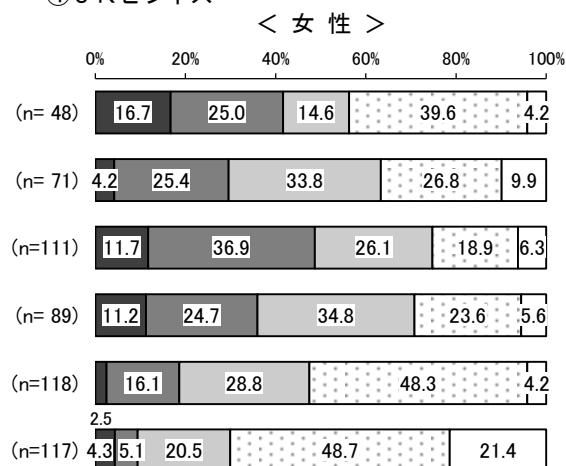
②デートレイプドラッグ



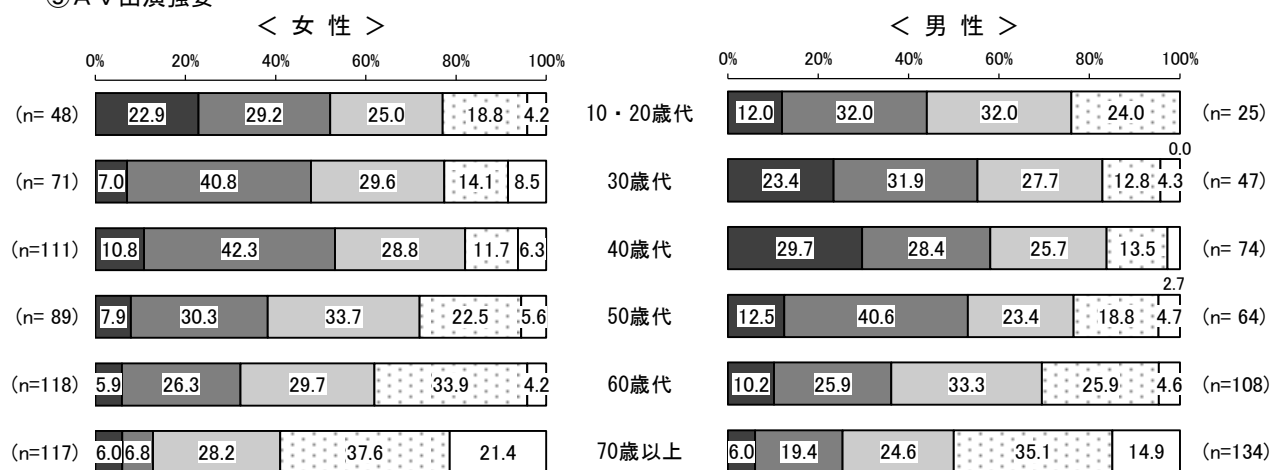
③リベンジポルノ



④JKビジネス



⑤ A V出演強要



よく知っている
 少しは中身を知っている
 言葉は聞いたことがある
 知らない
 無回答

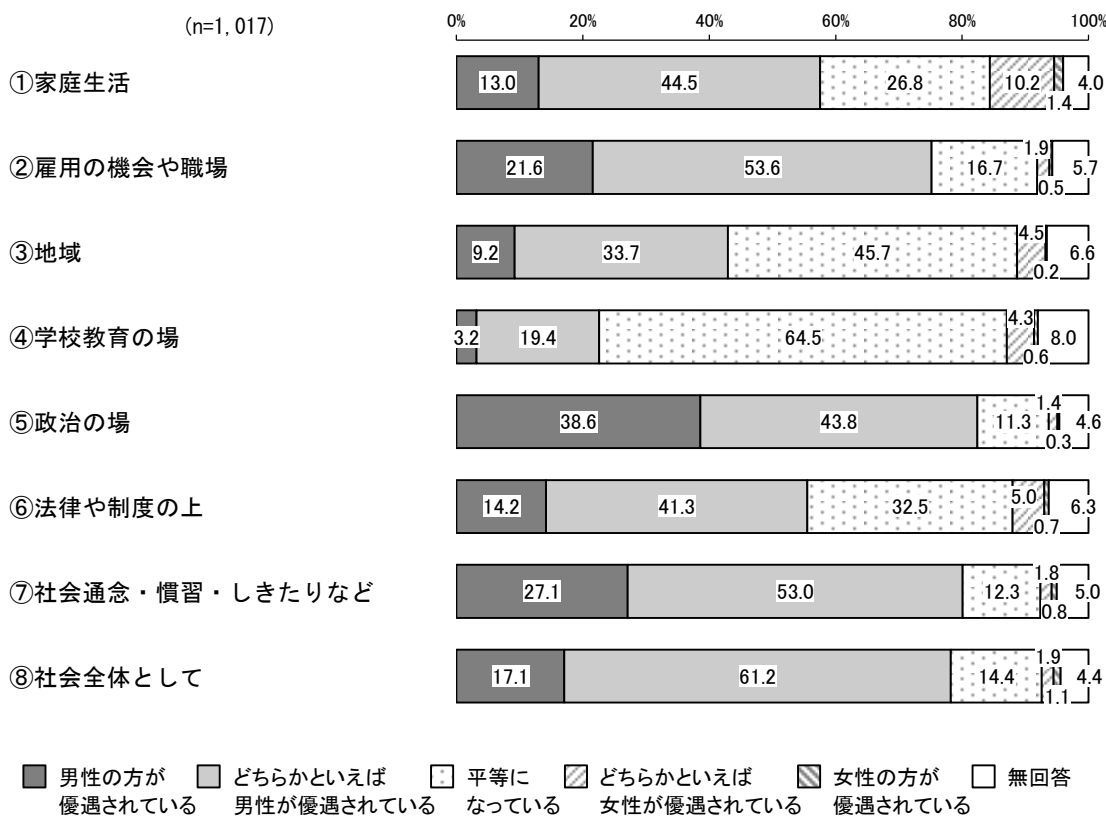
7. 男女共同参画社会について

(1) 各分野の男女の地位の平等感

問 27. あなたは次の①～⑧で、男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの考えに最も近いものをお答えください。(〇は①～⑧それぞれに1つ)

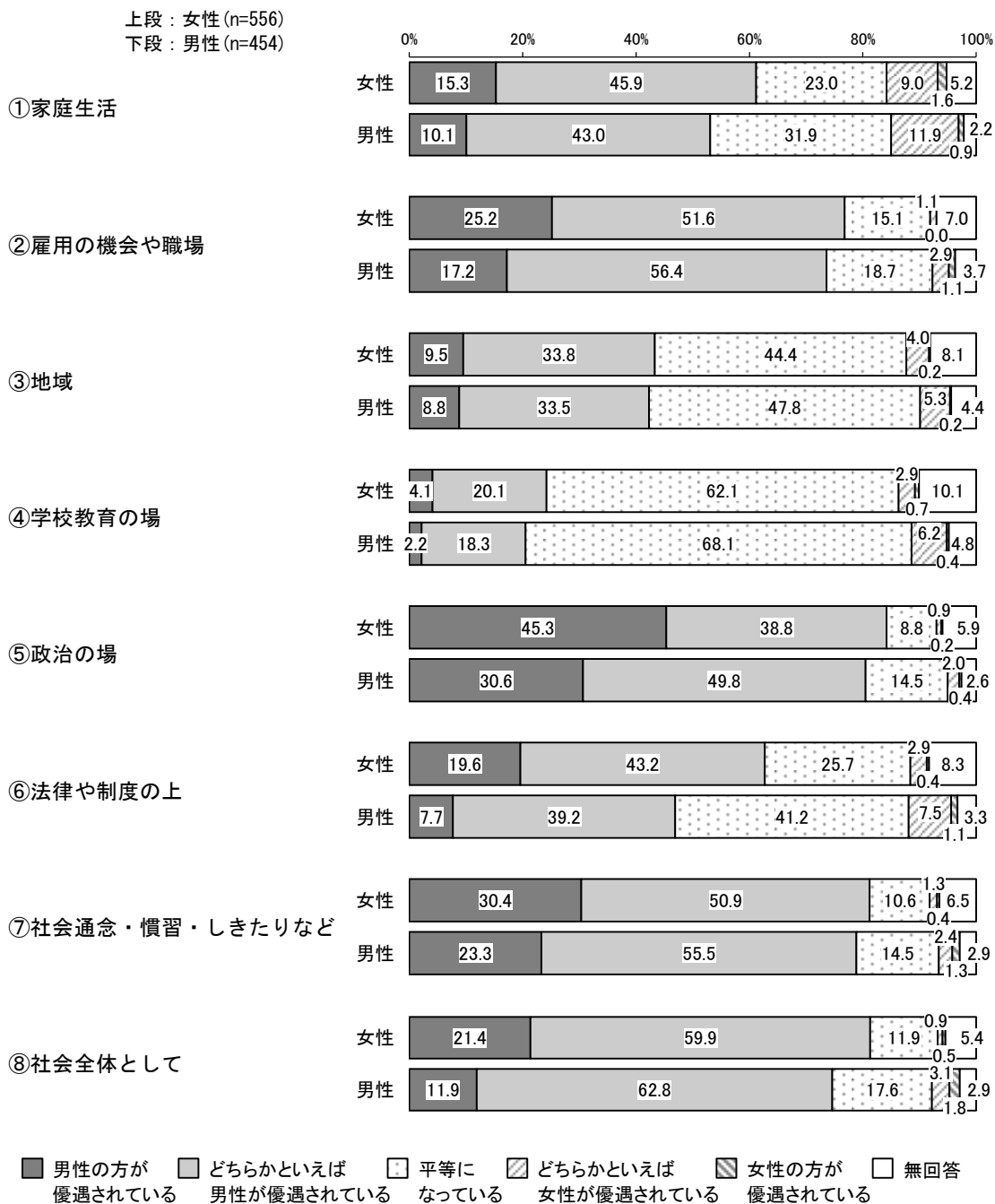
「平等になっている」は「④学校教育の場」が64.5%、「③地域」が45.7%と高くなっているが、それら以外の分野では『男性優遇』（「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）が5割を超えており、「⑤政治の場」は82.4%、「⑦社会通念・慣習・しきたり」は80.1%、「⑧社会全体では」は78.3%、「②雇用の機会や職場」は75.2%となっている。「⑤政治の場」については「男性の方が優遇されている」が38.6%と4割近くを占めている。

図 各分野の男女の地位の平等感



性別でみると、すべての分野で『男性優遇』は女性が高くなっており、「⑤政治の場」では「男性の方が優遇されている」は男性より 14.7 ポイント高くなっている。一方、すべての分野で「平等になっている」は男性が高くなっており、「⑥法律や制度の上」では 15.5 ポイント高くなっている。

図 性別 各分野の男女の地位の平等感



【性年齢別】

＜①家庭生活＞

女性では50歳代と60歳代で『男性優遇』が高く7割を超えている。10・20歳代では『女性優遇』が31.3%と他の年齢層と比べて高くなっている。男性では50歳代以上は『男性優遇』が高く、40歳代以下は『女性優遇』が高くなっており、10・20歳代では「平等になっている」が44.0%と最も高くなっている。

＜②雇用の機会や職場＞

女性では30歳代から60歳代で『男性優遇』が高く8割を超えている。男性では50歳代で『男性優遇』が低くなっており、「平等になっている」が35.9%と最も高くなっている。

＜③地域＞

女性では10・20歳代と30歳代で「平等になっている」が高く、50歳代と60歳代では『男性優遇』が高く、いずれも5割を超えている。男性では30歳代で「平等になっている」が61.7%と高く、60歳代で『男性優遇』が51.9%と高くなっている。

＜④学校教育の場＞

男女ともすべての年代で「平等になっている」が5割を超えており、女性は50歳代、男性は30歳代がともに78.7%と最も高くなっている。男性では10・20歳代で『女性優遇』が高くなっており、年代が高くなるほど『男性優遇』が少しずつ高くなっている。

＜⑤政治の場＞

女性では50歳代で『男性優遇』が高く9割を超えており、30歳代と50歳代では「男性が優遇されている」が5割を超えている。男性では30歳代で『男性優遇』が高く9割弱となっている。

＜⑥法律や制度の上＞

女性では60歳代で『男性優遇』が高く68.6%となっている。10・20歳代と50歳代では「平等になっている」がやや高く3割を超えている。男性では10・20歳代で「平等になっている」が高く68.0%となっている。30歳代では『女性優遇』が高く2割を超えている。

＜⑦社会通念・慣習・しきたりなど＞

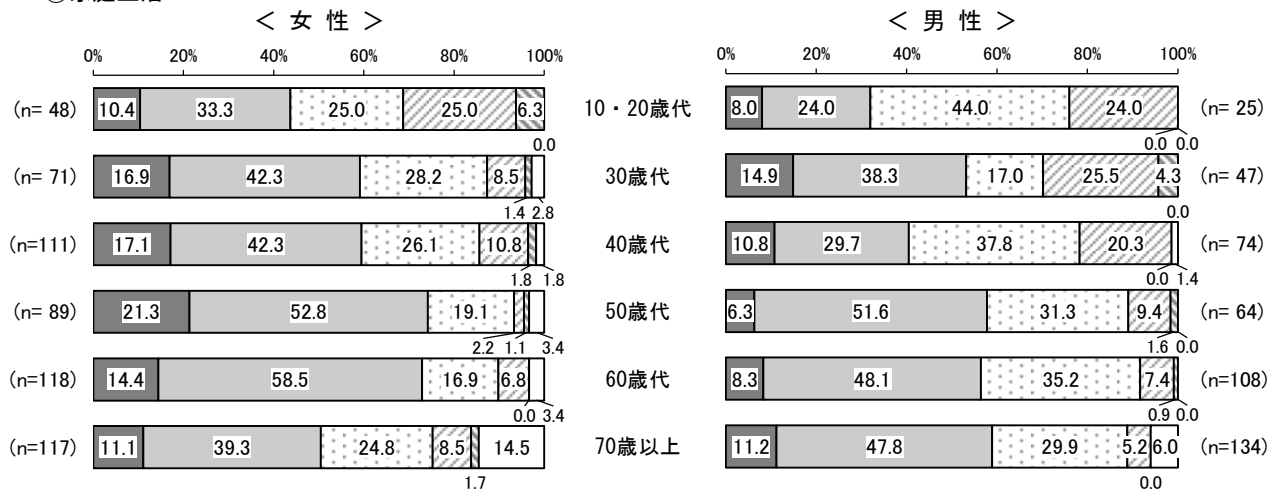
女性では50歳代で『男性優遇』が高く9割を超えており、「男性が優遇されている」が43.8%と最も高くなっている。男性では50歳代以上で『男性優遇』が高く8割を超えている。10・20歳代と40歳代で「平等になっている」が高く2割台となっている。

＜⑧社会全体として＞

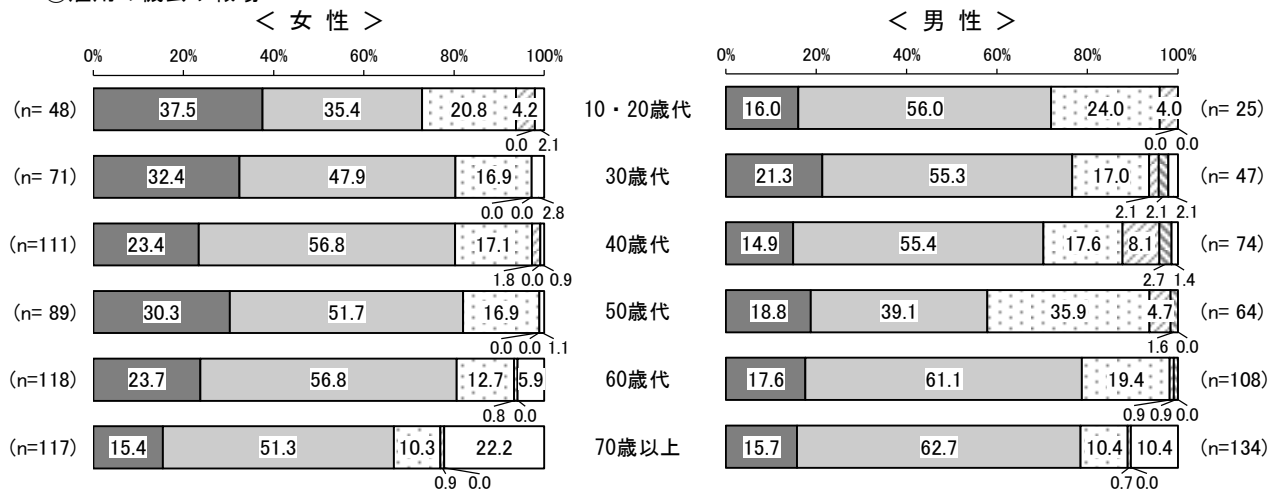
男女とも60歳代で『男性優遇』が最も高く、女性が92.4%、男性が82.4%となっている。また、女性では30歳代から50歳代で「男性が優遇されている」が高く、いずれも25%以上を占めている。

図 性年齢別 各分野の男女の地位の平等感

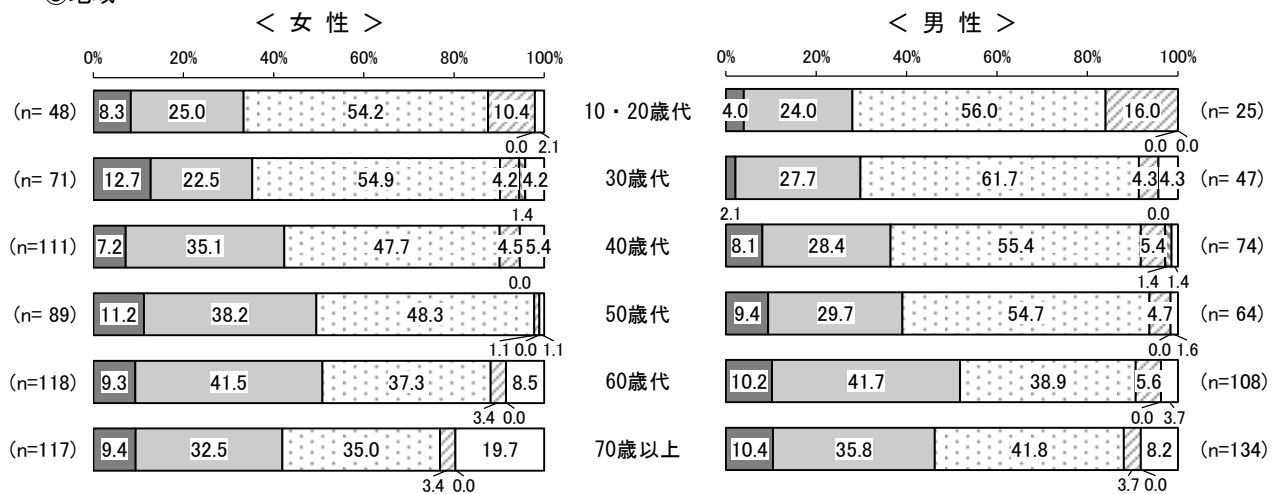
①家庭生活



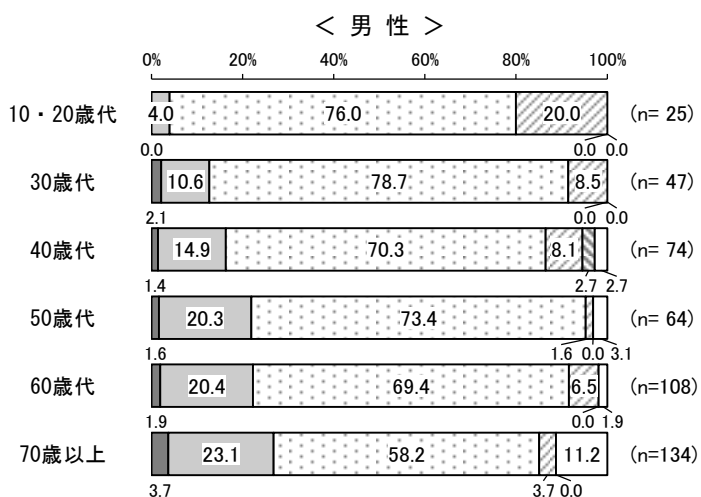
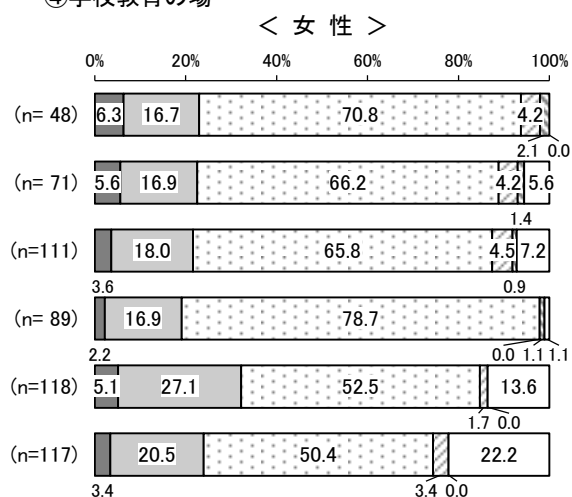
②雇用の機会や職場



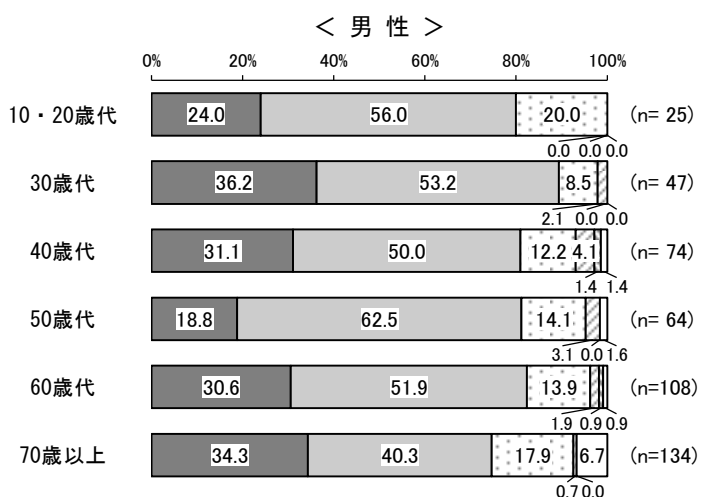
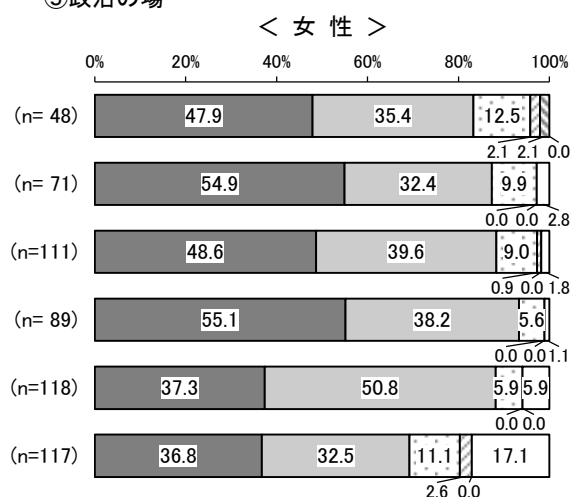
③地域



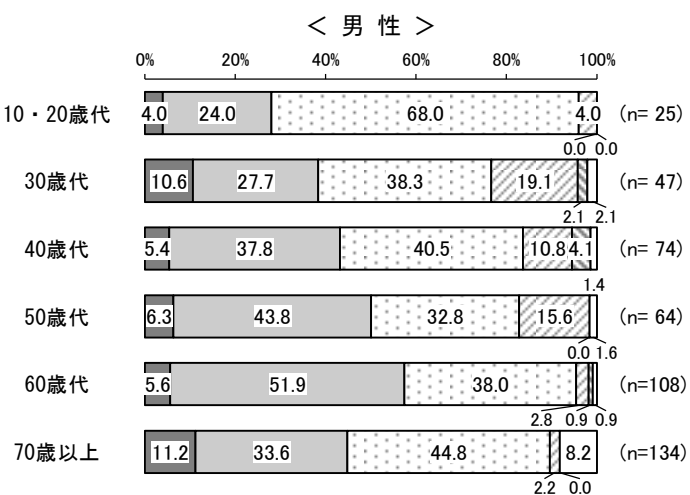
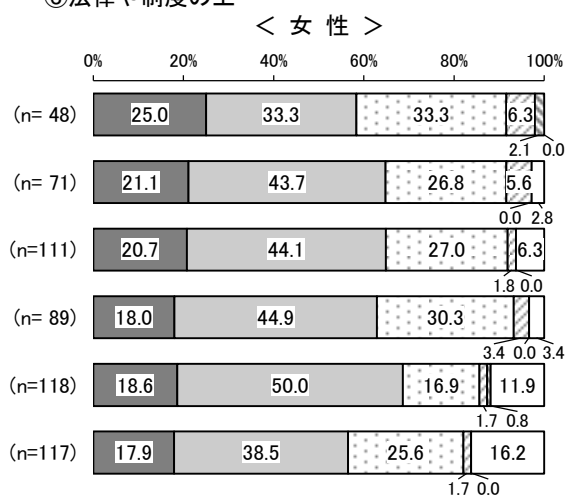
④学校教育の場



⑤政治の場

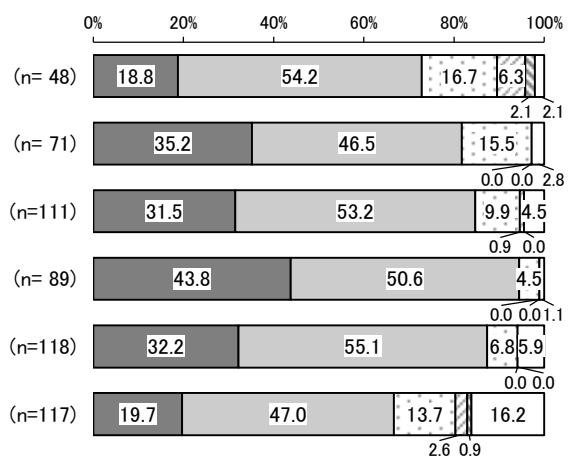


⑥法律や制度の上

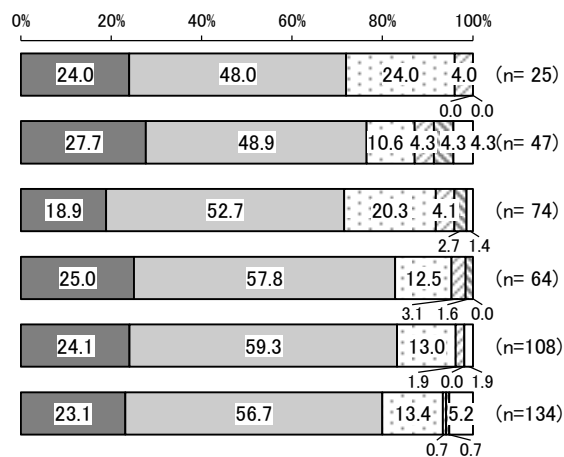


⑦社会通念・慣習・しきたりなど

< 女 性 >

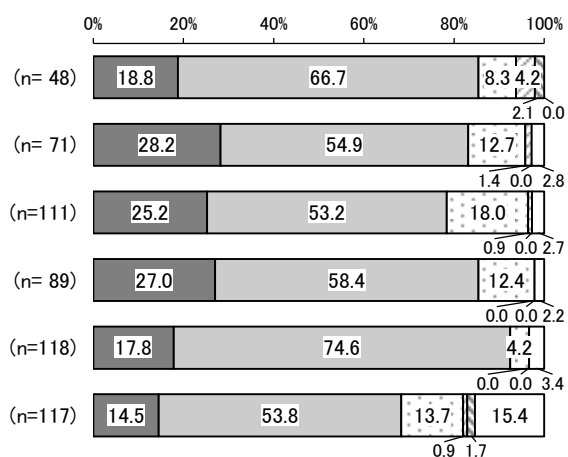


< 男 性 >

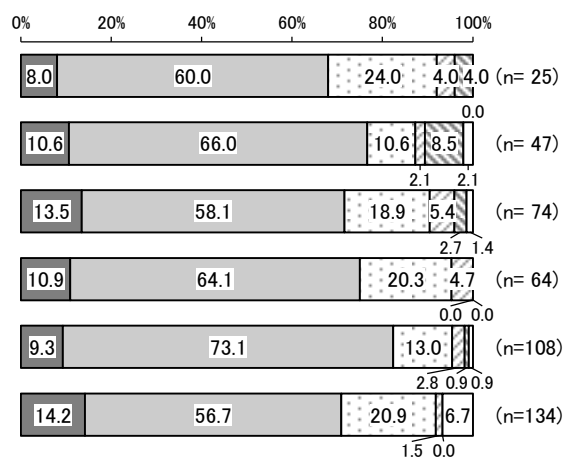


⑧社会全体として

< 女 性 >



< 男 性 >

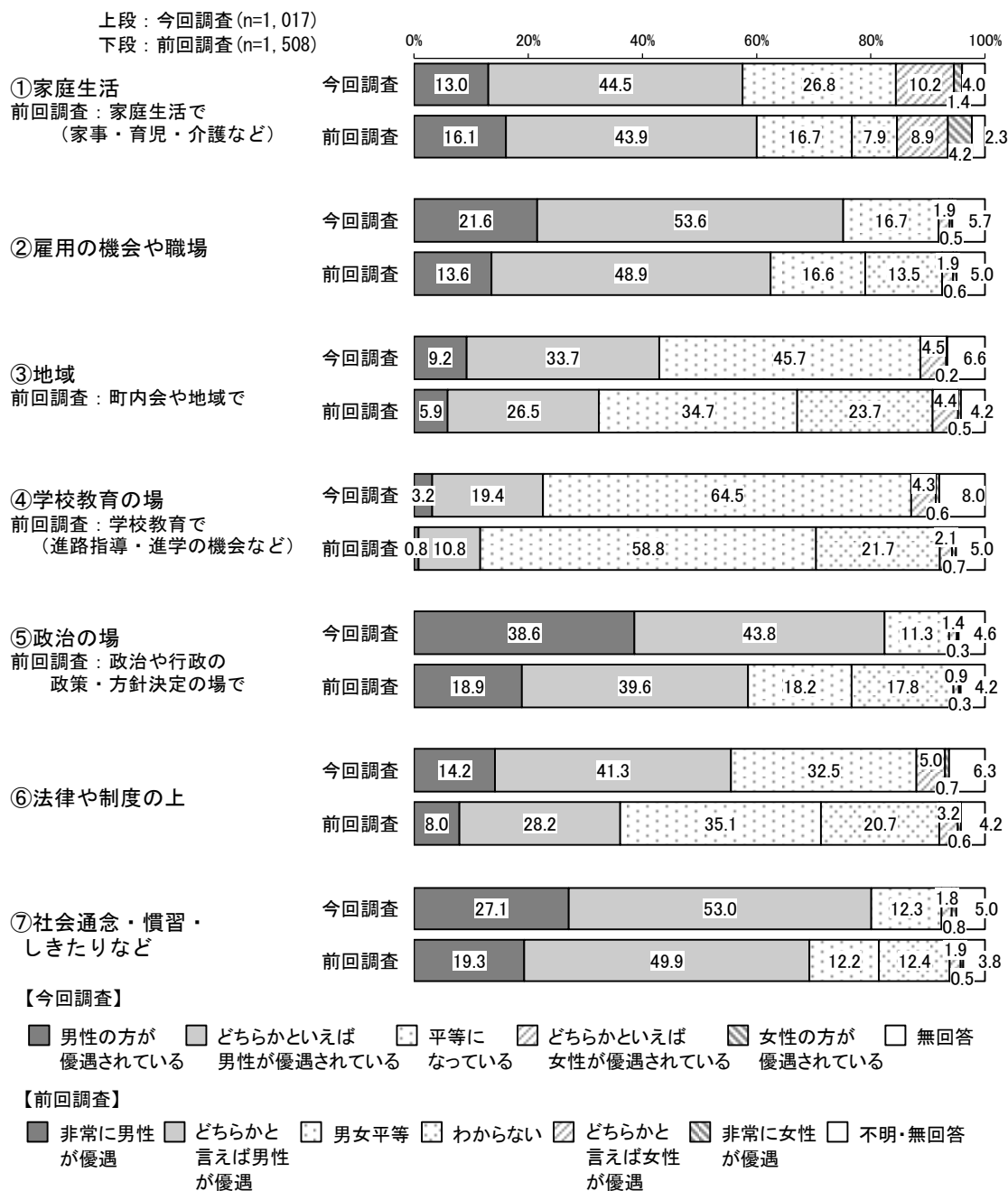


男性の方が優遇されている
 どちらかといえば男性が優遇されている
 平等になっている
 どちらかといえば女性が優遇されている
 女性がの方が優遇されている
 無回答

【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「①家庭生活」では『男性優遇』がわずかに減少しているが、それ以外の分野では『男性優遇』がいずれも増加しており、「⑤政治の場」では 23.9 ポイント、「⑥法律や制度の上」では 19.3 ポイントの増加となっている。一方、「①家庭生活」と「③地域」では「平等になっている」がいずれも約 10 ポイントの増加となっている。

図 各分野の男女の地位の平等感（前回調査との比較）

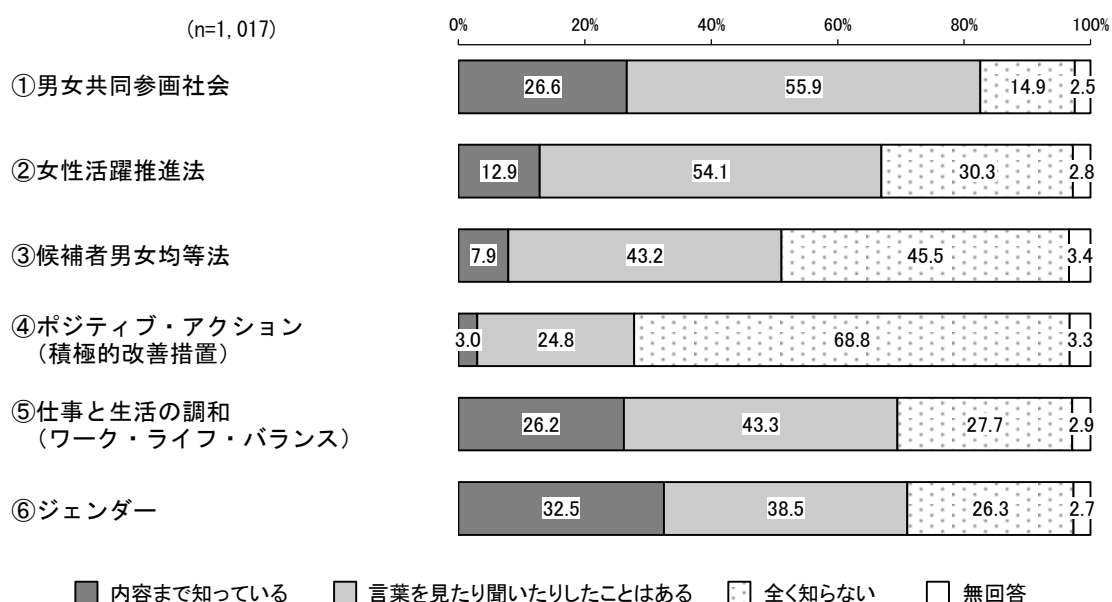


(2) 男女共同参画に関する用語の認知度

問 28. あなたは次の①～⑥の「言葉」や「事柄」についてご存知ですか。(〇は①～⑥それぞれに1つ)

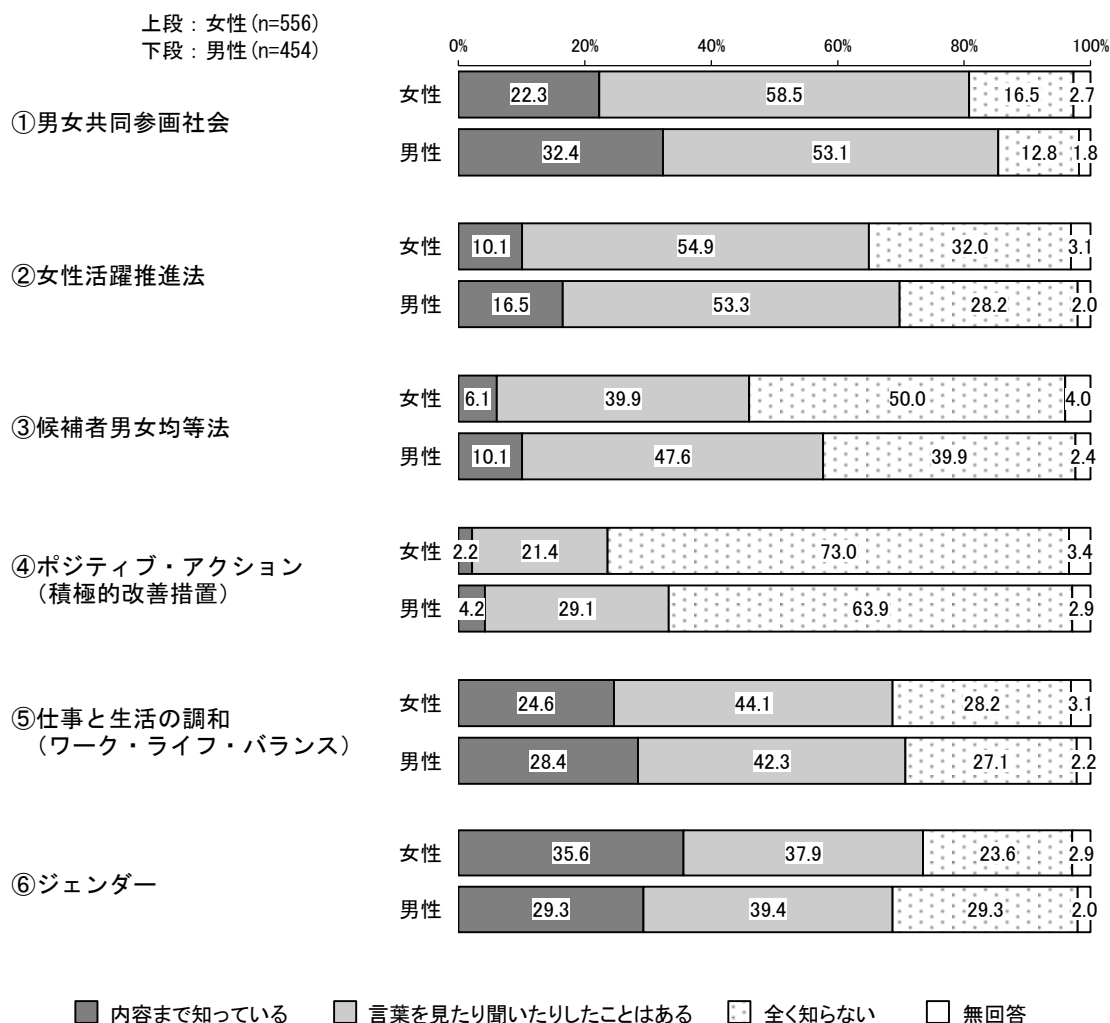
「①男女共同参画社会」「⑤仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」「⑥ジェンダー」は「内容まで知っている」が3割前後となっており、認知度（「内容まで知っている」と「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の合計）は約7割以上と高く、「②女性活躍推進法」も認知度は67.0%となっている。一方、「③候補者男女均等法」は認知度が約5割で、「④ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」は「全く知らない」が68.8%と高く、認知度は3割弱と低くなっている。

図 男女共同参画に関する用語の認知度



性別でみると、「⑥ジェンダー」は女性が認知度は高く、それ以外の用語は男性が高くなっており、「③候補者男女均等法」と「④ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」はいずれも約 10 ポイントの差となっている。

図 性別 男女共同参画に関する用語の認知度



【性年齢別】

<①男女共同参画社会>

女性では10・20歳代で認知度が最も高く9割を超えている。男性では30歳代で認知度が7割台にとどまっており、「全く知らない」が27.7%と最も高くなっている。

<②女性活躍推進法>

男女とも50歳代で認知度が最も高く、女性は69.6%、男性は78.1%となっている。男性では30歳代と40歳代で「内容まで知っている」が2割台で高くなっている。

<③候補者男女均等法>

女性では50歳代以下で「全く知らない」が5割を超えており、30歳代で70.4%と最も高くなっている。認知度は男性の70歳以上で66.4%と最も高くなっている。

<④ポジティブ・アクション（積極的改善措置）>

女性ではいずれの年齢層も「全く知らない」が65%以上を占めており、10・20歳代と40歳代では認知度は2割を切っている。男性ではいずれの年齢層も「全く知らない」が55%以上を占めており、30歳代が72.3%と最も高くなっている。40歳代では「内容まで知っている」が10.8%と高くなっている。

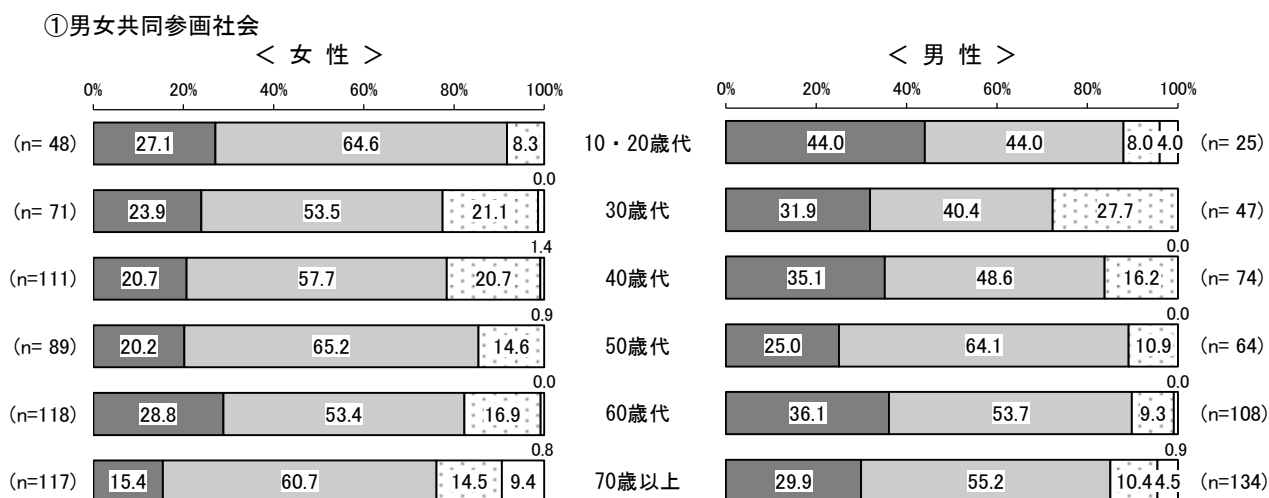
<⑤仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）>

男女とも年代が低くなるほど「内容まで知っている」が高くなっており、男性の10・20歳代では48.0%と最も高くなっている。認知度も男女とも10・20歳代が最も高く、女性が77.1%、男性が84.0%となっている。

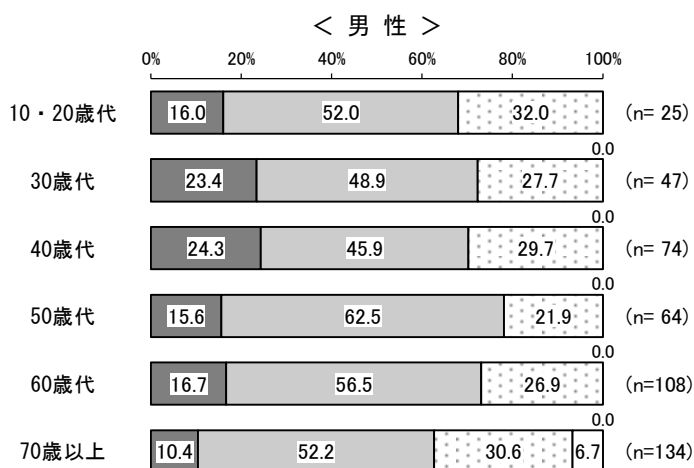
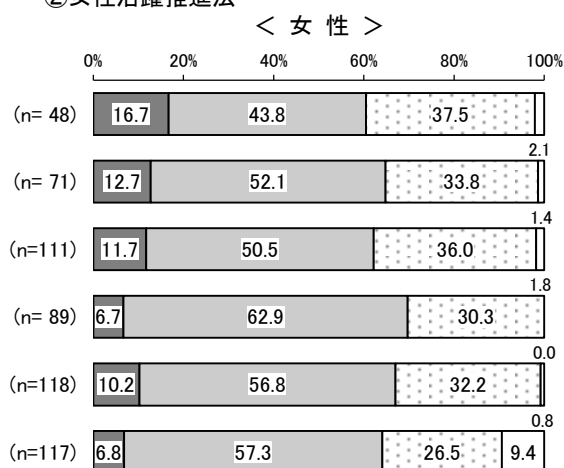
<⑥ジェンダー>

男女とも10・20歳代で「内容まで知っている」が高く、女性が52.1%、男性が64.0%となっており、男性の認知度は92.0%と最も高くなっている。男女とも70歳以上で認知度は約5割と低く、「全く知らない」がいずれも4割台を占めている。

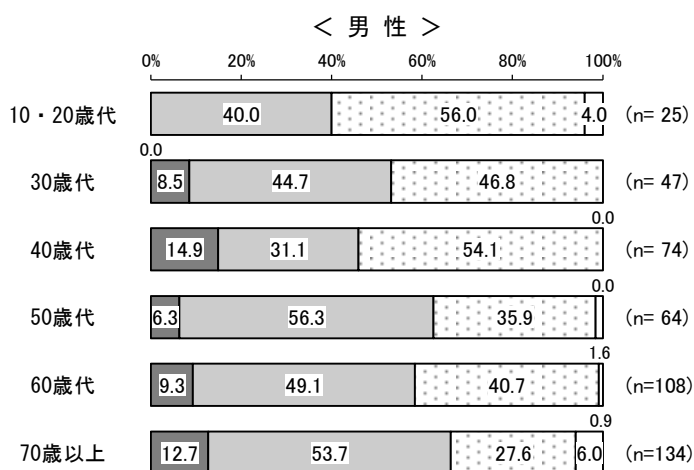
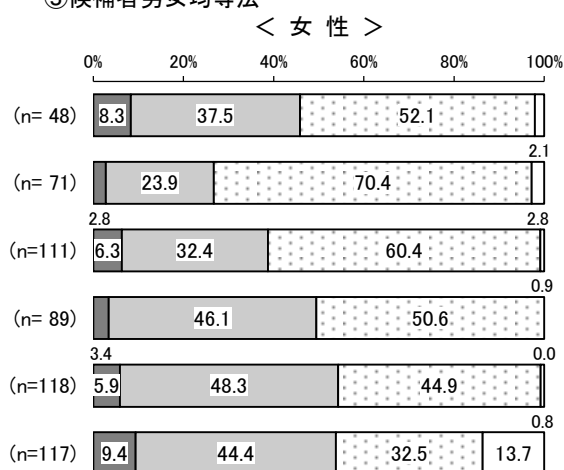
図 性年齢別 男女共同参画に関する用語の認知度



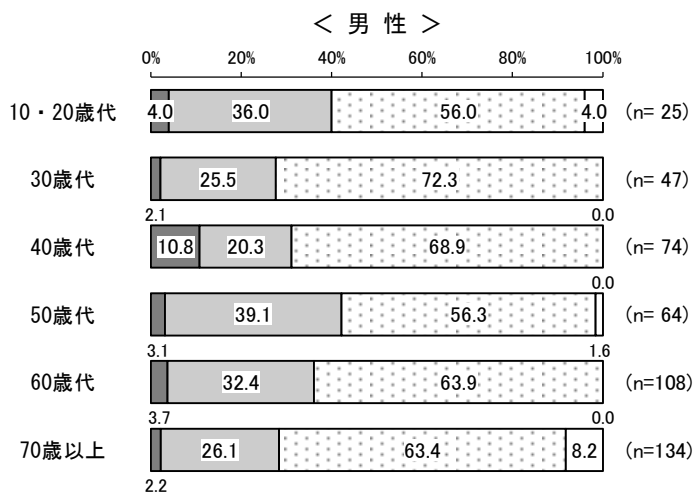
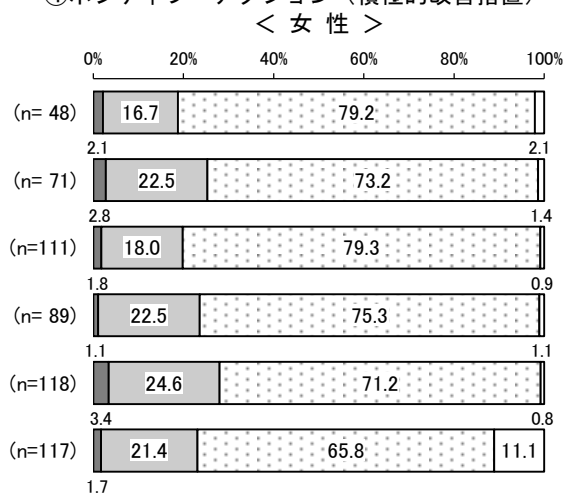
②女性活躍推進法



③候補者男女均等法

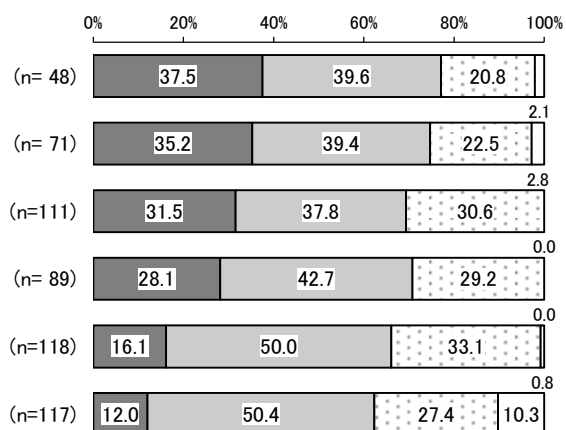


④ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

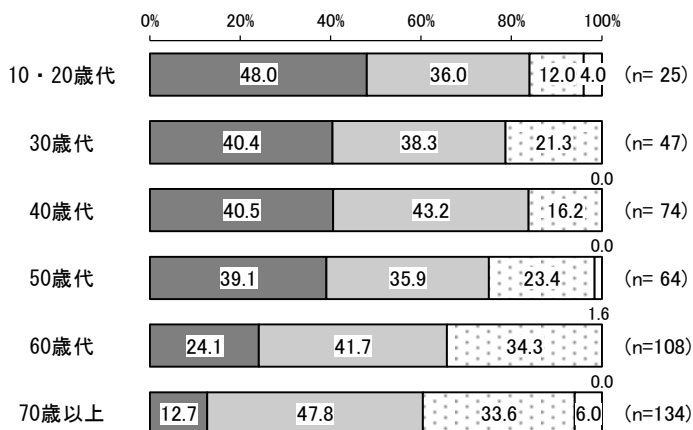


⑤仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

< 女性 >

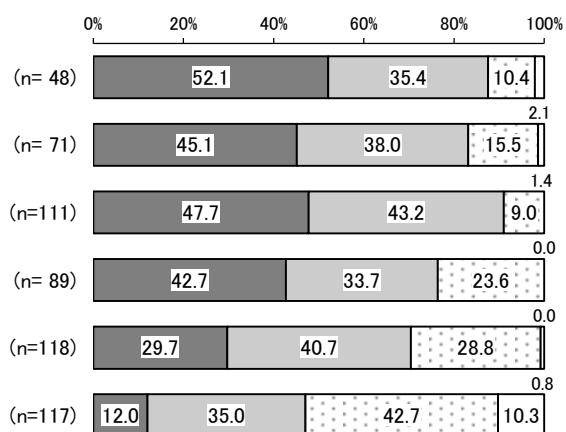


< 男性 >

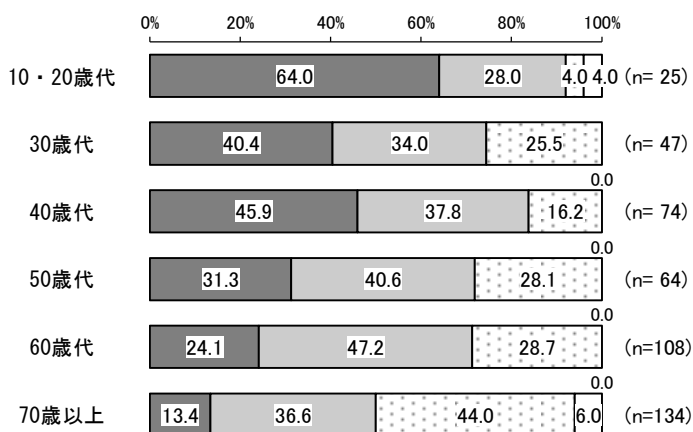


⑥ジェンダー

< 女性 >



< 男性 >

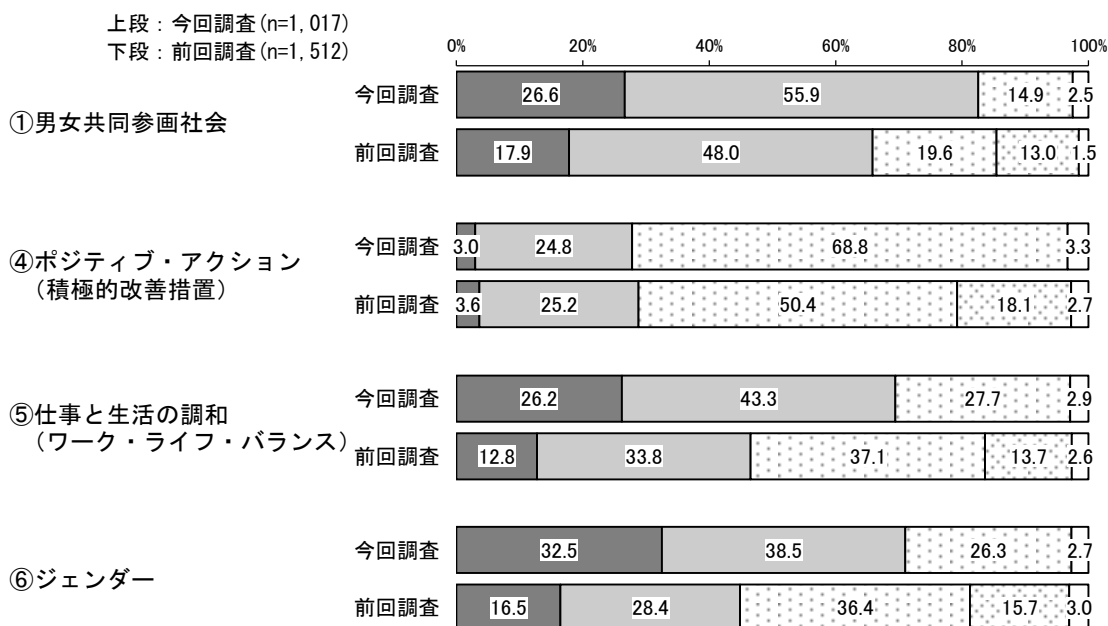


☒ 内容まで知っている
 ☐ 言葉を見たり聞いたりしたことはある
 ☐ 全く知らない
 ☐ 無回答

【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「①男女共同参画社会」「⑤仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」「⑥ジェンダー」はいずれも「内容まで知っている」「言葉を見たり聞いたりしたことはある」とも高くなっており、認知度は「①男女共同参画社会」が 16.6 ポイント、「⑤仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」が 22.9 ポイント、「⑥ジェンダー」が 26.1 ポイントの増加となっている。一方、「④ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」の認知度は横ばいで 3 割以下となっている。

図 男女共同参画に関する用語の認知度（前回調査との比較）



【今回調査】

■ 内容まで知っている ■ 言葉を見たり聞いたりしたことはある □ 全く知らない □ 無回答

【前回調査】

■ 内容まで知っている ■ 言葉は聞いたことが □ 言葉も内容も知らない □ わからない □ 不明・無回答
あるが内容まで知らない

(3) この10年間の男女共同参画の変化

問 29. この10年間で、あなたの周囲の状況から判断して次の①～⑦がどの程度進んだと思いますか。(〇は①～⑦それぞれに1つ)

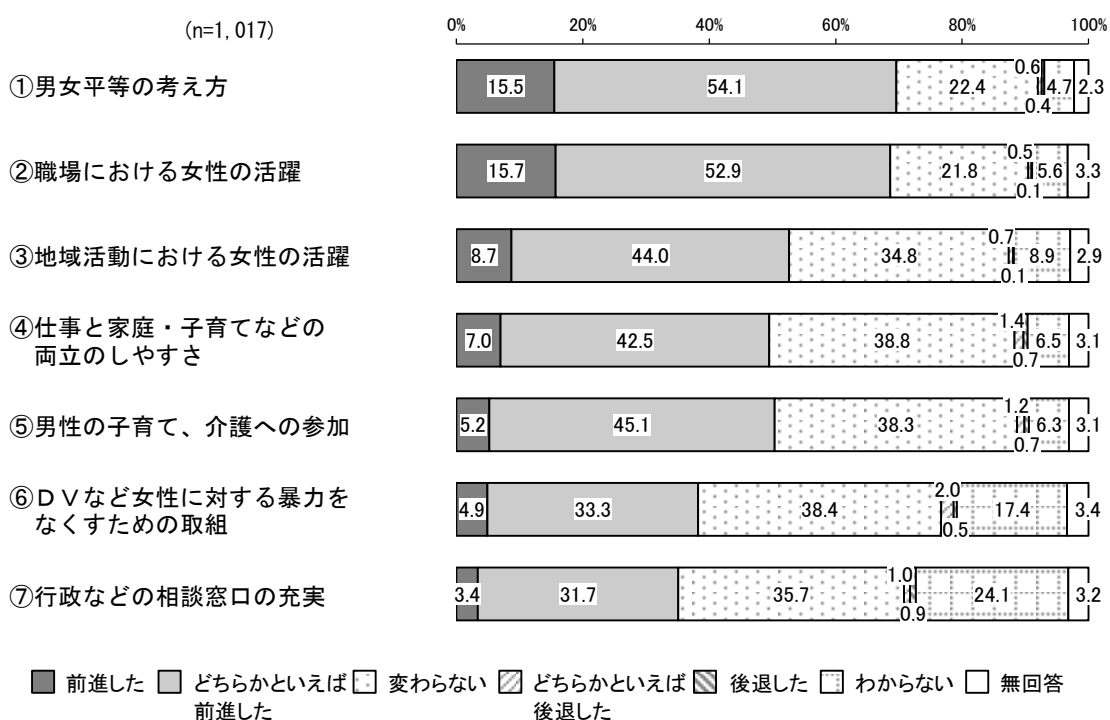
「①男女平等の考え方」と「②職場における女性の活躍」については、『前進』（「前進した」と「どちらかといえば前進した」の合計）がそれぞれ69.6%、68.6%となっており、7割近くの評価となっている。

「③地域活動における女性の活躍」「④仕事と家庭・子育てなどの両立のしやすさ」「⑤男性の子育て、介護への参加」については、『前進』がそれぞれ52.7%、49.5%、50.3%と、約5割の評価となっており、「変わらない」がいずれも3割台を占めている。

「⑥DVなど女性に対する暴力をなくすための取組」と「⑦行政などの相談窓口の充実」については、『前進』がそれぞれ38.2%、35.1%となっており、評価は4割以下で、「変わらない」がいずれも3割台を占めている。

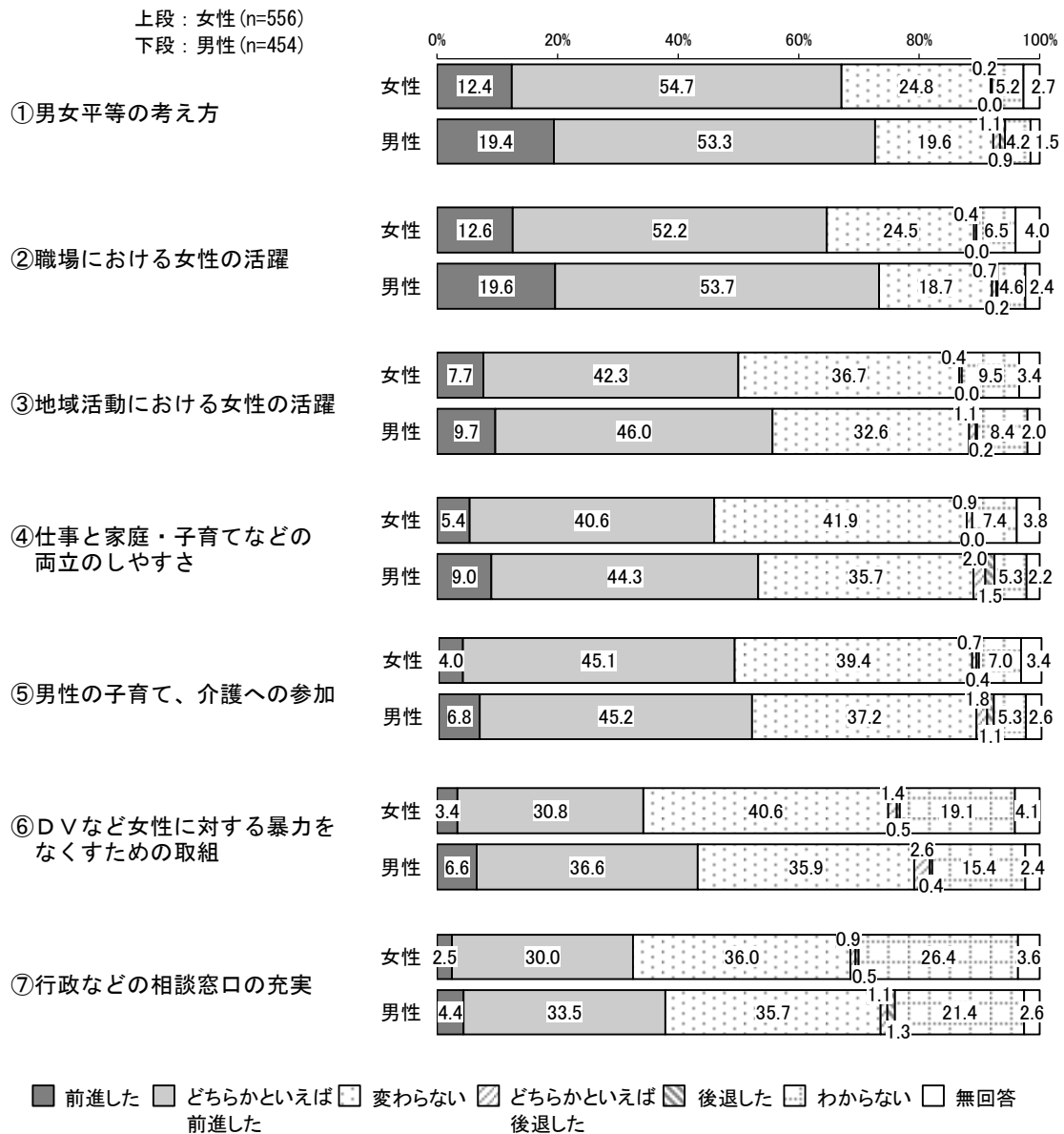
いずれの項目も、『後退』（「後退した」と「どちらかといえば後退した」の合計）は3%以下となっている。

図 この10年間の男女共同参画の変化



性別でみると、すべての項目において「前進した」は男性が高く、『前進』の割合も高くなっており、すべての項目において「変わらない」は女性が高くなっている。

図 性別 この10年間の男女共同参画の変化



【性年齢別】

＜①男女平等の考え方＞

女性では40歳代と50歳代で『前進』が高く、40歳代で73.9%と最も高くなっており、30歳代で「変わらない」が33.8%と高くなっている。男性では50歳代で「前進した」が29.7%とやや高くなっており、10・20歳代で「どちらかといえば後退した」が12.0%と高くなっている。

＜②職場における女性の活躍＞

女性では40歳代で『前進』が高く77.5%となっており、30歳代で「変わらない」が32.4%と高くなっている。男性では50歳代で「前進した」が31.3%と高く、『前進』が84.4%と高くなっている。

＜③地域活動における女性の活躍＞

女性では10・20歳代と30歳代は「変わらない」が『前進』を上回っており、40歳代以上は『前進』が「変わらない」を上回っている。男性では50歳代で『前進』が高く65.6%となっている。男女とも10・20歳代では「わからない」が高く、男性は32.0%となっている。

＜④仕事と家庭・子育てなどの両立のしやすさ＞

女性では『前進』は年代による大きな差異はみられないが、「変わらない」は50歳代で高く5割を超えている。男性では30歳代から50歳代で「前進した」が10%を超えてやや高くなっており、40歳代で『前進』が63.6%と最も高くなっている。

＜⑤男性の子育て、介護への参加＞

女性では『前進』は年代による大きな差異はみられないが、「変わらない」は30歳代から50歳代で高くいずれも4割台となっている。男性では年代が下がるほど『前進』が高い傾向となっている。

＜⑥DVなど女性に対する暴力をなくすための取組＞

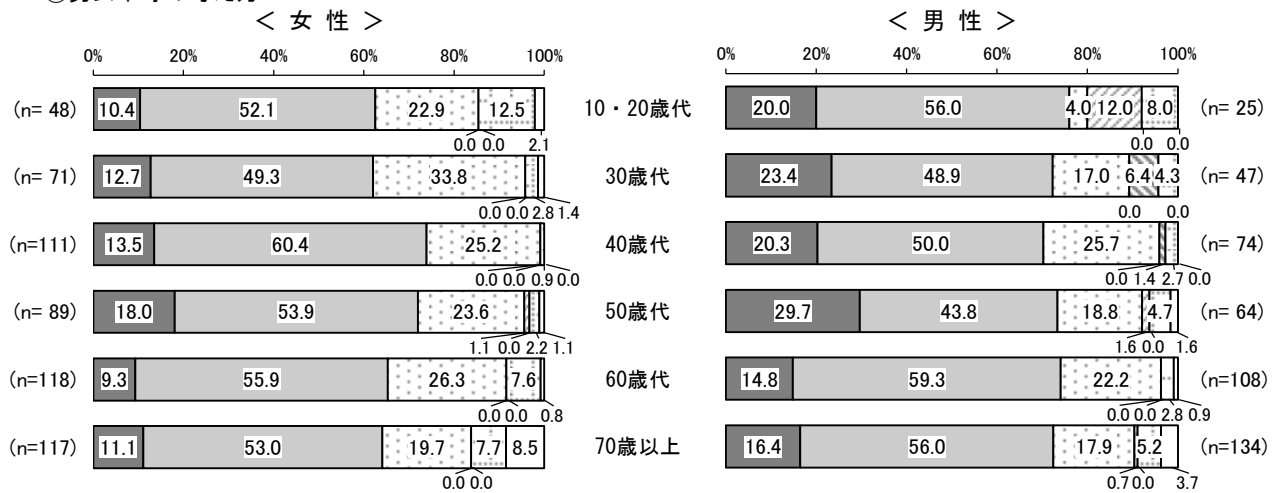
女性ではすべての年代で「変わらない」が最も高くなっており、50歳代で47.2%と最も高くなっている。男性では50歳代で『前進』が64.1%と突出して高くなっており、30歳代と60歳代では「変わらない」が最も高く4割台となっている。男女とも「わからない」がいずれの年代でも1割を超えており、10・20歳代では男女とも25%を超えている。

＜⑦行政などの相談窓口の充実＞

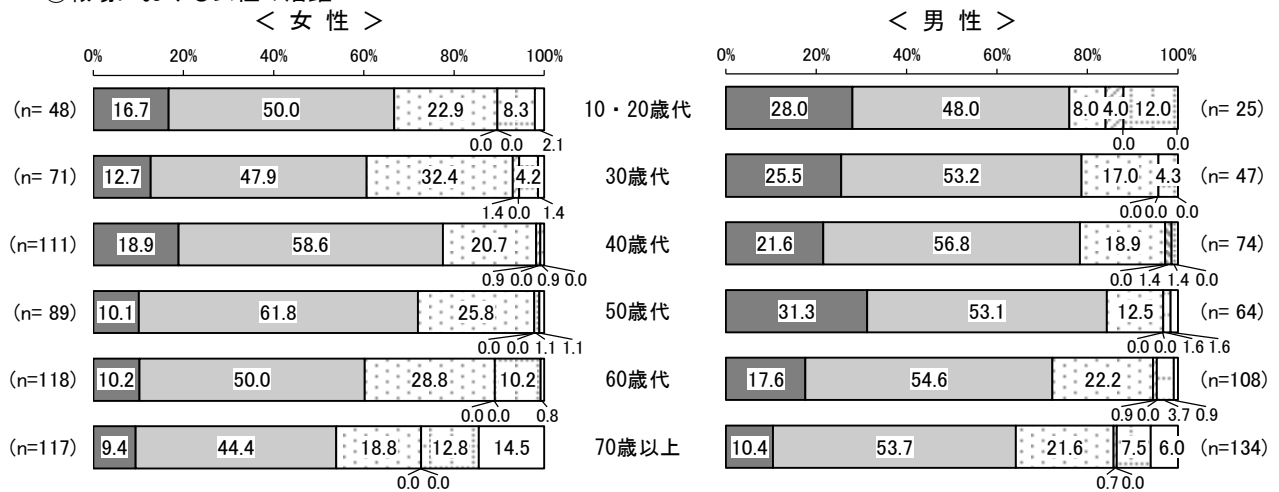
女性では10・20歳代と40歳代と50歳代は「変わらない」が最も高く4割台となっており、10・20歳代と30歳代と60歳代では「わからない」が3割を超えている。男性では30歳代と50歳代で『前進』が高くなっており、60歳代では「変わらない」が最も高くなっている。10・20歳代で「わからない」が高く40.0%となっている。

図 性年齢別 この10年間の男女共同参画の変化

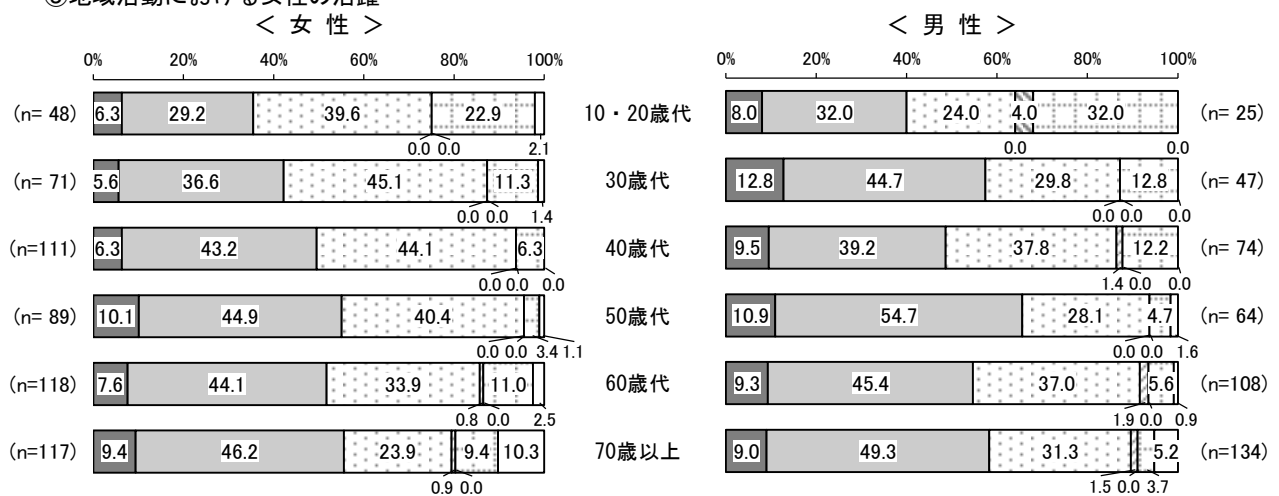
①男女平等の考え方



②職場における女性の活躍

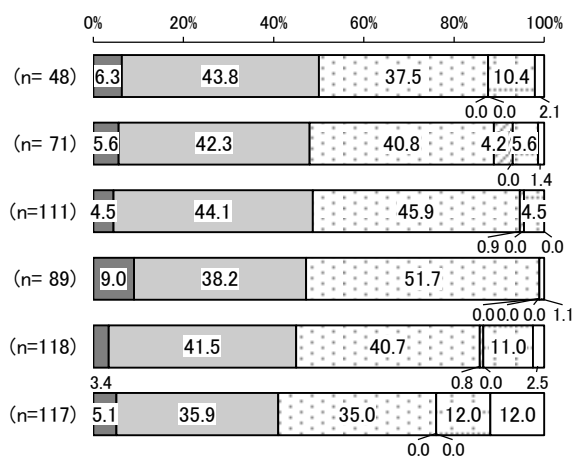


③地域活動における女性の活躍

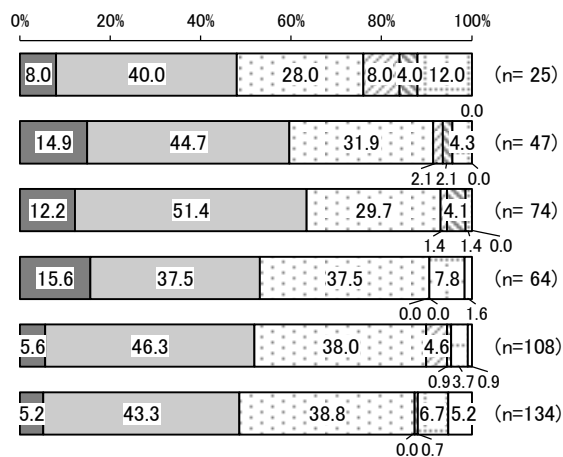


④仕事と家庭・子育てなどの両立のしやすさ

< 女性 >

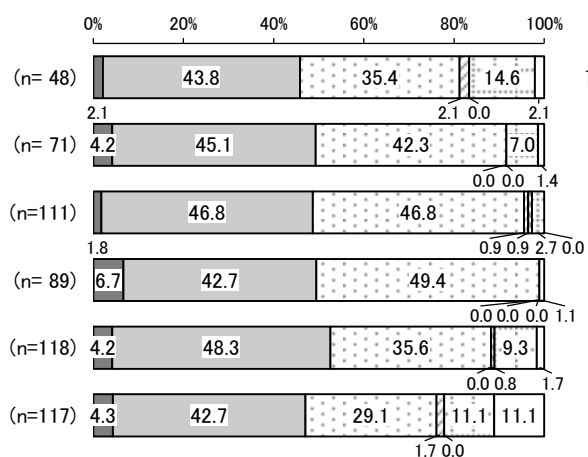


< 男性 >

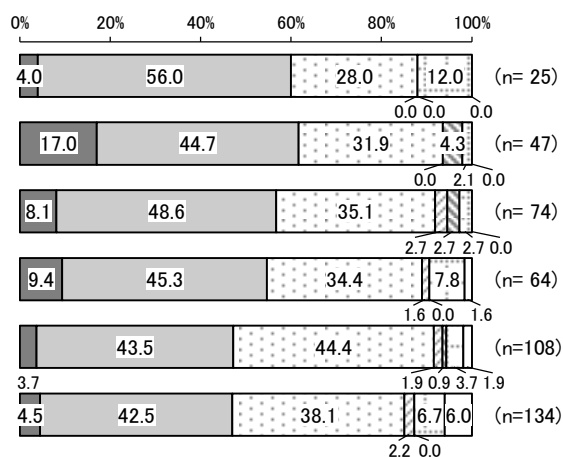


⑤男性の子育て、介護への参加

< 女性 >

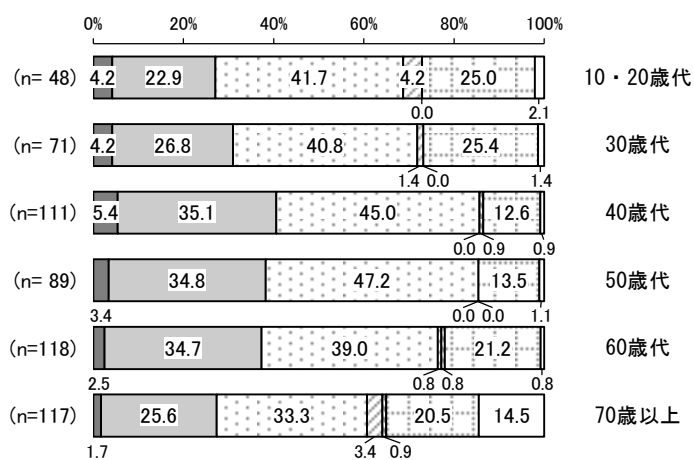


< 男性 >

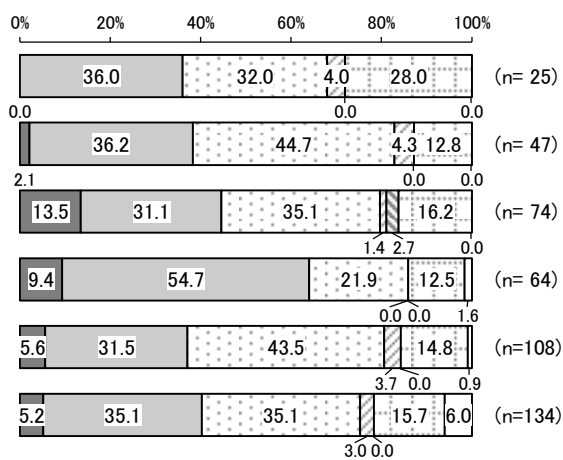


⑥DVなど女性に対する暴力をなくすための取組

< 女性 >

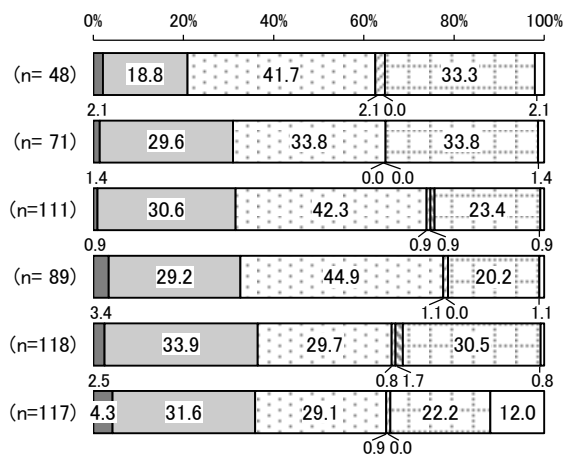


< 男性 >

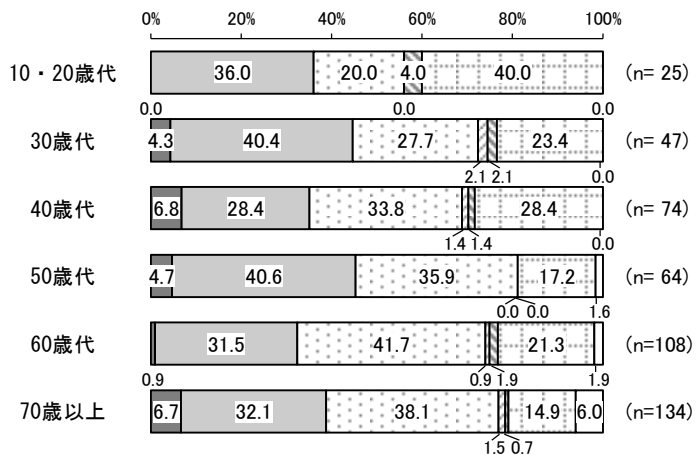


⑦行政などの相談窓口の充実

< 女性 >



< 男性 >



前进了
 どちらかといえば前进了
 変わらない
 どちらかといえば后退了
 后退了
 わからない
 无回答

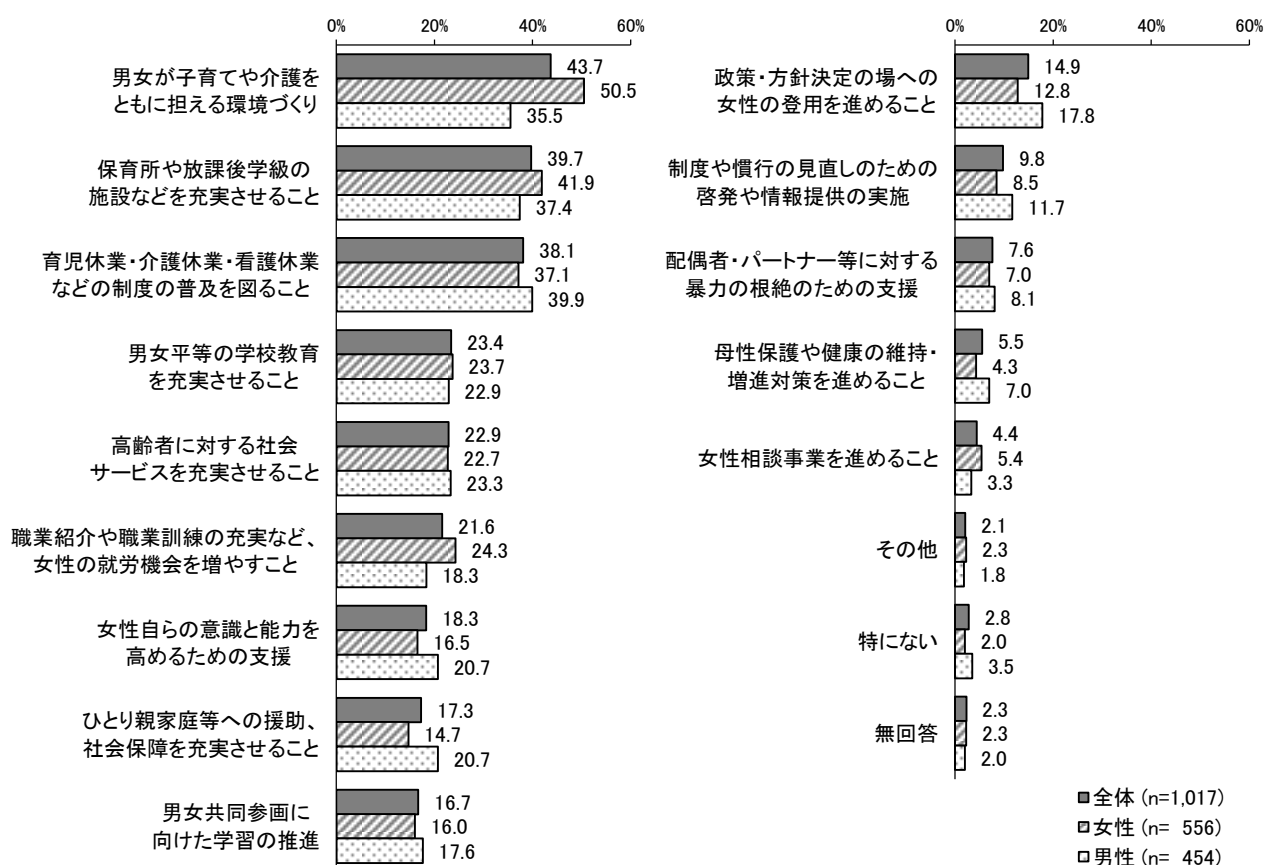
(4) 男女共同参画社会をめざして行政が取り組むべきこと

問 30. 男女共同参画社会をめざして、行政が今後さらに力を入れて取り組むべきことは何だと思いますか。(〇は3つまで)

「男女が子育てや介護をともに担える環境づくり」が43.7%で最も高く、次いで「保育所や放課後学級の施設などを充実させること」が39.7%、「育児休業・介護休業・看護休業などの制度の普及を図ること」が38.1%となっている。

性別でみると、女性では「男女が子育てや介護をともに担える環境づくり」が50.5%で最も高く、男性より15.0ポイント高くなっている。男性では「育児休業・介護休業・看護休業などの制度の普及を図ること」が39.9%で最も高くなっている。

図 性別 男女共同参画社会をめざして行政が取り組むべきこと



【性年齢別】

女性では 10・20 歳代で「育児休業・介護休業・看護休業などの制度の普及を図ること」と「ひとり親家庭等への援助、社会保障を充実させること」、30 歳代で「保育所や放課後学級の施設などを充実させること」、70 歳以上で「高齢者に対する社会サービスを充実させること」が高くなっている。男性では 10・20 歳代で「職業紹介や職業訓練の充実など、女性の就労機会を増やすこと」と「配偶者・パートナー等に対する暴力の根絶のための支援」、30 歳代で「男女が子育てや介護をともに担える環境づくり」「保育所や放課後学級の施設などを充実させること」「育児休業・介護休業・看護休業などの制度の普及を図ること」、60 歳代と 70 歳以上で「政策・方針決定の場への女性の登用を進めること」が高くなっている。

表 性年齢別 男女共同参画社会をめざして行政が取り組むべきこと

		回答者数(人)	男女が子育てや介護をともに担える環境づくり	保育所や放課後学級の施設などを充実させること	育児休業・介護休業・看護休業などの制度の普及を図ること	男女平等の学校教育を充実させること	高齢者に対する社会サービスを充実させること	職業紹介や職業訓練の充実など、女性の就労機会を増やすこと	女性自らの意識と能力を高めるための支援	ひとり親家庭等への援助、社会保障を充実させること	男女共同参画に向けた学習の推進	
全 体		1,017	43.7	39.7	38.1	23.4	22.9	21.6	18.3	17.3	16.7	
年 齢 別	女性	10・20 歳代	48	41.7	43.8	56.3	29.2	18.8	20.8	10.4	31.3	12.5
		30 歳代	71	53.5	56.3	46.5	19.7	9.9	31.0	12.7	14.1	14.1
		40 歳代	111	52.3	37.8	29.7	23.4	21.6	32.4	18.0	14.4	14.4
		50 歳代	89	48.3	43.8	38.2	25.8	16.9	21.3	16.9	12.4	16.9
		60 歳代	118	55.1	44.1	36.4	26.3	27.1	22.0	16.1	7.6	17.8
		70 歳以上	117	47.0	31.6	29.1	20.5	33.3	17.9	19.7	17.1	17.9
	男性	10・20 歳代	25	32.0	36.0	48.0	16.0	4.0	32.0	16.0	20.0	12.0
		30 歳代	47	55.3	55.3	51.1	25.5	17.0	12.8	23.4	23.4	12.8
		40 歳代	74	32.4	36.5	45.9	21.6	20.3	21.6	20.3	18.9	9.5
		50 歳代	64	28.1	39.1	37.5	23.4	26.6	18.8	20.3	15.6	15.6
		60 歳代	108	35.2	42.6	40.7	26.9	22.2	18.5	20.4	21.3	18.5
		70 歳以上	134	34.3	26.9	31.3	20.1	30.6	14.9	20.9	22.4	24.6

		回答者数(n)	政策・方針決定の場への女性の登用を進めること	制度や慣行の見直しのための啓発や情報提供の実施	配偶者・パートナー等に対する暴力の根絶のための支援	育児休業・介護休業・看護休業などの制度の普及を図ること	母性保護や健康の維持・増進対策を進めること	女性相談事業を進めること	その他	特 に ない	無 回 答
全 体		1,017	14.9	9.8	7.6	5.5	4.4	2.1	2.8	2.3	
年 齢 別	女 性	10・20 歳代	48	12.5	8.3	6.3	6.3	4.2	4.2	2.1	2.1
		30 歳代	71	9.9	7.0	5.6	7.0	5.6	2.8	2.8	1.4
		40 歳代	111	11.7	8.1	7.2	1.8	5.4	2.7	1.8	0.9
		50 歳代	89	11.2	5.6	11.2	3.4	7.9	3.4	2.2	3.4
		60 歳代	118	14.4	11.0	8.5	5.1	4.2	1.7	1.7	-
		70 歳以上	117	14.5	8.5	2.6	3.4	4.3	0.9	1.7	6.0
	男 性	10・20 歳代	25	4.0	12.0	20.0	4.0	8.0	4.0	4.0	4.0
		30 歳代	47	8.5	6.4	6.4	4.3	4.3	4.3	2.1	-
		40 歳代	74	14.9	14.9	10.8	2.7	4.1	1.4	6.8	1.4
		50 歳代	64	12.5	14.1	7.8	12.5	1.6	-	4.7	-
		60 歳代	108	20.4	11.1	8.3	9.3	3.7	0.9	2.8	2.8
		70 歳以上	134	25.4	11.2	4.5	6.0	1.5	2.2	2.2	2.2

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目

8. 自由記述

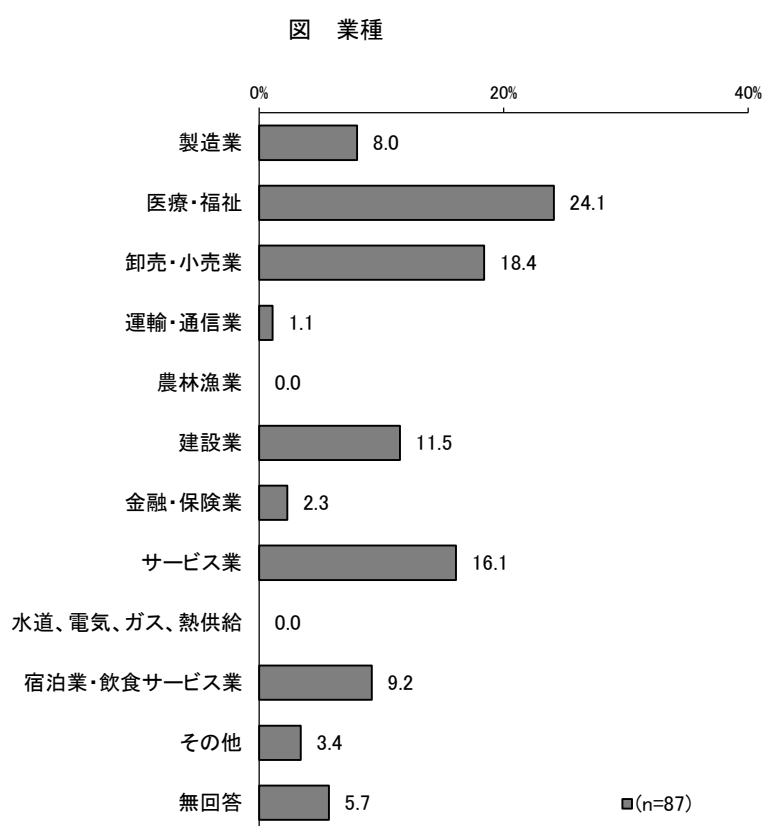
Ⅳ 事業所アンケートの結果

1. 事業所の概要

(1) 業種

問1. 貴事業所の主な業種は何ですか。(○は1つ)

「医療・福祉」が24.1%で最も高く、次いで「卸売・小売業」が18.4%、「サービス業」が16.1%、「建設業」が11.5%、「宿泊業・飲食サービス業」が9.2%、「製造業」が8.0%、「その他」が3.4%、「金融・保険業」が2.3%、「運輸・通信業」が1.1%となっている。



(2) 従業員数・雇用形態

問2. 貴事業所の従業員数・雇用形態についてご回答ください。

「①管理職数」は、女性が75人、男性が305人となっており、回答事業所全体の管理職数に占める女性割合は19.7%となっている。「②正規従業員数」は、女性が680人、男性が1,129人となっており、正規従業員の女性割合は37.6%となっている。「③非正規従業員数」は、女性が1,175人、男性が621人となっており、非正規従業員の女性割合は65.4%となっている。

表 従業員数・雇用形態

	男性	女性	合計
①管理職数	305 人	75 人	380 人
②正規従業員数	1,129 人	680 人	1,809 人
③非正規従業員数	621 人	1,175 人	1,796 人
合計	1,815 人	1,869 人	3,684 人

※従業員総数が不明の事業所が含まれるため、各項目の計と合計は一致しません。

(3) 育児・介護休業の取得状況

問3. 育児・介護休業の取得状況についておたずねします。

直近3年間の育児休業の取得者数は、女性が73人、男性が4人となっている。

直近3年間の介護休業の取得者数は、女性が5人、男性が1人となっている。

表 育児・介護休業の取得状況

	男性	女性
直近3年間の育児休業の取得者数	4 人	73 人
直近3年間の介護休業の取得者数	1 人	5 人

2. 女性の登用について

(1) 女性の雇用状況の変化

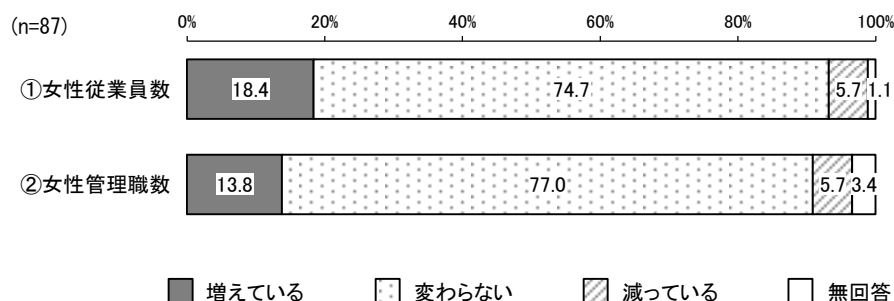
問4. 貴事業所では、5年前と比べて女性の雇用状況はどのようになっていますか。

女性従業員数は、「変わらない」が74.7%、「増えている」が18.4%、「減っている」が5.7%となっている。

女性管理職数は、「変わらない」が77.0%、「増えている」が13.8%、「減っている」が5.7%となっている。

女性管理職数の伸び率は、女性従業員数に比べて4.6ポイント低くなっている。

図 女性の雇用状況の変化



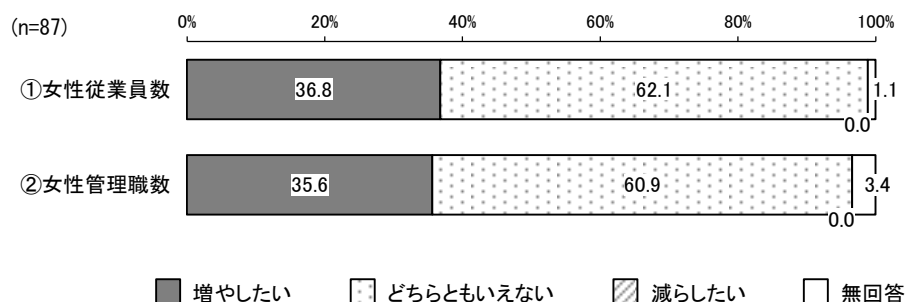
(2) 女性の雇用についての考え方

問5. 貴事業所では、今後、女性の雇用をどのようにしたいと考えていますか。

女性従業員数は、「どちらともいえない」が62.1%、「増やしたい」が36.8%となっている。

女性管理職数は、「どちらともいえない」が60.9%、「増やしたい」が35.6%となっている。

図 女性の雇用についての考え方

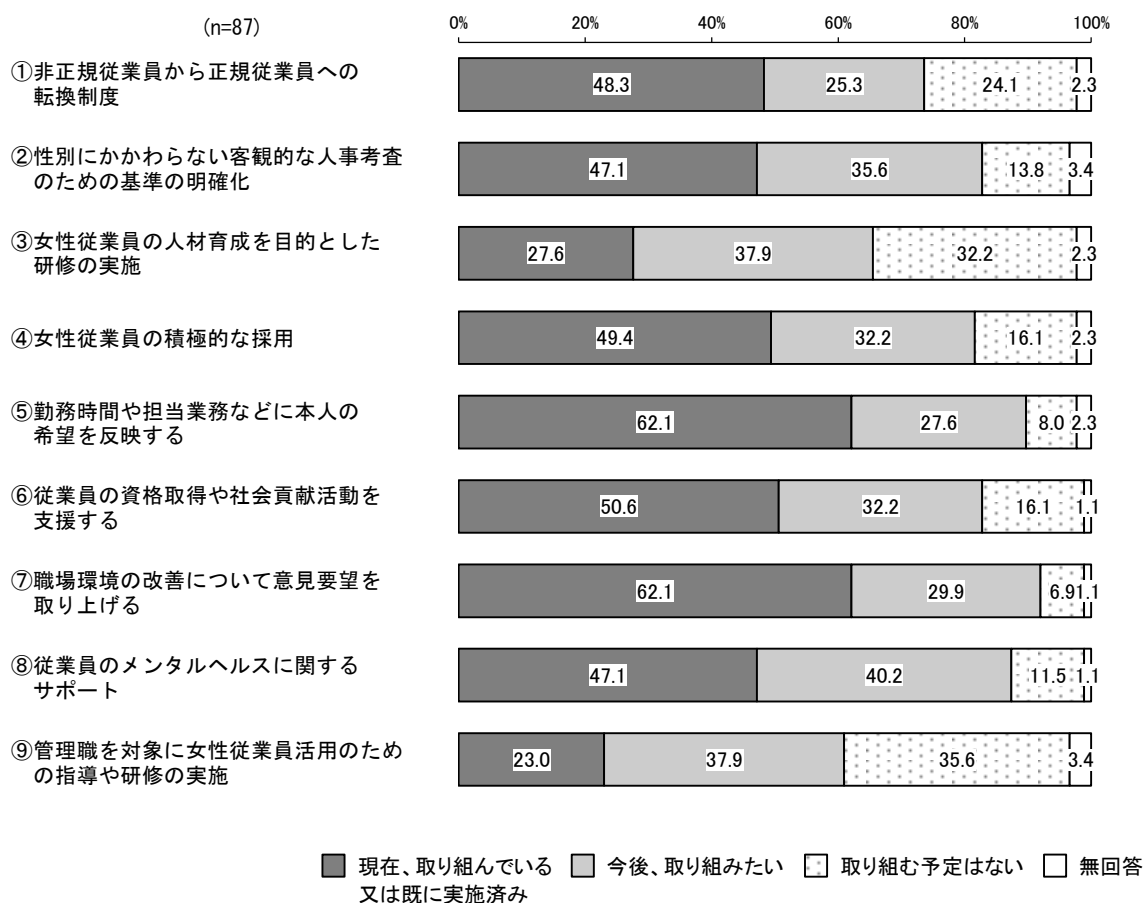


(3) 女性の積極的登用のための取組の状況

問6. 貴事業所において、女性を積極的に登用するために、現在、取り組んでいることはありますか。また今後、取り組みたいことはありますか。(〇は①～⑨それぞれに1つ)

「⑤勤務時間や担当業務などに本人の希望を反映する」と「⑦職場環境の改善について意見要望を取り上げる」では「現在、取り組んでいる又は既に実施済み」が6割を超えており、「今後、取り組みたい」を合わせると約9割となっている。また、「⑧従業員のメンタルヘルスに関するサポート」では「今後、取り組みたい」が40.2%と高くなっており、「現在、取り組んでいる又は既に実施済み」を合わせると約9割となっている。一方、「③女性従業員の人材育成を目的とした研修の実施」と「⑨管理職を対象に女性従業員活用のための指導や研修の実施」では「現在、取り組んでいる又は既に実施済み」は2割台と低く、「取り組む予定はない」がいずれも3割を超えている。

図 女性の積極的登用のための取組の状況

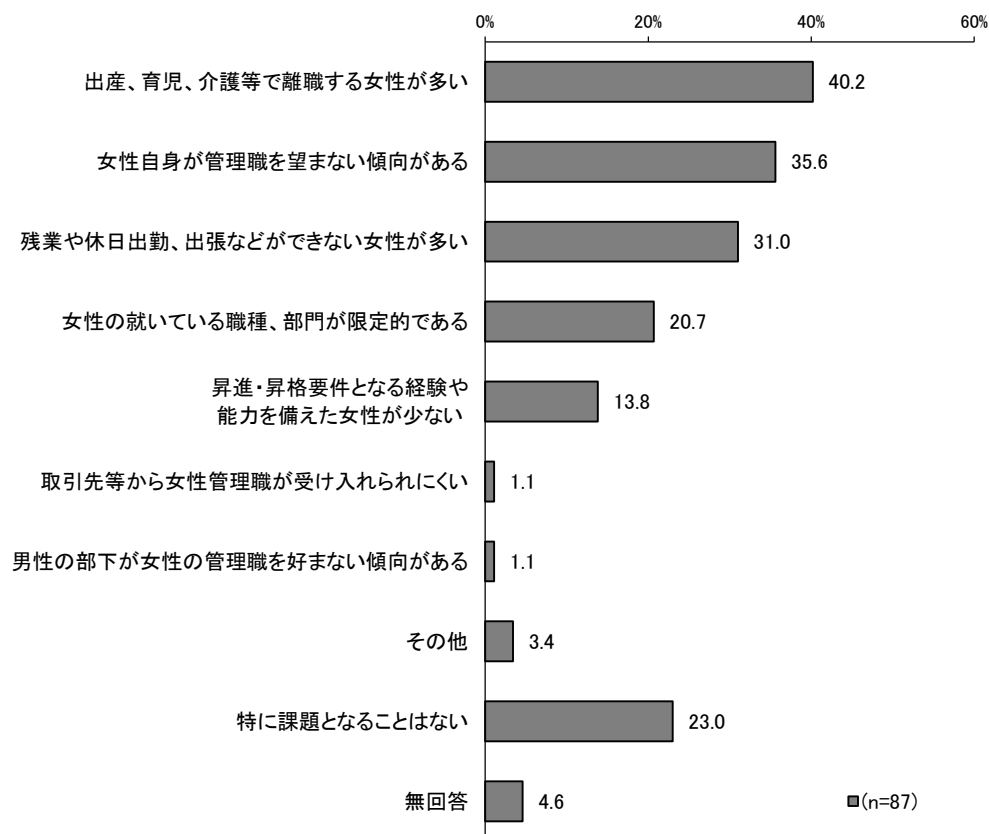


(4) 女性を管理職に登用するうえでの課題

問7. 女性を管理職に登用するうえで課題となるのは、どのようなことですか。(〇はいくつでも)

「出産、育児、介護等で離職する女性が多い」が40.2%で最も高く、次いで「女性自身が管理職を望まない傾向がある」が35.6%、「残業や休日出勤、出張などができない女性が多い」が31.0%となっている。「特に課題となることはない」は23.0%となっている。

図 女性を管理職に登用するうえでの課題



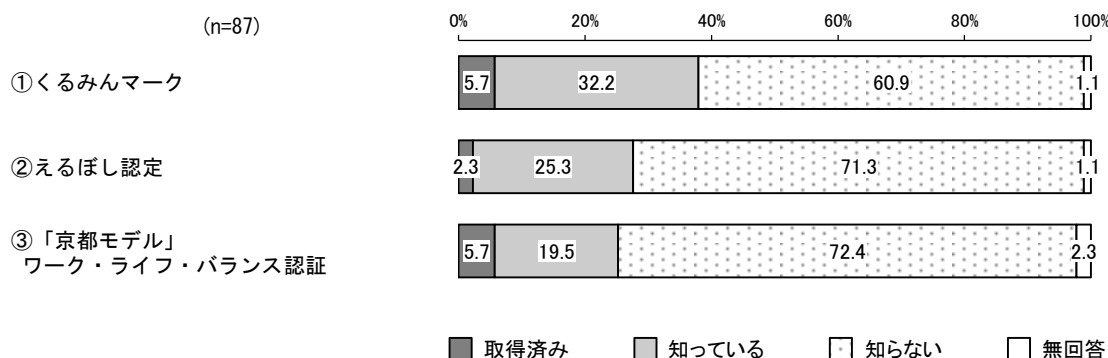
3. 男女がともに働きやすい環境について

(1) 企業認定・認証制度の認知度

問8. 国や京都府が取り組む、次の企業認定・認証制度をご存知ですか。(〇は①～③それぞれに1つ)

いずれの企業認定・認証制度も「知らない」が6割以上となっており、「②えるぼし認定」と「③「京都モデル」ワーク・ライフ・バランス認証」は7割を超えている。認知度(「取得済み」と「知っている」の合計)は「①くるみんマーク」が37.9%、「②えるぼし認定」が27.6%、「③「京都モデル」ワーク・ライフ・バランス認証」が25.2%となっている。

図 企業認定・認証制度の認知度



① (次世代育成支援対策推進法)
「子育てサポート企業」として認定
(くるみんマーク)



② (女性活躍推進法)
女性の活躍推進に関する
状況等が優良な事業主の
認定 (えるぼし認定)



③ 「京都モデル」ワーク・ライフ・バランス認証
ワーク・ライフ・バランスに取り組む方針を宣言
し、認証基準を満たす従業員 300 人以下の府内事
業所を京都府が認証

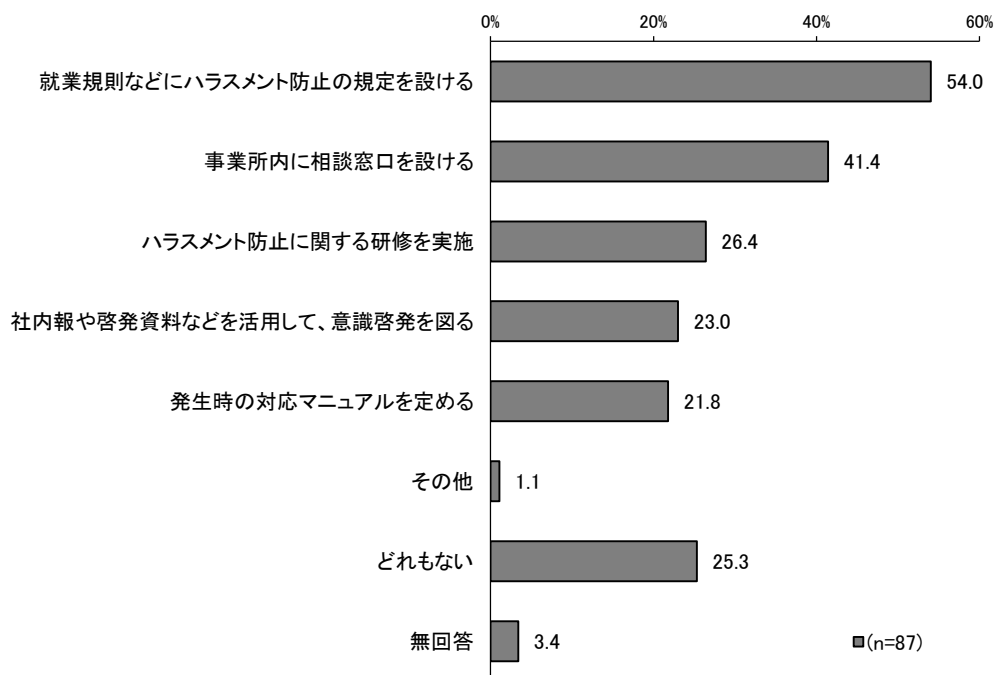


(2) ハラスメント防止のための取組の状況

問9. 貴事業所では、職場におけるハラスメントを防止するため、現在、取り組んでいることはありますか。(〇はいくつでも)

「就業規則などにハラスメント防止の規定を設ける」が54.0%で最も高く、次いで「事業所内に相談窓口を設ける」が41.4%、「ハラスメント防止に関する研修を実施」が26.4%、「どれもない」が25.3%、「社内報や啓発資料などを活用して、意識啓発を図る」が23.0%、「発生時の対応マニュアルを定める」が21.8%となっている。

図 ハラスメント防止のための取組の状況

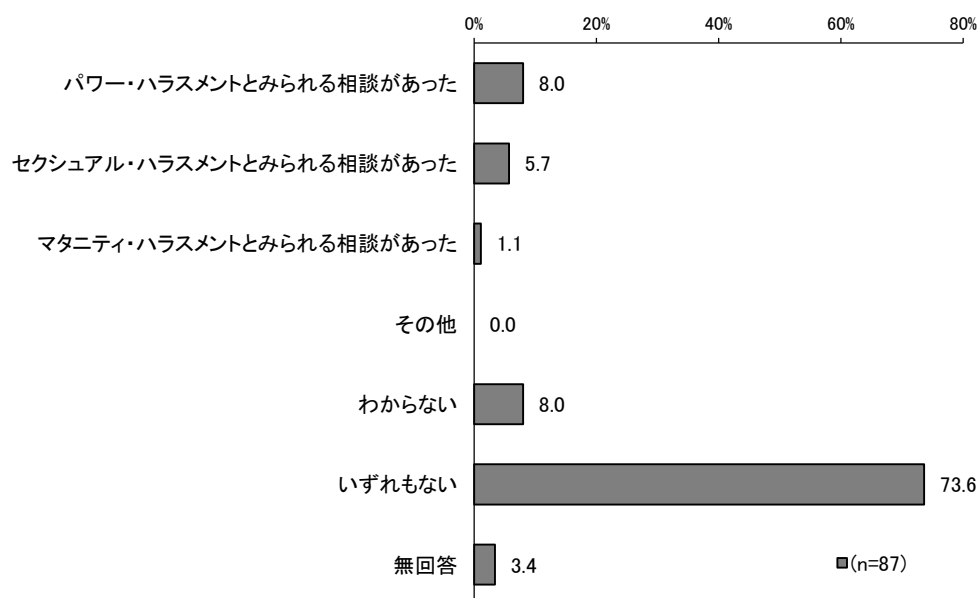


(3) ハラスメントなどの相談事例の有無

問 10. 貴事業所では、この3年間にセクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、マタニティ・ハラスメントなどの相談事例がありましたか。(〇はいくつでも)

「いずれもない」が 73.6%となっており、「パワー・ハラスメントとみられる相談があった」と「わからない」がともに 8.0%、「セクシュアル・ハラスメントとみられる相談があった」が 5.7%、「マタニティ・ハラスメントとみられる相談があった」が 1.1%となっている。

図 ハラスメントなどの相談事例の有無



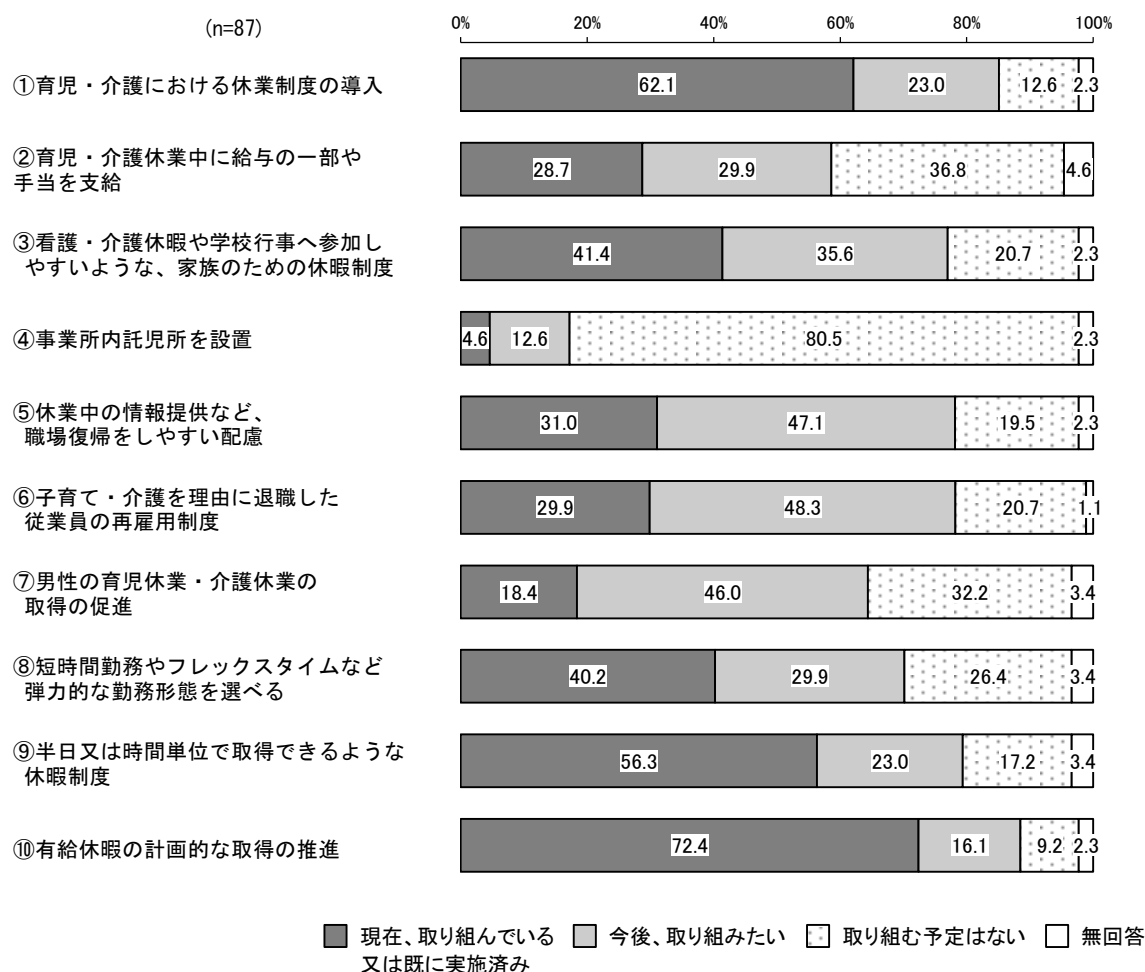
4. 育児・介護との両立支援について

(1) 両立支援のための取組の状況

問 11. 貴事業所では、男女がともに育児・介護をしながら働くことについて、現在、取り組んでいることはありますか。また今後、取り組みたいことはありますか。(〇は①～⑩それぞれに1つ)

「①育児・介護における休業制度の導入」「⑨半日又は時間単位で取得できるような休暇制度」「⑩有給休暇の計画的な取得の推進」では「現在、取り組んでいる又は既に実施済み」が5割以上と高くなっており、「今後、取り組みたい」を合わせると約8～9割となっている。「⑤休業中の情報提供など、職場復帰をしやすい配慮」「⑥子育て・介護を理由に退職した従業員の再雇用制度」「⑦男性の育児休業・介護休業の取得の促進」では「現在、取り組んでいる又は既に実施済み」は2～3割程度だが、「今後、取り組みたい」がいずれも4割台後半と高くなっている。一方、「④事業所内託児所を設置」では「取り組む予定はない」が80.5%と最も高くなっている。

図 両立支援のための取組の状況

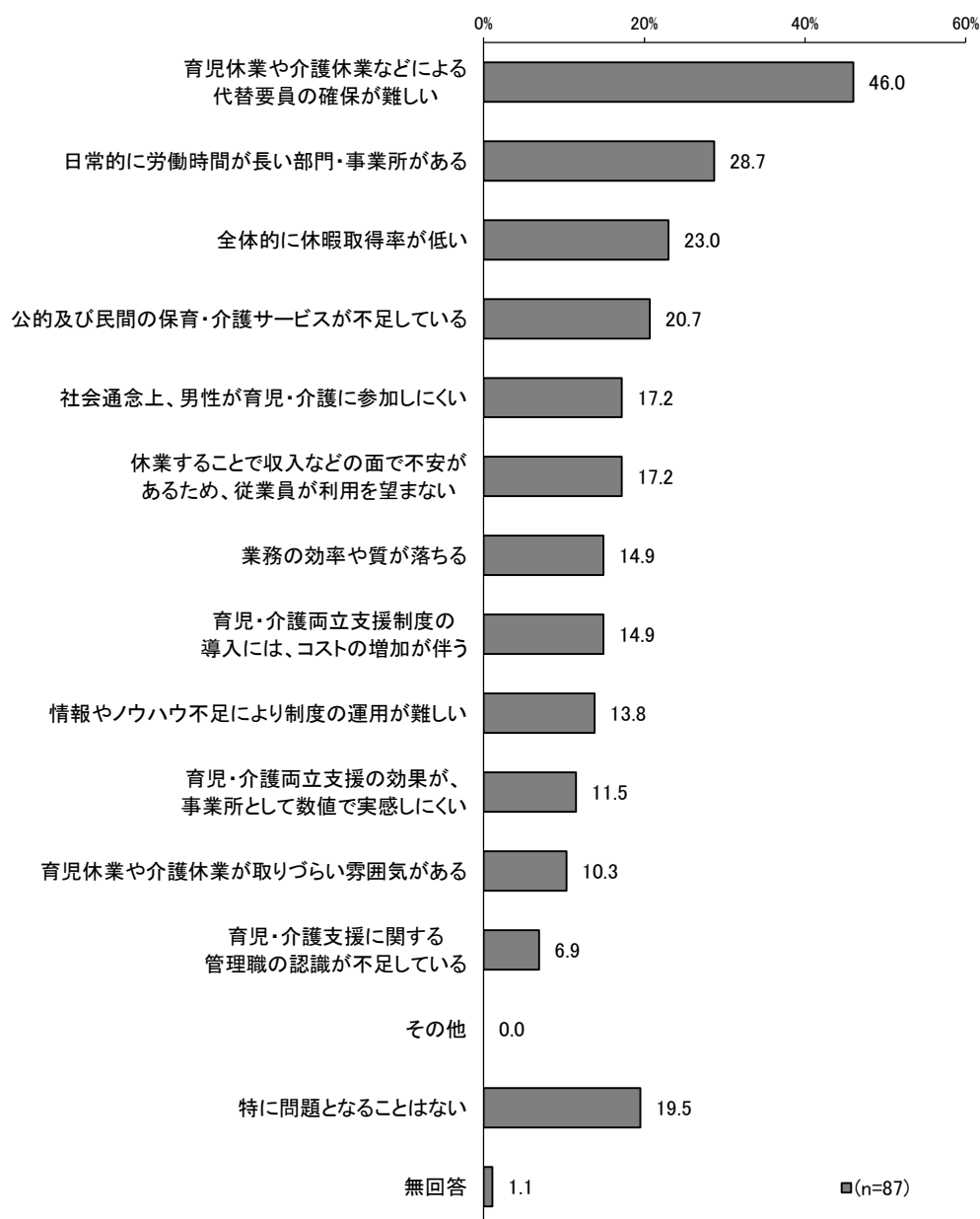


（２）両立支援を推進するうえでの課題

問 12. 貴事業所において、仕事と育児や介護の両立支援を推進しようとする場合、どのような問題があると思いますか。（〇はいくつでも）

「育児休業や介護休業などによる代替要員の確保が難しい」が46.0%で最も高く、次いで「日常的に労働時間が長い部門・事業所がある」が28.7%、「全体的に休暇取得率が低い」が23.0%、「公的及び民間の保育・介護サービスが不足している」が20.7%、「特に問題となることはない」が19.5%、「社会通念上、男性が育児・介護に参加しにくい」と「休業することで収入などの面で不安があるため、従業員が利用を望まない」がともに17.2%、「業務の効率や質が落ちる」と「育児・介護両立支援制度の導入には、コストの増加が伴う」がともに14.9%となっている。

図 両立支援を推進するうえでの課題



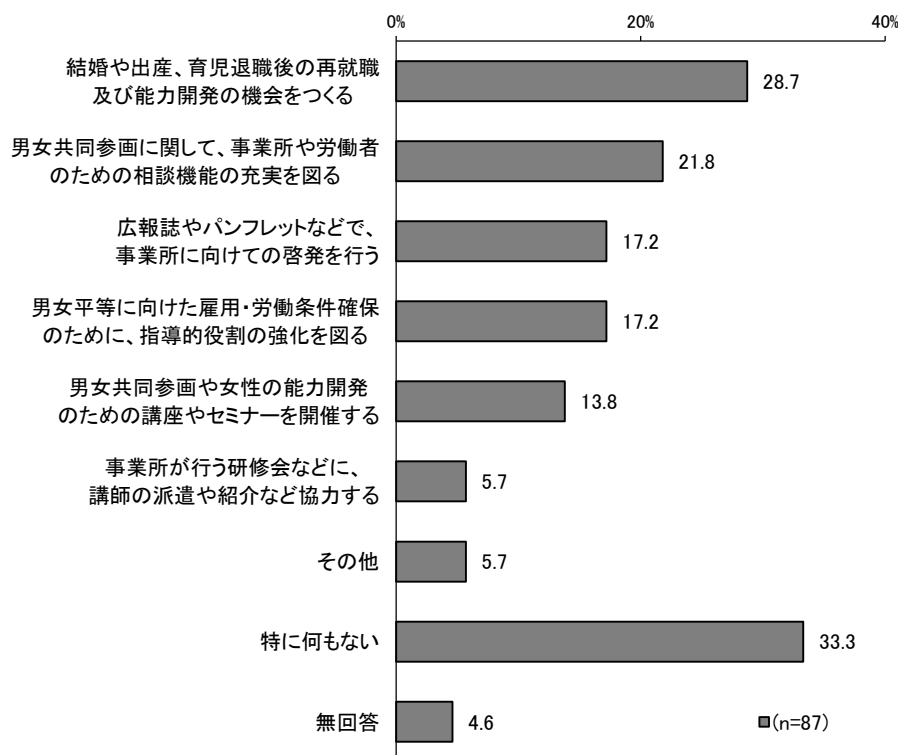
5. 男女共同参画に関する今後の取組について

(1) 男女がともに働きやすい環境をつくるために行政に対して希望すること

問 13. 今後、事業所が男女がともに働きやすい環境をつくるために、行政に対してどのようなことを望まれますか。(〇はいくつでも)

「特に何もない」が 33.3%で最も高く、次いで「結婚や出産、育児退職後の再就職及び能力開発の機会をつくる」が 28.7%、「男女共同参画に関して、事業所や労働者のための相談機能の充実を図る」が 21.8%、「広報誌やパンフレットなどで、事業所に向けての啓発を行う」と「男女平等に向けた雇用・労働条件確保のために、指導的役割の強化を図る」がともに 17.2%、「男女共同参画や女性の能力開発のための講座やセミナーを開催する」が 13.8%となっている。

図 男女がともに働きやすい環境をつくるために行政に対して希望すること



V 資料(調査票等)

1. インターネットによる回答方法

別紙

インターネットによる回答方法

本調査は無記名調査です。

調査票に貼り付けている数字は、返信された紙の調査票とインターネット回答との重複をチェックするために設定しているものであり、個人情報と結びついているものではありません。

この番号で宛名の方が特定されることはありません。

【注意】

- ご回答は、宛名（または代理のご家族）の方が、紙の調査票への記入またはインターネット回答のいずれか一方を選んでください。
- インターネットで回答された方は、調査票の記入・送付は不要です。
- 両方に回答された場合は、一方の回答が無効となります。

<インターネット回答方法>

1. 下記 URL を入力するか右のQRコードを読み取り、インターネット回答ページへアクセスしてください。

【インターネット回答ページ URL】

<https://al-form.tank.jp/survey/k10/>



2. トップページ「パスワード欄」に、調査票表紙の右下に記載されている数字を入力して、**回答を始める**をクリックしてください。
調査票の回答ページが表示されたら、順番に該当する番号にチェックを入れてください。
3. 入力が終わったら、確認ページで回答内容を確認して、**送信する**を押してください
4. インターネットでの回答は1回限りです。回答を送信されると、その後の修正はできませんので、ご注意ください。

木津川市男女共同参画に関する市民アンケート調査

平素は木津川市の市政に、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
木津川市では、2015年（平成27年）に「木津川市男女共同参画後期計画 “新キヲリさわやかプラン”」を策定し、「男女がともに輝くまちづくりをめざして」を基本理念として、取り組んでいます。

この調査は18歳以上の市民の皆様から、無作為に抽出した3,000人の方に実施し、市民の皆様が日頃の生活の中で感じられるお考えやご意見等をお伺いし、計画策定の基礎資料として活用することを目的としています。

回答は無記名であり、統計的に処理しますので、返信用封筒から個人が特定されることはありません。また、個人情報取り扱いについては、適正に実施いたします。この調査結果は計画策定の目的以外に使用することはありませんので、率直なご意見を記入ください。

なお、令和元年12月20日の住民基本台帳を基に抽出していますので、この調査票がお手元に届いた時点で異動（婚姻、離婚、転出など）のあった方はご了承くださいませようお願い申し上げます。

ご多忙の折とは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、アンケート調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和2年2月
木津川市長 河井 規子

調査票へのご記入にあたって

- ① 封筒の宛名の方ご本人がご回答ください。
※何らかの理由でご本人による回答が難しい場合は、ご本人のお考えを尊重し代理の方がご記入いただければ幸いです。
- ② 「その他（ ）」にあてはまる場合は、その具体的な内容を（ ）内に記入ください。
- ③ ご記入後は、この調査票を同封の返信用封筒に入れ、無記名のまま2月24日(月)までに最寄りの郵便ポストにご投函ください。切手は不要です。
- ④ この調査は、本調査票にご記入のうえ郵送いただくか、パソコンやスマートフォン等でインターネットを通じて回答いただくことも可能です。

インターネットによる回答方法は、別紙をご覧ください

【お問い合わせ先】木津川市 人権推進課 男女共同参画係（女性センター内）
TEL：0774-72-7719（直通）／ FAX：0774-72-1399
E-Mail：josei@city.kizugawa.lg.jp

この数字はインターネットを通じて回答いただく場合に必要となります。
この数字で宛名の方を特定することはできません。

2. 市民調査票

あなたご自身のことについて

問 1. あなたの性別は。(○は1つ) (あなた自身が自認する性についてお答えください)

1. 男性 (性同一性障害などの方への人権問題はありますが、男女の考え方や行動を把握するため、性別をお伺いしています。)	2. 女性	3. 回答しない
---	-------	----------

問 2. あなたの年齢は。

年齢 () 歳

問 3. 現在のあなたは。(○は1つ)

1. 配偶者・パートナーがいる	2. 配偶者・パートナーはいない
-----------------	------------------

問 4. あなたと配偶者・パートナーの職業は、次のどれにあたりますか。「あなた」と「配偶者・パートナー」それぞれに番号を1つ。配偶者・パートナーのいない方はあなたの職業のみに番号を1つ記入してください。

●あなたの職業		●配偶者・パートナーの職業	
番号		番号	
1. 正規の社員や職員 2. 非正規の社員や職員 (パート・アルバイト・派遣など) 3. 農林漁業 4. 会社経営者、自営業主 (農林漁業を除く) 5. 家族従業者 (農家や商店など自営業主の家族で、その自営業に従事している方) 6. 専業主婦・専業主夫 7. 無職 8. 年金生活者、定年退職者 9. 学生 10. その他 (具体的に)			

問 5. あなたにお子さんはいますか。(○は1つ) (別居・同居は問いません)
いる場合、お子さんの年代はどれにあたりますか。(○はいくつでも)

1. いる	2. いない			
●子どもの年代				
1. 就学前	2. 小学生	3. 中学生	4. 高校生	
5. 大学生・大学院生・専門学校生				
6. 社会人				

問 6. あなたの家族構成は。(○は1つ)

1. ひとり暮らし	2. 夫婦のみの世帯		
3. 親と子どもからなる世帯 (二世帯)	4. 親と子と孫からなる世帯 (三世帯)		
5. その他の世帯 (具体的に)			

家庭生活について

問 7. あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どのように考えますか。(○は1つ)

1. 同感する	2. どちらかといえば同感する
3. どちらかといえば同感しない	4. 同感しない

問 8. あなたのご家庭では、次のことがらを男女のどちらが**実際に**されていますか。

	いつも女性	程度主 は女性 補助で	が男性 と同じ 程度性	程度主 は男性 補助で	いつも男性	該当 しない
(○は①～⑧それぞれに1つ)						
①生活費を得る	1	2	3	4	5	6
②食事のしたく	1	2	3	4	5	6
③食事のあとかたづけ	1	2	3	4	5	6
④洗濯、洗濯物たたみ	1	2	3	4	5	6
⑤掃除	1	2	3	4	5	6
⑥日常の買い物	1	2	3	4	5	6
⑦子どもの世話	1	2	3	4	5	6
⑧町内会や地域の活動	1	2	3	4	5	6

問 9. あなたは、次のことがらを男女のどちらが**するのが理想だ**と思いますか。

	いつも女性	程度主 は女性 補助で	が男性 と同じ 程度性	程度主 は男性 補助で	いつも男性
(○は①～⑧それぞれに1つ)					
①生活費を得る	1	2	3	4	5
②食事のしたく	1	2	3	4	5
③食事のあとかたづけ	1	2	3	4	5
④洗濯、洗濯物たたみ	1	2	3	4	5
⑤掃除	1	2	3	4	5
⑥日常の買い物	1	2	3	4	5
⑦子どもの世話	1	2	3	4	5
⑧町内会や地域の活動	1	2	3	4	5

問 10. あなたは、生活の中で「仕事」「家庭生活」「プライベート（趣味や学習・社会参加活動・地域活動）」で何を優先しますか。希望と現実（現状）に最も近いものをそれぞれお答えください。

<希望> (○は1つ)	1. 仕事	「仕事」：週1時間以上働いていること。雇用形態は問わない。 「家庭生活」：家族と過ごす、家事、育児、介護・看護など。 「プライベート」：趣味、学習などの個人の生活や社会参加活動、交際、付き合いなどの地域活動。
	2. 家庭生活	
	3. プライベート	
	4. 仕事と家庭生活	
	5. 仕事とプライベート	
	6. 家庭生活とプライベート	
	7. 仕事、家庭生活、プライベート全て	
<現実> (○は1つ)	1. 仕事	1. 男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすること 2. 男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすること 3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること 4. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること 5. 社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高めること 6. 男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること 7. 労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及すること 8. 男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと 9. 男性が家事・育児などを行うための、仲間づくりを進めること 10. その他（具体的に） 11. 特に必要なことはない
	2. 家庭生活	
	3. プライベート	
	4. 仕事と家庭生活	
	5. 仕事とプライベート	
	6. 家庭生活とプライベート	
	7. 仕事、家庭生活、プライベート全て	

問 11. 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1. 男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすること
2. 男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすること
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること
4. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること
5. 社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高めること
6. 男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
7. 労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及すること
8. 男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと
9. 男性が家事・育児などを行うための、仲間づくりを進めること
10. その他（具体的に）
11. 特に必要なことはない

問 12. あなたは、子どもにどのように育てほいですか（ほしかったですか）。子どものいい方もいいるとしたらと仮定してお答えください。（女の子、男の子それぞれ○はいくつでも）

	経済的に自立ができる	自分自身の身の回りのこと	社会に役立つように	責任感をもてるように	やさしさと思いやりをもてるように	親直に先生や周りの人に聞くように	自分自身の考えを人前でうまく言えるように	まわりをよく観察し、状況に応じて行動できる
①女の子に	1	2	3	4	5	6	7	8
②男の子に	1	2	3	4	5	6	7	8

問 13. あなたは、男女共同参画を進めるために、子どもへの教育においてどのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

1. 男女平等の意識を育てる教育をする
2. 進路や職業選択において多様な選択肢にふれる機会を与える
3. 幼児のときから自分の心とからだを大切にすることを意識を育み、いじめや暴力から自分を守る力を育てる
4. 男女がともに家庭の責任を果たすことの大切さを教える
5. 年齢に応じた性教育を行う
6. 「男の子だから」「女の子だから」といった役割やふるまいを性別で決めつけるような言い方をしない
7. 男女ともに、家事能力が身につくような経験をさせる
8. 男女ともに、経済的自立の意識をもつよう働きかける
9. 周囲の大人が、男女が平等で対等な人間関係をつくる
10. その他（具体的に
11. 特に必要ない

問 14. あなたは、次のような地域活動に参加していますか。（○はいくつでも）

1. 町内会、PTA、子ども会などの活動
2. 福祉ボランティア活動
3. 環境美化・自然保護活動
4. まちづくり
5. 国際交流
6. 各種講座などの生涯学習
7. 趣味やスポーツのグループ活動など
8. 地域活動に参加していない

問 15. あなたが、地域活動に参加する際に、支障となることは何でしょうか。（○はいくつでも）

1. 仕事忙しいこと
2. 家事・育児・介護が忙しいこと
3. 子どもを預けるところがないこと
4. 健康・体力に自信がないこと
5. 経済的に余裕がないこと
6. 家族の理解や協力がいないこと
7. 活動場所がないこと
8. 活動情報がないこと
9. 活動する仲間がいないこと
10. その他（具体的に
11. 特に支障はない

問 16. あなたは、自治会長やPTA会長など、女性が地域活動のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

1. 女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすること
2. 女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすること
3. 社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること
4. 女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと
5. 女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取組を進めること
6. その他（具体的に
7. 特にない
8. わからない

問 17. 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要なことは何だと思えますか。
(○はいくつでも)

- | |
|---|
| 1. 避難所の設備 (男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗たく物干し場等) |
| 2. 避難所の設計・運営に男女がともに参画し、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること |
| 3. 災害時の救援医療体制 (乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポート事業) |
| 4. 公的施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮 |
| 5. 被災者に対する相談体制 |
| 6. 防災に関する会議に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ること |
| 7. 災害対策本部に男女がともに配置され、対策に男女両方の視点が入ること |
| 8. 自主防災組織等に男女がともに参画し、地域で行われる防災活動に男女両方の視点が入ること |
| 9. 災害復旧・復興対策計画の策定に男女がともに参画し、計画に男女両方の視点が入ること |
| 10. その他 (具体的に) |
| 11. 特に必要なことはない |

仕事について

問 18. 女性が仕事をすることについてあなたはどのようなお考えですか。(○は1つ)

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい |
| 2. 出産後は一時家庭に入り、育児が終われば再び仕事に就く方がよい |
| 3. 出産前までは仕事に就く方がよい |
| 4. 結婚するまでは、仕事に就く方がよい |
| 5. 女性性は仕事に就かない方がよい |
| 6. その他 (具体的に) |

現在就労している方のみお答えください

問 19. あなたは、今の職場・仕事に不満や悩みがありますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 1. 収入が少ない | 2. 労働時間が長い、労働時間が不規則 |
| 3. 休暇が取りにくい | 4. 身体的負担が大きい |
| 5. 能力が正當に評価されていない | 6. ハラスメント [*] がある |
| 7. 仕事と家庭や個人の生活の両立がむずかしい | 8. 職場の人間関係がむずかしい |
| 9. 昇進や昇給などの待遇で差別されている | 10. 女性が働き続けることに理解がない |
| 11. 会社や仕事の先行きが不安 | 12. その他 (具体的に) |
| 13. 特にない | |

※相手に対して行われる「嫌がらせ」のこと。地位や権力などを背景に、相手に嫌がらせを行う行為。また、本人にそのつもりはなくても、相手を不快にさせる、尊厳を傷つける、脅威を与えるなどのハラスメントに該当します。(パワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメントなど)

現在働いていない方のみお答えください

問 20. 問 4 で、「6. 専業主婦・専業主夫」または「7. 無職」と答えた方におたずねします。
あなたは、今後、働きたいと思えますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------------|---------------|-----------|
| 1. すぐにも働きたい | 2. 条件が整えば働きたい | 3. 働きたくない |
| 4. その他 (具体的に) | | 5. わかからない |

問 21. 問 20 で、「1. すぐにも働きたい」または「2. 条件が整えば働きたい」と答えた方におたずねします。現在、働いていない理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 自宅に近い仕事が見つからない | 2. 希望の給料に合う仕事が見つからない |
| 3. 希望の勤務時間に合う仕事が見つからない | 4. 希望の雇用形態に合う仕事が見つからない |
| 5. 子どもが小さいうちは自分で世話をしたい | 6. 子どもが保育所などに入所できなかった |
| 7. 家族の協力が得られない | 8. 親や家族の介護・看護がある |
| 9. 自分の健康に不安がある | |
| 10. その他 (具体的に) | |

ドメスティック・バイオレンス、ハラスメントなどについて

問 22. あなたは、配偶者・パートナーや恋人から一度でも次のような行為を受けて恐怖を感じた経験がありますか。(○はいくつでも)

- | |
|--------------------------------|
| 1. なくる、ける、物を投げるなどの身体的暴力 |
| 2. たびたび無視するなどの精神的暴力 |
| 3. のしる、おどす、ばかにするなど言葉の暴力 |
| 4. 性交渉を強要する、避妊に協力しないなどの性的暴力 |
| 5. 生活費を出さない、お金を取り上げるなどの経済的暴力 |
| 6. 外出や人との付き合いをきびしく制限するなどの精神的暴力 |
| 7. 携帯電話を細かく監視し、行動を制限するなどの精神的暴力 |
| 8. 恐怖を感じる行為を受けたことがない |

問 22 で、1～7の行為を受けた経験がある方にお聞きします

問 23. あなたは、そのことを誰かに話したり、相談したりしましたか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 家族・親族に相談した | 2. 同僚や友人に相談した |
| 3. 職場の上司に相談した | 4. 学校・職場の相談窓口で相談した |
| 5. 公的機関に相談した | 6. その他 (具体的に) |
| 7. 誰にも話さず、相談していない | |

問 23 で、「7. 誰にも話さず、相談していない」とお答えの方にお聞きします

問 24. 相談しなかったのは、なぜですか。(○はいくつでも)

1. 誰に相談してよいのかわからなかったから

2. 人に知られたくないから

3. 相談しても無駄だと思ったから

4. 相談しても自分の責任にされたと思ったから

5. 相談したことが知れると、よりひどい暴力を受けると思ったから

6. 自分にも悪いところがあると思ったから

7. 相談するほどのことではないと思ったから

8. 子どもや家族、他の人に危害が及ぶなど、迷惑がかかると思ったから

9. 恐怖感があるから

10. その他(具体的に)

問 25. あなたは、職場や学校、その他の活動の場で次のような不快と感じる行為を受けたことがありますか。(○はいくつでも)

1. 年齢や容姿のことで傷つくようなことを言われる

2. 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされる

3. 結婚や異性との交際についてしつこく聞かれる

4. 異性に体をさわられた・卑猥な話を聞かされる

5. 交際や性的行為を強要される

6. 権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる (パワー・ハラスメント)

7. 妊娠・出産を理由に不当な扱いを受ける (マタニティ・ハラスメント)

8. しつこくつきまとわれる (ストーカー行為)

9. 上記のような経験はない

問 26. あなたは、主に女性が被害にあっている次の問題について知っていますか。

	よく知っている		少しは中身を言葉は聞いたことがある		知らない
	1	2	知っている	2	3
①デートDV※	1	2	3	4	
②デートレイプドラッグ※	1	2	3	4	
③リベンジポルノ※	1	2	3	4	
④JKビジネス※	1	2	3	4	
⑤AV出演強要※	1	2	3	4	

※デートDV：交際中のカップル間で起こる暴力のこと。相手を自分の思いどおりにコントロールしようとする態度や行動。なぐる、ける、言葉で傷つける、監視する、友達との交際を制限するなど暴力の種類は様々です。

※デートレイプドラッグ：デートや飲み会ですすめられた飲食物に睡眠導入剤などが混入されており、意識を失ったところで性暴力にあう被害のこと。

※リベンジポルノ：交際中に撮影した画像や動画が、元交際相手によって同意なくインターネット上に公表されること。

※JKビジネス：甘い言葉で誘われ、高収入アルバイトに応募すると、性的サービスが要求されたり、性暴力・ストーカー行為などの被害にあう危険性の高いアルバイトのこと。

※AV出演強要：モデル契約などと偽ってスカウトされ、アダルトビデオ(AV)への出演強要や、出演を拒否すると多額の連帯金を請求されること。

男女共同参画社会について

問 27. あなたは次の①～⑧で、男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの考えに最も近いものをお答えください。

(○は①～⑧それぞれに1つ)					
男性の方が優遇されて		男性と女性とが優遇されている		女性の方が優遇されている	
①家庭生活	1	2	3	4	5
②雇用の機会や職場	1	2	3	4	5
③地域	1	2	3	4	5
④学校教育の場	1	2	3	4	5
⑤政治の場	1	2	3	4	5
⑥法律や制度の上	1	2	3	4	5
⑦社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5
⑧社会全体として	1	2	3	4	5

問 28. あなたは次の①～⑥の「言葉」や「事柄」についてご存知ですか。

(〇は①～⑥それぞれに1つ)				
	知 内 つ 發 て ま で い る	聞 こ は た り あ る	言 葉 を 見 た り	全 く 知 ら な い
①男女共同参画社会 男女が社会の対等なパートナーとして、社会のあらゆる分野の活動に参画し、利益を享受するとともに責任を担う社会。	1	2	3	
②女性活躍推進法 働く場面で活躍したいという希望をもつ女性が活躍できるよう、一定規模以上の企業等に取組を義務づけた法律。	1	2	3	
③候補者男女均等法 国会と地方議会の選挙で、各政党に候補者数を定める限り男女均等にしよう求める法律。	1	2	3	
④ポジティブ・アクション（積極的改善措置） 社会的・構造的な差別によって不利益を被っている集団に対して、一定の範囲で特別の機会を提供して実質的な機会均等の実現を目的として講じる暫定的な措置のこと。	1	2	3	
⑤仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス） 働く人が「仕事」「生活」（育児や介護、趣味、地域活動など）も充実させて豊かな人生を送ることをめざす働き方、生き方のこと。	1	2	3	
⑥ジェンダー 生物学的な性別に対して社会的・文化的に形成された性別のこと。	1	2	3	

問 29. この 10 年間で、あなたの周囲の状況から判断して次の①～⑦がどの程度進んだと思いますか。

(〇は①～⑦それぞれに1つ)						
	前 進 し た	い ど ち ら か と 進 し た	変 わ ら な い	い ど ち ら か と 後 退 し た	後 退 し た	わ か ら な い
①男女平等の考え方	1	2	3	4	5	6
②職場における女性の活躍	1	2	3	4	5	6
③地域活動における女性の活躍	1	2	3	4	5	6
④仕事と家庭・子育てなどの両立のしやすさ	1	2	3	4	5	6
⑤男性の子育て、介護への参加	1	2	3	4	5	6
⑥DVなど女性に対する暴力をなくすための取組	1	2	3	4	5	6
⑦行政などの相談窓口の充実	1	2	3	4	5	6

問 30. 男女共同参画社会をめざして、行政が今後さらに力を入れて取り組むべきことは何だと思えますか。(〇は3つまで)

1. 男女共同参画に向けた学習の推進
2. 男女平等の学校教育を充実させること
3. 女性自らの意識と能力を高めるための支援
4. 職業紹介や職業訓練の充実など、女性の就労機会を増やすこと
5. 保育所や放課後学級の施設などを充実させること
6. 高齢者に対する社会サービスを充実させること
7. 育児休業・介護休業・看護休業などの制度の普及を図ること
8. 母性保護や健康の維持・増進対策を進めること
9. ひとり親家庭等への援助、社会保障を充実させること
10. 政策・方針決定の場への女性の登用を進めること
11. 女性相談事業を進めること
12. 配偶者・パートナー等に対する暴力の根絶のための支援
13. 制度や慣行の見直しのための啓発や情報提供の実施
14. 男女が子育てや介護をとともに担える環境づくり
15. その他(具体的に)
16. 特になし

■ 本市の男女共同参画施策に関するご意見等がありましたらご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。
この調査票は、**2月24日(月)**までに、同封の返信用封筒に入れて、ポストに投函してください。

3. 事業所調査票

木津川市男女共同参画に関する事業所アンケート調査

平素は木津川市の市政に、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

木津川市では、2015年（平成27年）に「木津川市男女共同参画後期計画 “新キヲリさわやかプラン”」を策定し、「男女がともに輝くまちづくりをめざして」を基本理念として、取り組んでいます。

このたび、新たな計画の策定に向けて、アンケート調査を実施することとなりました。この調査は、総務省統計局 事業所母集団データベースから無作為に抽出した市内事業所200社に、ご協力をお願いしています。事業所における雇用の状況や女性の活躍推進に係る取組状況、課題などを把握し、計画策定の基礎資料として活用することを目的としております。

回答は無記名であり、統計的に処理し、事業所が特定されることはありません。また、調査結果は計画策定の目的以外に使用することはありません。

ご多忙の折と存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、回答にご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和2年2月
木津川市長 河井 規子

調査票へのご記入にあたって

- ① 回答は、事業所の代表者または、人事を担当されている方がお答えください。
 - ② 女性がない事業所に届いた場合は、一般的な見解として、回答できる範囲でお答えいただければ幸いです。
 - ③ 記入にあたっては令和2年1月1日現在の状況でお答えください。
 - ④ ご記入後は、この調査票を同封の返信用封筒に入れて、2月24日（月）までに最寄りの郵便ポストに入れてください。切手は不要です。
 - ⑤ 本調査は、WEB上の回答ページを設けています。下記URLを入力するか右のQRコードを読み取り、パソコン、スマートフォンで回答していただくことができます。
- WEB 回答ページ URL : <https://ai-form.tank.jp/survey/k20/>
- 上記ページにアクセス後、右のログインパスワードを入力してください。
- ※回答は、本調査用紙もしくはWEB回答ページ入力のどちらから一方でお願いします。
- 【お問い合わせ先】木津川市 人権推進課 男女共同参画係（女性センター内）
TEL : 0774-72-7719（直通）／ FAX : 0774-72-1399
E-Mail : jose@city.kizugawa.lg.jp

■事業所の概要についておたずねします。

問 1. 貴事業所の主な業種は何ですか。（〇は1つ）

1. 製造業	2. 医療・福祉
3. 卸売・小売業	4. 運輸・通信業
5. 農林漁業	6. 建設業
7. 金融・保険業	8. サービス業
9. 水道、電気、ガス、熱供給	10. 宿泊業・飲食サービス業
11. その他（具体的に）	

問 2. 貴事業所の従業員数・雇用形態についてご回答ください。

雇用形態	男性の人数 (人)	女性の人数 (人)	合計 (人)
①管理職数			
②正規従業員数 ※管理職を除く			
③非正規従業員数 ※管理職を除く 派遣、嘱託、契約従業員、アルバイト・パート等			
合 計 (人)			

※該当者がいない場合は「0」をご記入ください。
※「管理職数」は、取締役を含め、部長など一定の権限を持つ方の人数をご記入ください。
※「正規従業員」とは、いわゆる正社員・正職員で期間を定めずに雇われている従業員。

問 3. 育児・介護休業の取得状況についておたずねします。

	男性	女性
直近3年間の育児休業の取得者数	人	人
直近3年間の介護休業の取得者数	人	人

■女性の登用についておたずねします。

問4. 貴事業所では、5年前と比べて女性の雇用状況はどのようになっていますか。

①女性従業員数	②女性管理職数
1. 増えている	1. 増えている
2. 変わらない	2. 変わらない
3. 減っている	3. 減っている

問5. 貴事業所では、今後、女性の雇用をどのようにしたいと考えていますか。

①女性従業員数	1. 増やしたい	2. どちらともいえない	3. 減らしたい
②女性管理職数	1. 増やしたい	2. どちらともいえない	3. 減らしたい

問6. 貴事業所において、女性を積極的に登用するために、現在、取り組んでいることはありますか。また今後、取り組みたいことはありますか。

	現在、取り組みたい 又は既に実施済みの	今後、取り組みたい	取り組み予定はない
(○は①～⑨それぞれに1つ)			
①非正規従業員から正規従業員への転換制度	1	2	3
②性別にかかわらず客観的な人事考査のための基準の明確化	1	2	3
③女性従業員の人材育成を目的とした研修の実施	1	2	3
④女性従業員の積極的な採用	1	2	3
⑤勤務時間や担当業務などに本人の希望を反映する	1	2	3
⑥従業員の資格取得や社会貢献活動を支援する	1	2	3
⑦職場環境の改善について意見要望を取り上げる	1	2	3
⑧従業員のメンタルヘルスに関するサポート	1	2	3
⑨管理職を対象に女性従業員活用のための指導や研修の実施	1	2	3

問7. 女性を管理職に登用するうえで課題となるのは、どのようなことですか。
(〇はいくつでも)

1. 女性自身が管理職を望まない傾向がある
2. 出産、育児、介護等で離職する女性が多い
3. 残業や休日出勤、出張などができない女性が多い
4. 昇進・昇格要件となる経験や能力を備えた女性が少ない
5. 取引先等から女性管理職が受け入れられにくい
6. 女性の就いている職種、部門が限定的である
7. 男性の部下が女性の管理職を好まない傾向がある
8. その他（具体的に）
9. 特に課題となることはない

■男女がともに働きやすい環境についておたずねします。

問 8. 国や京都府が取り組む、次の企業認定・認証制度をご存知ですか。
(○は①～③それぞれに1つ)

<p>① (次世代育成支援政策推進法)</p> <p>「子育てサポート企業」として認定 (くるみんマーク)</p>	 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 取得済み 2. 知っている 3. 知らない
<p>② (女性活躍推進法)</p> <p>女性の活躍推進に関する 状況等が優良な事業主の 認定 (えるぼし認定)</p>	 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 取得済み 2. 知っている 3. 知らない
<p>③ 「京都市モデル」ワーク・ライフ・バランス認証</p> <p>ワーク・ライフ・バランスに取り組む方針を宣言 し、認証基準を満たす従業員 300 人以下の府内事 業所を京都府が認証</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 取得済み 2. 知っている 3. 知らない

問9. 貴事業所では、職場におけるハラスメント※を防止するため、現在、取り組んでいることはありますか。(○はいくつでも)

1. 就業規則などにハラスメント防止の規定を設ける

2. 事業所内に相談窓口を設ける

3. ハラスメント防止に関する研修を実施

4. 発生時の対応マニュアルを定める

5. 社内報や啓発資料などを活用して、意識啓発を図る

6. その他 (具体的に)

7. どれも ない

※ハラスメント:相手に対して行われる「嫌がらせ」のこと。地位や権力などを背景に、相手に嫌がらせを行う行為。また、本人にそのつもりはなくても、相手を不快にさせる、尊厳を傷つける、不利益を与える、脅威を与えるなどもハラスメントに該当します。

(例)セクシュアル・ハラスメント:相手が不快に思い、相手が自身の尊厳を傷つけられたと感じるような性的発言や行動のこと。

パワー・ハラスメント:職場で働く者に対して、職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与えたり、職場環境を悪化させる行為のこと。

マタニティ・ハラスメント:妊娠・出産を理由に職場において不利益を受けたり、精神的・肉体的な嫌がらせを受けたりすること。

問10. 貴事業所では、この3年間にセクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、マタニティ・ハラスメントなどの相談事例がありましたか。(○はいくつでも)

1. セクシュアル・ハラスメントとみられる相談があった

2. パワー・ハラスメントとみられる相談があった

3. マタニティ・ハラスメントとみられる相談があった

4. その他 (具体的に)

5. わからない

6. いずれもない

■ 育児・介護との両立支援についておたずねします。

問 11. 貴事業所では、男女がともに育児・介護をしながら働くことについて、現在、取り組んでいることはありますか。また今後、取り組みたいことはありますか。

	現在 又は既に 取り組んで いる	今後、 取り組ま たい	取り 組む予 定はな い
(○は①～⑩それぞれに1つ)			
①育児・介護における休業制度の導入	1	2	3
②育児・介護休業中に給与の一部や手当を支給	1	2	3
③看護・介護休暇や学校行事へ参加しやすいような、家族のための休暇制度	1	2	3
④事業所内託児所を設置	1	2	3
⑤休業中の情報提供など、職場復帰をしやすい配慮	1	2	3
⑥子育て・介護を理由に退職した従業員の再雇用制度	1	2	3
⑦男性の育児休業・介護休業の取得の促進	1	2	3
⑧短時間勤務やフレックスタイムなど弾力的な勤務形態を 運べる	1	2	3
⑨半日又は時間単位で取得できるような休暇制度	1	2	3
⑩有給休暇の計画的な取得の推進	1	2	3

問 12. 貴事業所において、仕事と育児や介護の面立支援を推進しようとする場合、どのような問題があると思いますか。(〇はいくつでも)

<div><div>1. 日常的に労働時間が長い部門・事業所がある</div><div>2. 全体的に休暇取得率が低い</div><div>3. 育児休業や介護休業が取りづらい雰囲気がある</div><div>4. 育児休業や介護休業などによる代替要員の確保が難しい</div><div>5. 業務の効率や質が落ちる</div><div>6. 育児・介護支援に関する管理職の認識が不足している</div><div>7. 育児・介護面立支援制度の導入には、コストの増加が伴う</div><div>8. 情報やノウハウ不足により制度の運用が難しい</div><div>9. 育児・介護面立支援の効果が、事業所として数値で実感しにくい</div><div>10. 公的及び民間の保育・介護サービスが不足している</div><div>11. 社会通念上、男性が育児・介護に参加しにくい</div><div>12. 休業することによって収入などの面で不安があるため、従業員が利用を望まない</div><div>13. その他（具体的に</div><div>14. 特に問題となることはない</div></div>

■男女共同参画に関する今後の取組についておたずねします。

問 13. 今後、事業所が男女がともに働きやすい環境をつくるために、行政に対してどのようなことを望まれますか。(〇はいくつでも)

<div><div>1. 広報誌やパンフレットなどで、事業所に向けての啓発を行う</div><div>2. 男女共同参画や女性の能力開発のための講座やセミナーを開催する</div><div>3. 事業所が行う研修会などに、講師の派遣や紹介など協力する</div><div>4. 結婚や出産、育児退職後の再就職及び能力開発の機会をつくる</div><div>5. 男女共同参画に関して、事業所や労働者のための相談機能の充実を図る</div><div>6. 男女平等に向けた雇用・労働条件確保のために、指導的役割の強化を図る</div><div>7. その他（具体的に</div><div>8. 特に何もない</div></div>
--

■最後に、男女共同参画社会の実現に向けて、ご意見・ご要望などがございましたら自由にご記入ください。

--

ご協力ありがとうございました。
この調査票は、2月24日（月）までに、同封の返信用封筒に入れて、ポストに投函してください。

令和元年度
木津川市男女共同参画についてのアンケート調査報告書

令和2年5月
発行：木津川市 市民部 人権推進課 男女共同参画係
〒619-0223 木津川市相楽台4丁目3番地（女性センター内）
TEL:0774-72-7719
FAX:0774-72-1399